

江戸名所圖會
十二

西垣文庫

文庫10

6556

11



文庫10
6556
11



江戸名所圖會卷之四

天權之部 目錄

市谷八幡宮 いちややまはちまんぐう
 藥王寺 やくおうじ
 大窪映山紅 おほくぼえいざんこう
 澄明神洞 じやうめいじんどう
 中野成願禪寺 なかのなりけんぜんじ
 寶仙寺 たからせんじ
 阿作谷神の宮 あさくやかみのみや
 慈宏寺 あまのこうじ
 金井橋 かねいばし
 神樂坂 かみらくざか
 閻魔堂 えんまどう

松源寺 しょうげんじ
 若文八幡宮 わかにやまはちまんぐう
 津久戸の神社 つくうのしんじ
 井頭辨財天宮 いごうべんざいてんぐう
 堀の内妙法寺 ほりのうちめうぼうじ
 中野長者昌蓮墓 なかのちやうぢやうぢやうれんぼ
 自證院 じじやういん
 淀橋水車 いづはしづまぐるま

月桂寺 げつけいじ
 七面大明神社 しちめんたいめいじんじ
 西迎寺 さいげいじ
 角筈十二所権現社 つのまがらひにじふにしろごんげんじ
 中野 なかの
 桃園 うづみ
 大宮八幡宮 おほみやまはちまんぐう
 井沼池 いぬまの池
 築土八幡宮 つくつちまはちまんぐう
 以元寺 もともとじ
 正覺院 しやうかくいん

安養寺 あんやうじ
 該坊明神社 かいはくめいじんじ
 圓照寺 えんていじ
 中野七塔 なかのしちたつ
 桃園觀音堂 うづみくわんおんどう
 幡ヶ谷不動堂 はたがやふどうどう
 達坂 たつざか
 牛込城址 うしごのしろ
 赤城明神社 あかぎあけみじんじ



涉殿山 大友松 幸國寺 感通寺 全川 寶泉寺 百八塚 荒園山 氷川明神社 落合土橋 木花園神社
 海松寺 宗柏寺 願満祖師堂 三玉傳末子手親世音 高田八幡宮 高田富士山 高田天満宮 山吹の里 傍石橋 右橋 奥州橋 后杜橋神社
 豊後小侍従大友義延舊館之地 宗冬寺 早稲田神社 昆沙門堂 宗良親王陣營旧址 高田馬場 三浦山 姿見の橋 氷川明神社 宿坂園舊跡 春雲寺
 子手院 赤城の神舊地 誓閑寺 戸塚 和戸山 高田七面堂 南苑院 七曲坂 全榮院 一枚岩

落合堂 全別寺 大洗堰 泊留橋 岡田八幡宮 大慈寺 雑司谷鬼子母神出現所 雑司谷鬼子母神堂 法明寺 大正院 蓮成寺 小石川 光圓寺
 牛天神社 道祖神祠 新隠庵 小村季吟翁別荘地 大塚 氷川明神社 水神社 道山幸神祠 本傳寺 室橋巢先生墓 護心寺 本淨寺 宝城寺 本納寺
 飯訪明神社 大日堂 八幡宮 目白不動堂 波切不動尊 護持院 清立院 本納寺 法卷川 傳通院 光圓寺

本木茶師如來

五量院

氷川明神社

猫狸橋

宗蓮寺

清の茶師如來

病者圓橋

十羅刹女宮

親音堂

石井井城址

膝折里

龜波田彈正回館地

宗慶寺

白山神社

十羅刹女堂

子系家城址

大堂

子系家古城址

三寶寺

氷川明神社

石井井城址

宗屋

西院

浄茶園

菓鴨古性寺

板橋澤

木下稻荷祠

慈母權現宮

松月院

次上親音堂

三寶寺池

練馬城址

内川

祥雲寺

療病院

廣申塚

板橋系

清水坂

一夜塚

赤塚の神祠

練馬長命寺

愛宕權現宮

照日塚

立時舊跡

十玉院

野火留

狭山の池

曼荼羅淵

山に雲

新垣玄蕃居住地

東迎寺

薬王寺

新名物顯寺

子安清水

大氷氷川神社

尾塚

平林禅寺

安松長源寺

狭山の池

水源寺

小倉差系

勝樂寺

山信彦三郎回址

還車阿弥陀如來

戸田川渡

官本報川神社

源田出羽守資忠城跡同墓

八圓山

飽間齋夜氏墓碑

山に親音堂

箱の池

所澤

羽黒権現宮

治川義行居城回址

新栄寺

焼米坂

調神社

兼河系

東光寺

將軍塚

之米川

小野天神社

堀兼井

新栄寺

焼米坂

調神社

兼河系

東光寺

市谷八幡宮 市谷御門の外より別當八東圓寺と号を南紀

高野山金剛峯寺の属して古義の真言宗なり

本社祭神 應神天皇 甲冑の神 軀中 柱古 檉州 多田の廟あり 太田持資の

佛の愛深明王なり 本地 東八神功皇后 應神天皇の 西八妃大神 室滿菩薩 三

神鎮座 稻荷祠 當社地主の神あり 石階の中段左の方あり 世俗 茶の

神の産子ハ毎歳正月三の酉祭と飲む 眼疾と患ふ者ハ一七日又三七日と日教と

社記曰 文明年間 太田持資 江戸城擁護のため 小相州 鶴岡の八幡

大神を勧請し 山林及び 神田等 若干を附し 東圓寺を創建

を 山号と 稻嶺といふ 此地より 稻荷の社あり 地主の神と 又自親松推考此

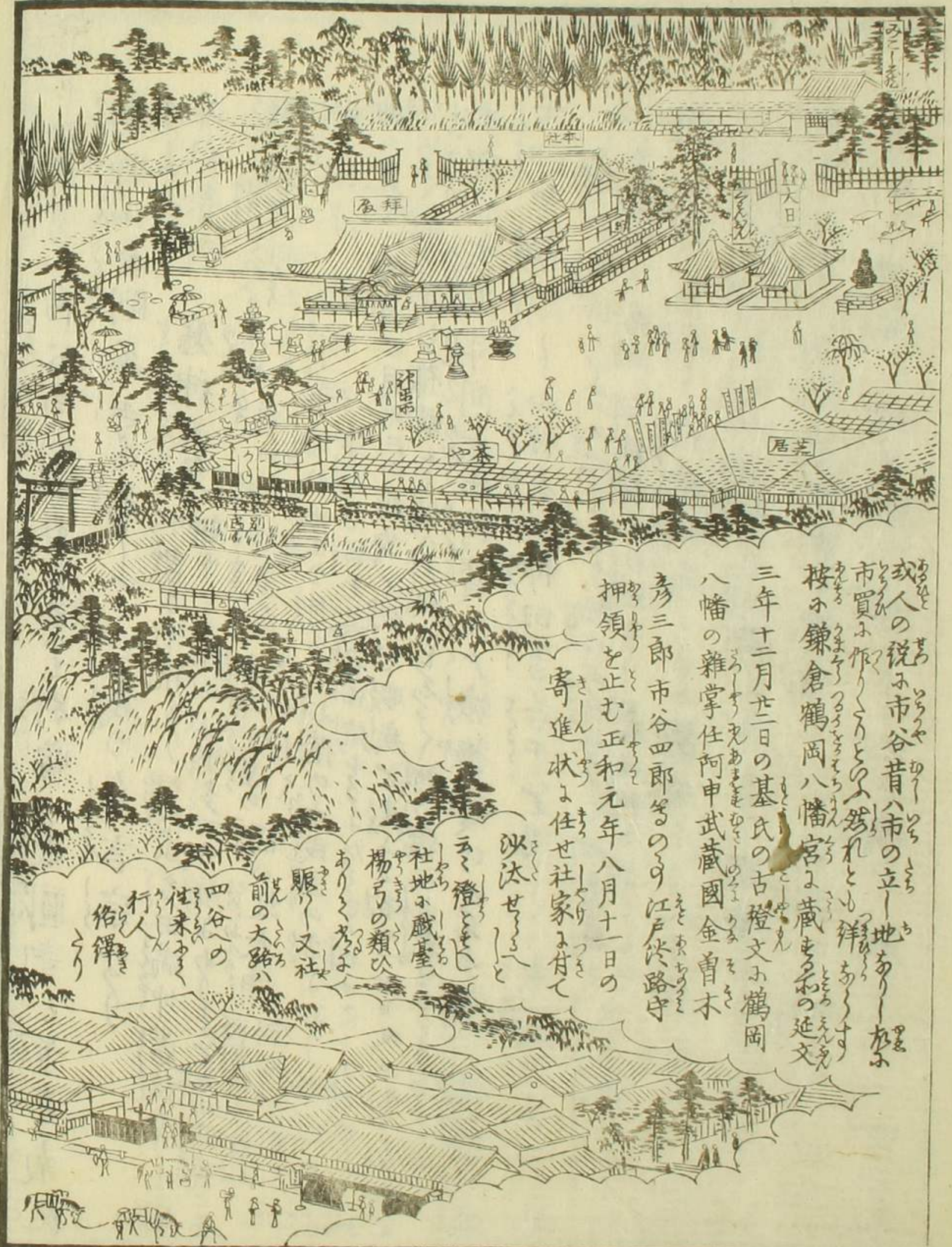
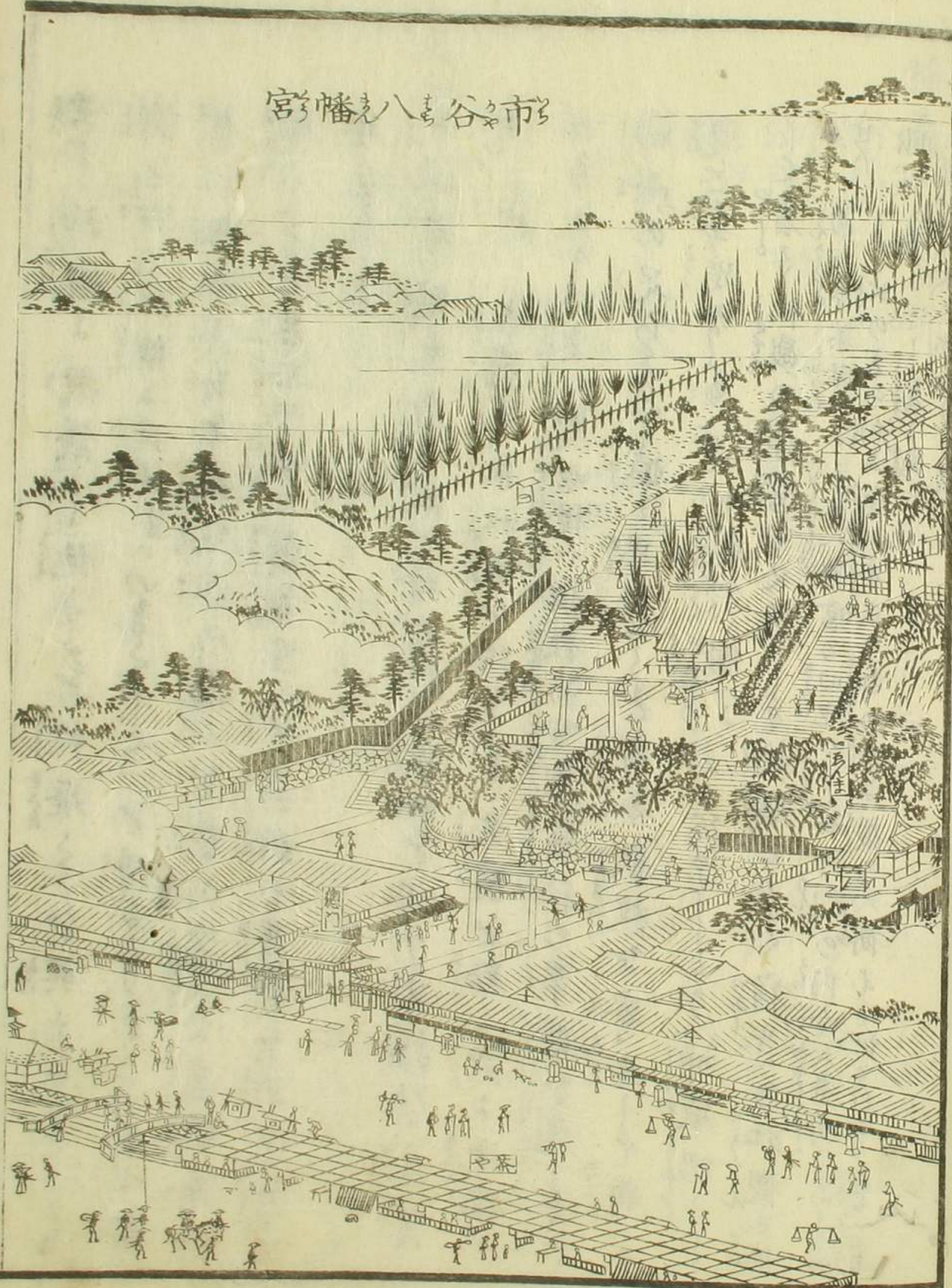
樹を栽す 社本と 社壇 城廓との 繁榮ありんを 祝を 土俗道灌

枝葉 繁盛と 平後 天正年間 兵燹より 罹り 破壊せしを 慶長年間

別當 源空 以僧都 此額基と 憤激し 己う 餘鉢を 傾け 百歩許の

遺址と 點檢し 州を 結ひ 檐と 木を 伐り 扉と 一字を 再

市谷八幡宮



或人の説ふ市谷昔八市の立地ありて
 市買小作りなりとの然れども詳あり
 按小鎌倉鶴岡八幡宮に蔵まるとの延文
 三年十二月廿二日の基氏の古燈文に鶴岡
 八幡の雜掌任阿申武蔵國金曾木
 彦三郎市谷四郎等のより江戸路守
 押領を止む正和元年八月十一日の
 寄進状に任せ社家も付て

必込せし
 云々澄とま
 社地の感臺
 楊弓の類ひ
 ありくろ
 賑又社
 前の大路
 四谷の
 往來あり
 行人
 俗傳

嘗し神殿は擬儀し絶つるを継廢しを興せ然もとを
諸を古の壯觀に比せられはつる十之一を得たりありあつて唯幣
帛を捧げ菜具を盛宝祚の萬々を泰山の安に置武運の
綿くくを芥石の長に護兼て又萬姓の豊樂を祈るなる
取なりし

大神君 關東河入城の時當社の来由を問ひしに
河三代 大將軍家社領を附せしを朱璽を賜ふ然も元祿十
五年壬午の夏 賢母後一位桂昌院殿當社の事蹟を聞しむれ
神輿の足らざるを憾と思はせしを黄金教杖を寄捨して新
是を奉造なりしと神輿全く備ふる 志の河よりより 神威昭くと
して著く社殿の徑宮も又つり 輪煥とく宿昔の壯觀は倍
なり 南向亭茶話云く市谷八幡宮の旧地は市谷中門の内今大番所
の地は北の方の向ふ角山本氏の邸の隅に樹あり地これあり寛永
年神輿を神木と稱せしなり

稻荷山藥王寺

東光院と号し同所より西北の方河田窪より

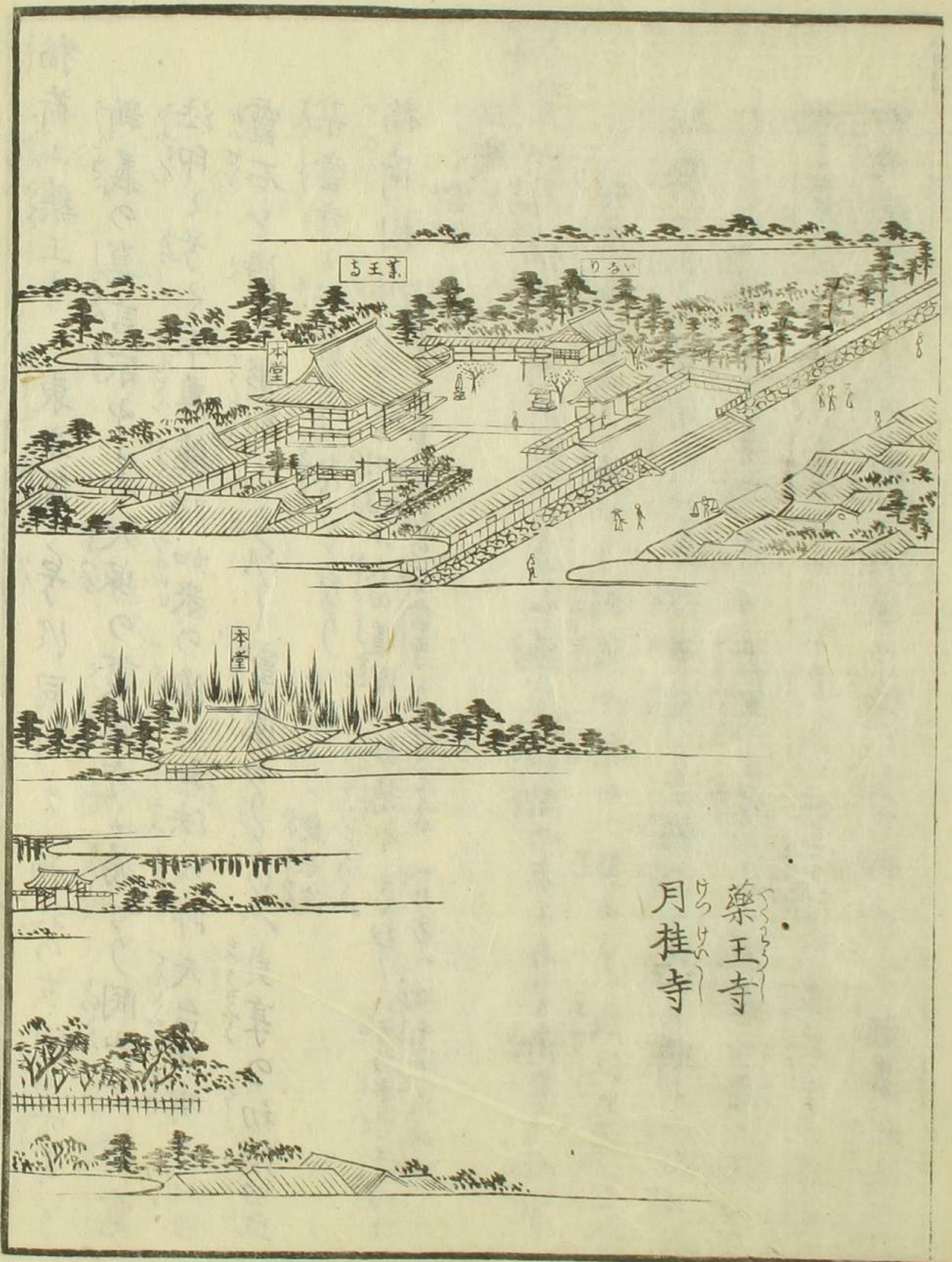
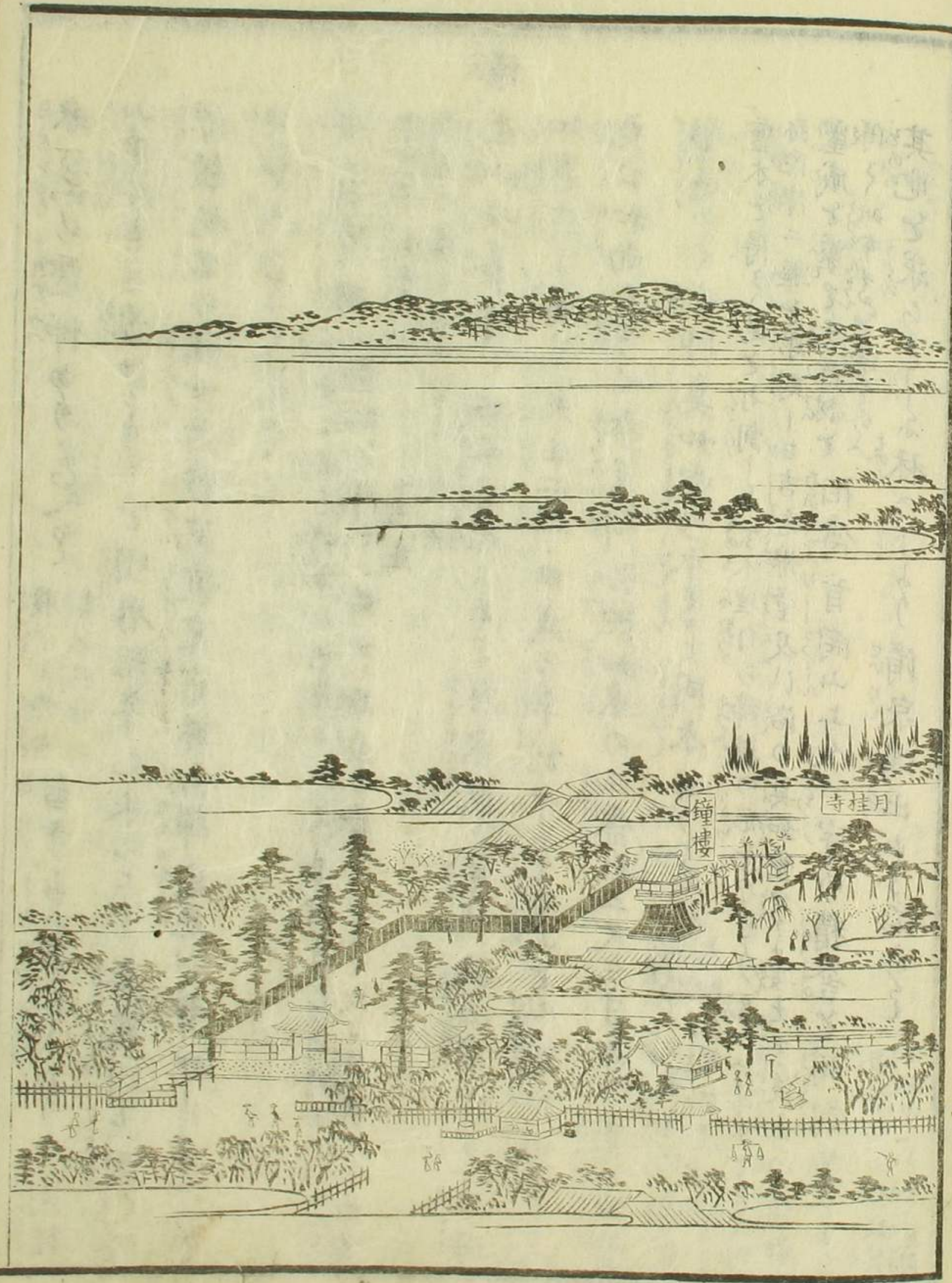
新義の真言宗ゆゑ大塚の護國寺に属せり関山と澄覚
法印と号く本尊藥師如来の像ハ弘法大師天台四明の洞の
靈石を得て彫刻しあり 靈像ありとのみ 貞享の初須田氏
某當寺に安置なり 當寺昔ハ愛染院

稻荷祠 境内にあり 相傳ふ太田道灌の勸請なり 北の方へ
遷す後又此地へ

正覚山月桂寺

同所三丁を隔て西南の方あり 濟家の禪林に

鎌倉圓覺寺に属せり關東十刹の一員なり 淡江氏通玄院
徹齋の創立喜連川家の香華院より總門に掲る額ハ正覚山と
あり 南禪寺の普濟禪師宗寬の書なり 鐘樓の額ハ華應
閣と署せり 香山侯書あり 當寺ハ文祿年間の基立し 雪山
和尚開山なり 本尊釋迦如来の像ハ天竺佛中より 鑑真和尚携



藥王寺
月桂寺

来りぬの靈佛ありと云ふ
山平安寺と号けりしと明暦元年己未のとき喜連川左衛門督
源頼純君の嫡女月桂院龍室宗珠大禪定尼と葬せしり寺
号と改むると云ふ

安産寶珠 當寺は安産將軍足利尊氏公の臺所を所持ありしとあり
此靈珠と拜する婦女ハ難産の憂なきと云ふ大ニ崇敬せり始當
寺と平安寺と号けりしと出產
平安の意はよるなりん歟

清光山安養寺 市谷谷町にありし林泉院と号けり浄土宗なりし京師
知恩院は屬す天正二年甲戌の草創なりし岡山と心蓮社深養上人
貞公和尚と号く本寺阿彌陀如来の立像ハ三尺三寸あり恵心僧都
彫造ありし京師真如堂の本寺と同本なりとの云

靈木を得て是と打割りし木理自ら佛髯の形とせり
相傳ふ天長年間慈覺
大師江州苗鹿明神あり
弘陀佛二軀と彫刻し日吉念佛堂及い浴の真如堂等に安んず
靈威を蒙りて牙餘材と相傳昔岡山上人一字の精舎と創創せんと
傳く此木を造ると云ふ

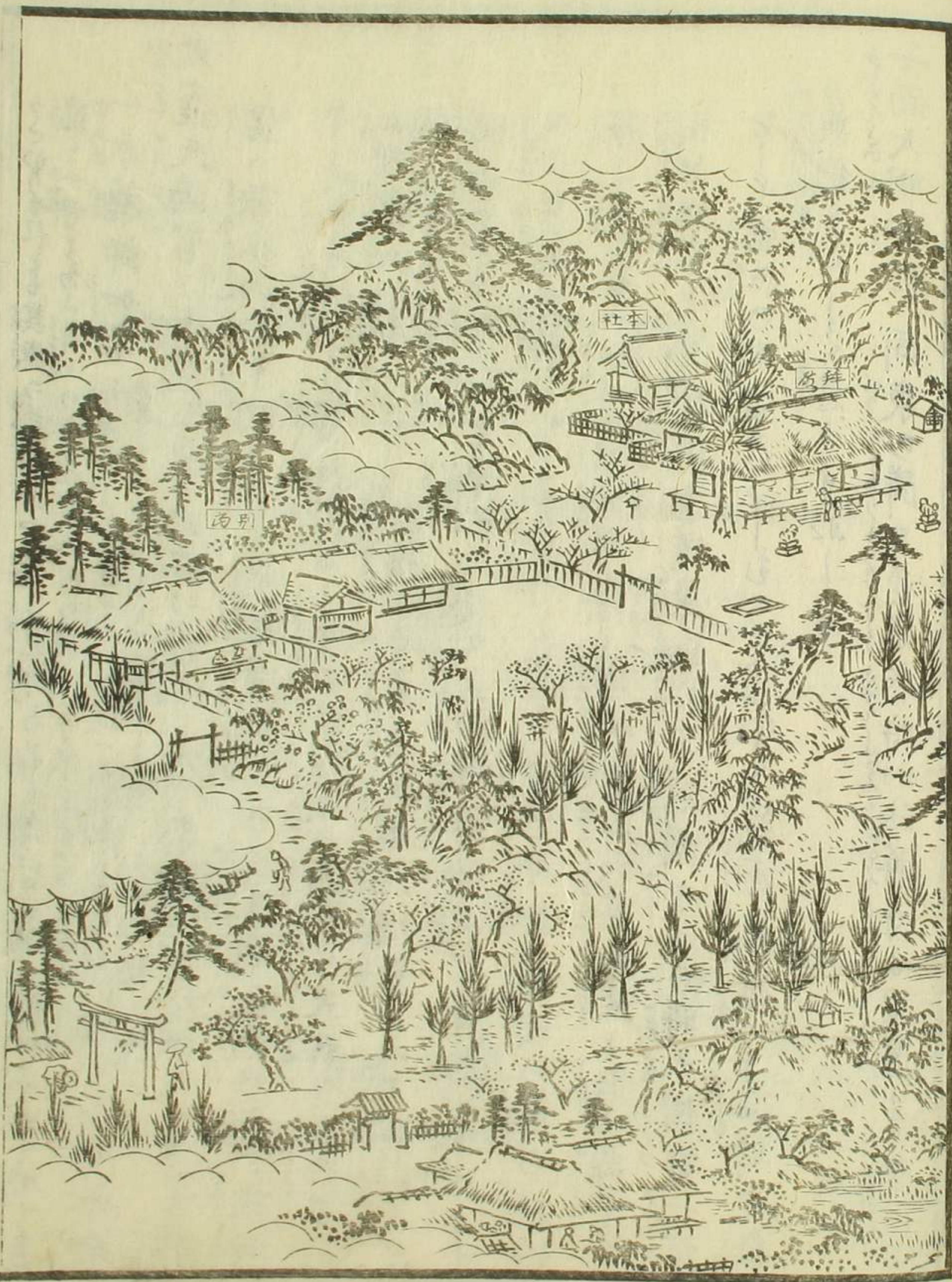
其地と求めし林の下より清泉涌出せり云々
市谷富士見坂其
旧地なりし今尾陽

公館の内 又傍は小き洞ありし中より一足の白狐頭をかく深養
上人は見え恭禮せり如く依り靈地なりとの推知し其地の主
島田氏某は乞得て其地は梵宇と建せり
明暦二年丙申此年
稲荷祠 境内にありし方治元年己卯朔日の夜白狐の老翁住居秀養上人の愛に
上人は見え告げし白狐ありと直に稲荷明神は勸請せり又此項此地は宇田
國宗の俗間火防稲荷と稱す
此神の加護より火災を免れり

八幡宮 同く境内にありし雲州の尼子伊豫守經久城内の鎮守は崇徳元
造立せり後月輪殿下兼實公の家は經久の作なりし祐安元年詔せり
當寺は後覺僧都の持傳へし法性寺の後先佛ありし浴の主生寺同本の地藏
寺と安置す

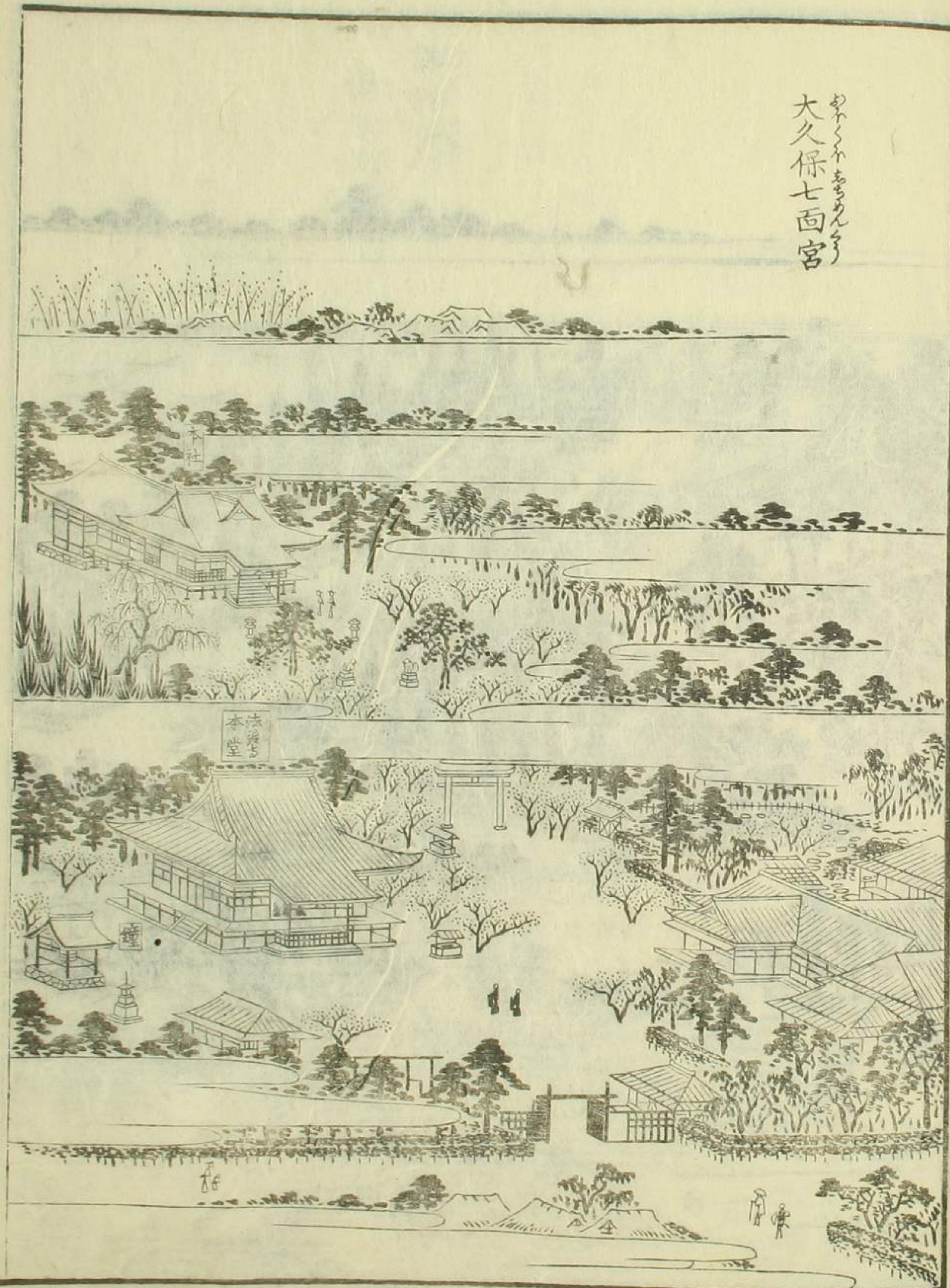
七寶山藥王寺 同所西南の方よりし間四丁半を隔り黃檗派
の禪林中に山城宇治の萬福寺は屬す昔ハ真言宗の古藍あり
しもの中古大ニ衰廢し終ニ草庵の形のみなりしと元祿の頃凌
雲禪師與復せしと云ふ

海音院の判髮し後黃檗とありし江戶は此所は典廐の外孫ありし同國小諸曹洞宗
の寺院とせんを謀りし人とも云ふ寺院を新建せりハ官禁ありし



大窪天満宮
 社壇西向へ
 西向としひ又ち
 東の天神と掛
 ましり東の東曲
 ちくく境内
 まさつ出違あり

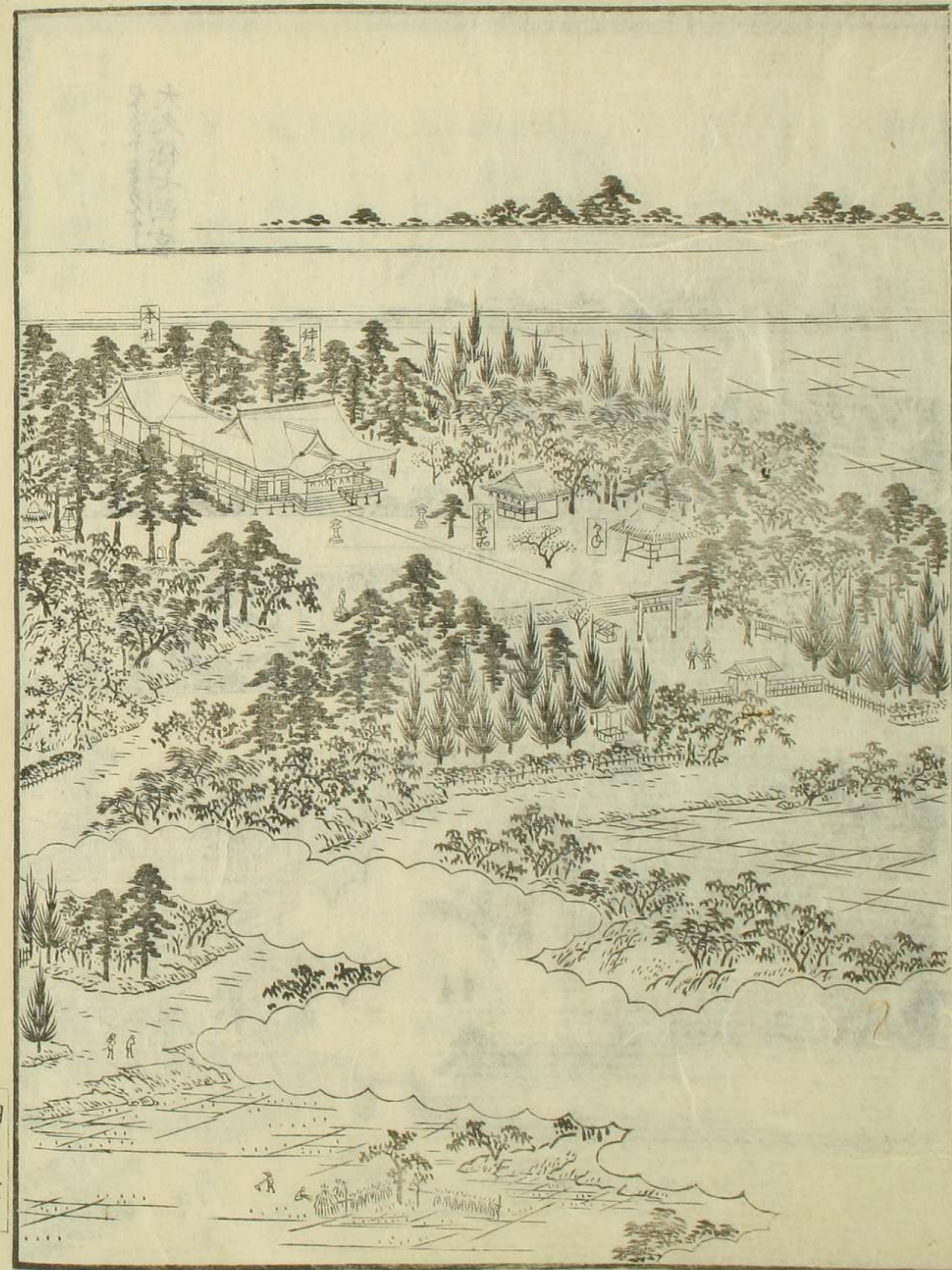
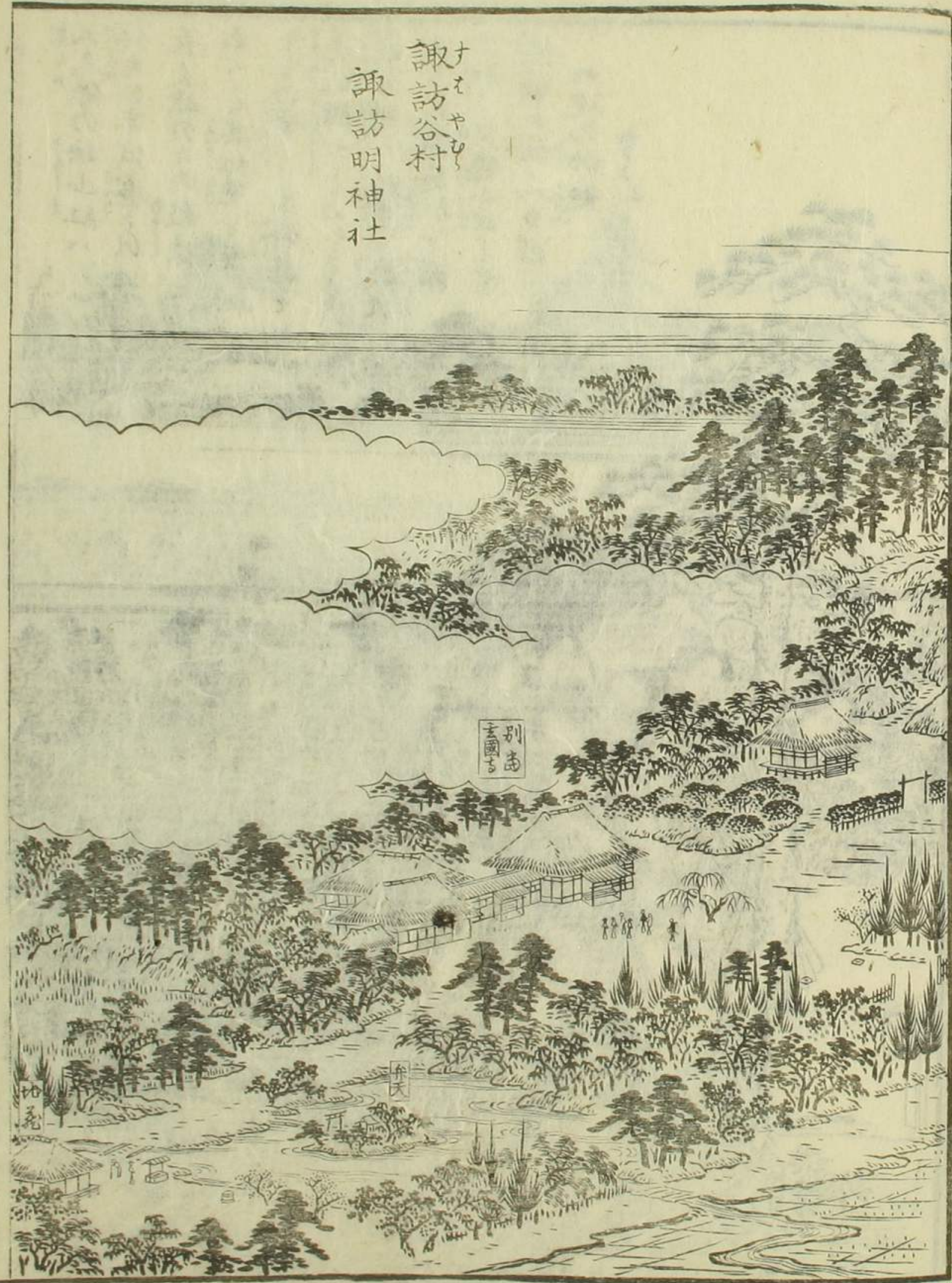


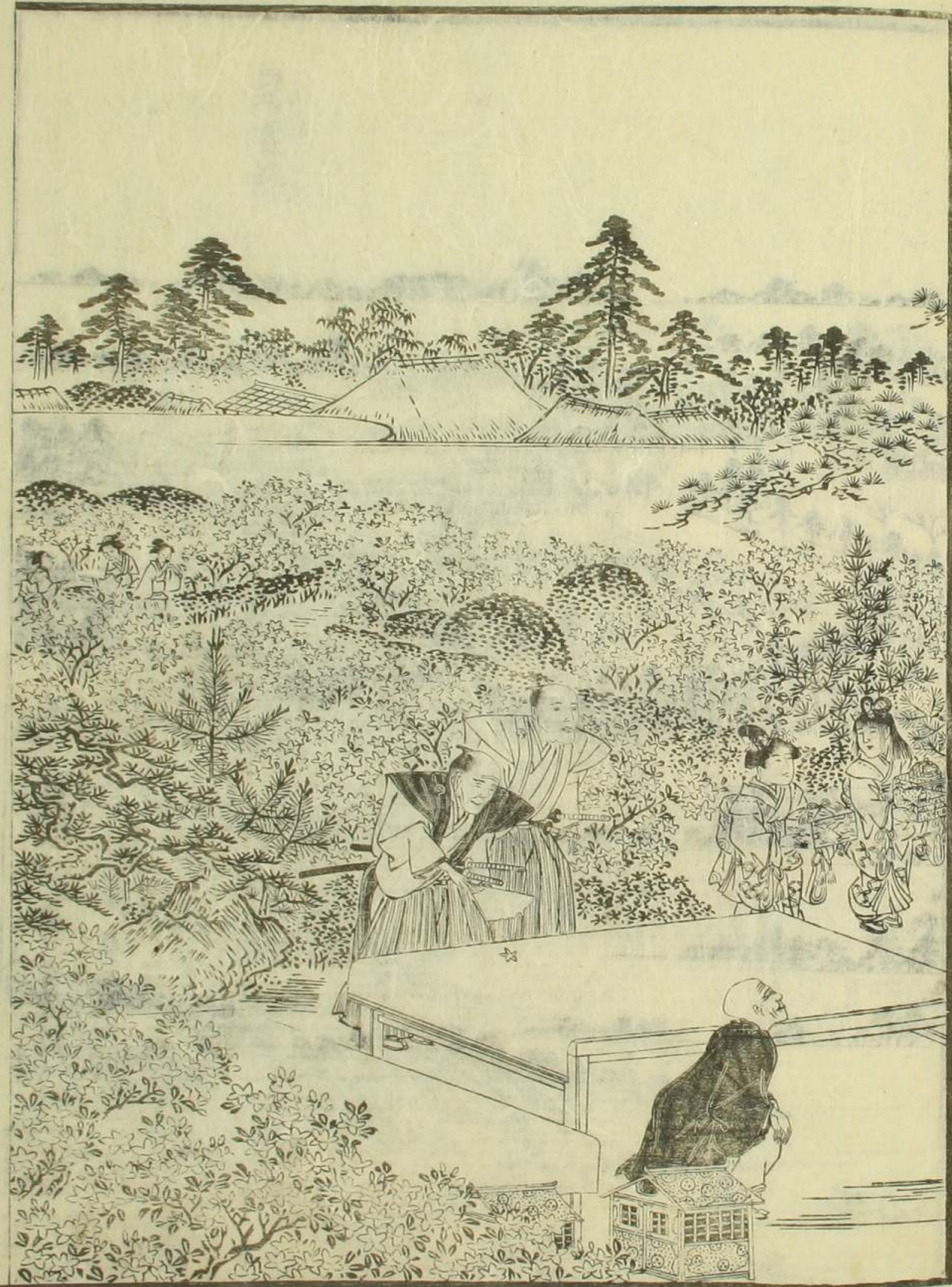


大久保七面宮

其徳の至るや竟に免許ありて江戸の中八箇の庵室と骨の
 悉く一寺とある青山の海蔵寺深川の勸祥寺等ゆゑも其中ありとあり
 一木薬師如来 同境内に安置を田八赤坂一木の地に立せしむる行基菩薩創建
 大窪天満宮 大窪にあり此地の鎮守とす祭禮ハ六月廿五日なり別
 當ハ梅松山大聖院と号して聖護院宮の直末本山派の江戸役所
 中ノ大先達より當社を世に承の天神或ハ西向の天神とも称せり
 社壇西に向ふ云ふ一相傳ハ安貞年間梅尾明恵上人の勸請にて
 東と稱する来由多し
 明慶覚運等は是を奉祀を後又太田道灌神田を寄附す然るに
 天正年間兵燹おかりて烏有となり頃を神跡溪間の櫻の枝に
 移り止りあり其本と瑞現樓と号く此時青山氏某郷人と共謀りて
 祠を經營を聖護院宮道晃法親王東國下向の時大僧都元信
 とて當社の別當たりむろふ地々寝廟漸備り四時の祭
 典綿々として怠るる事
 七面大明神社 同東の隣日蓮宗春時山法善寺に安置す祭禮を

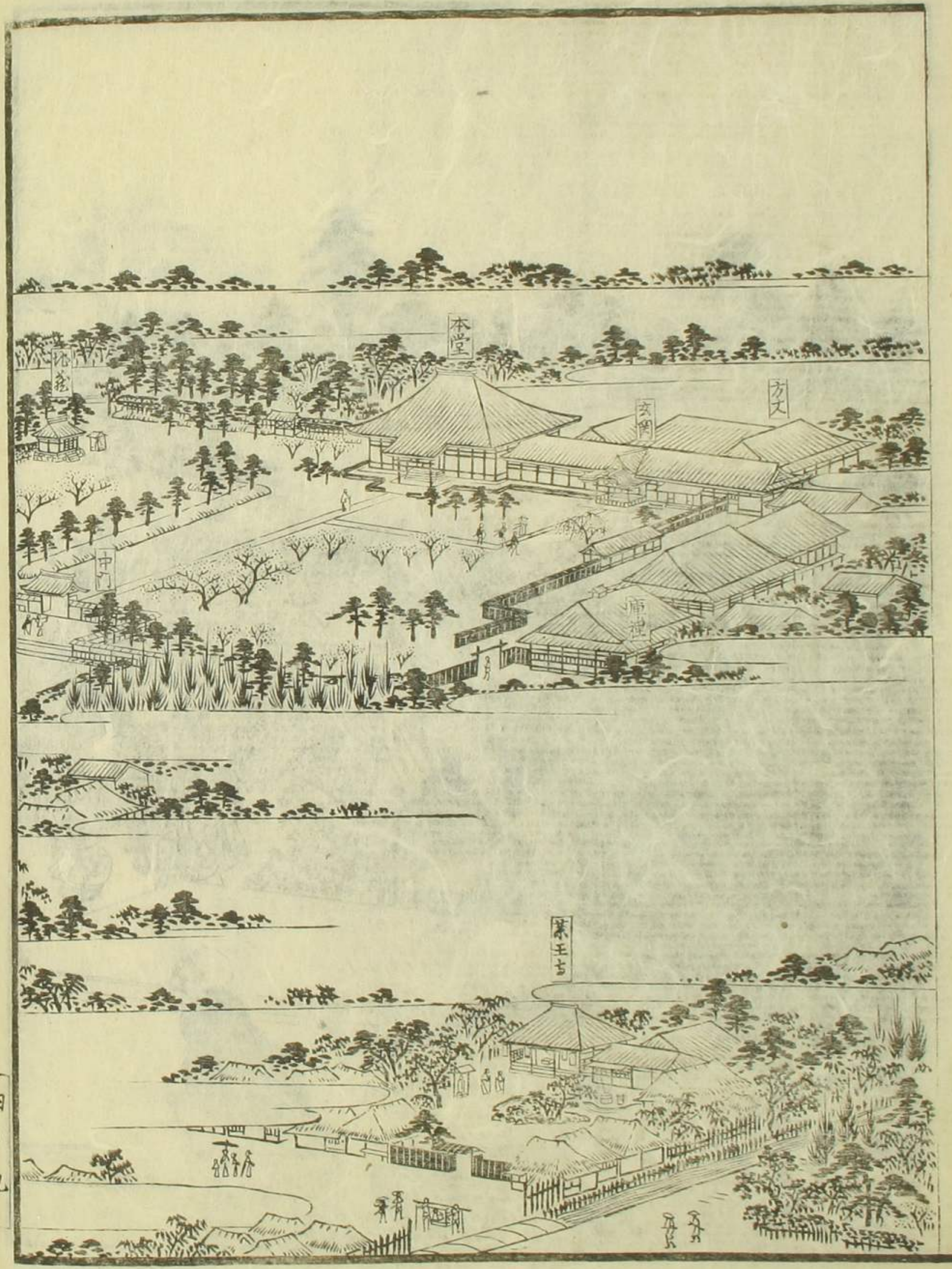
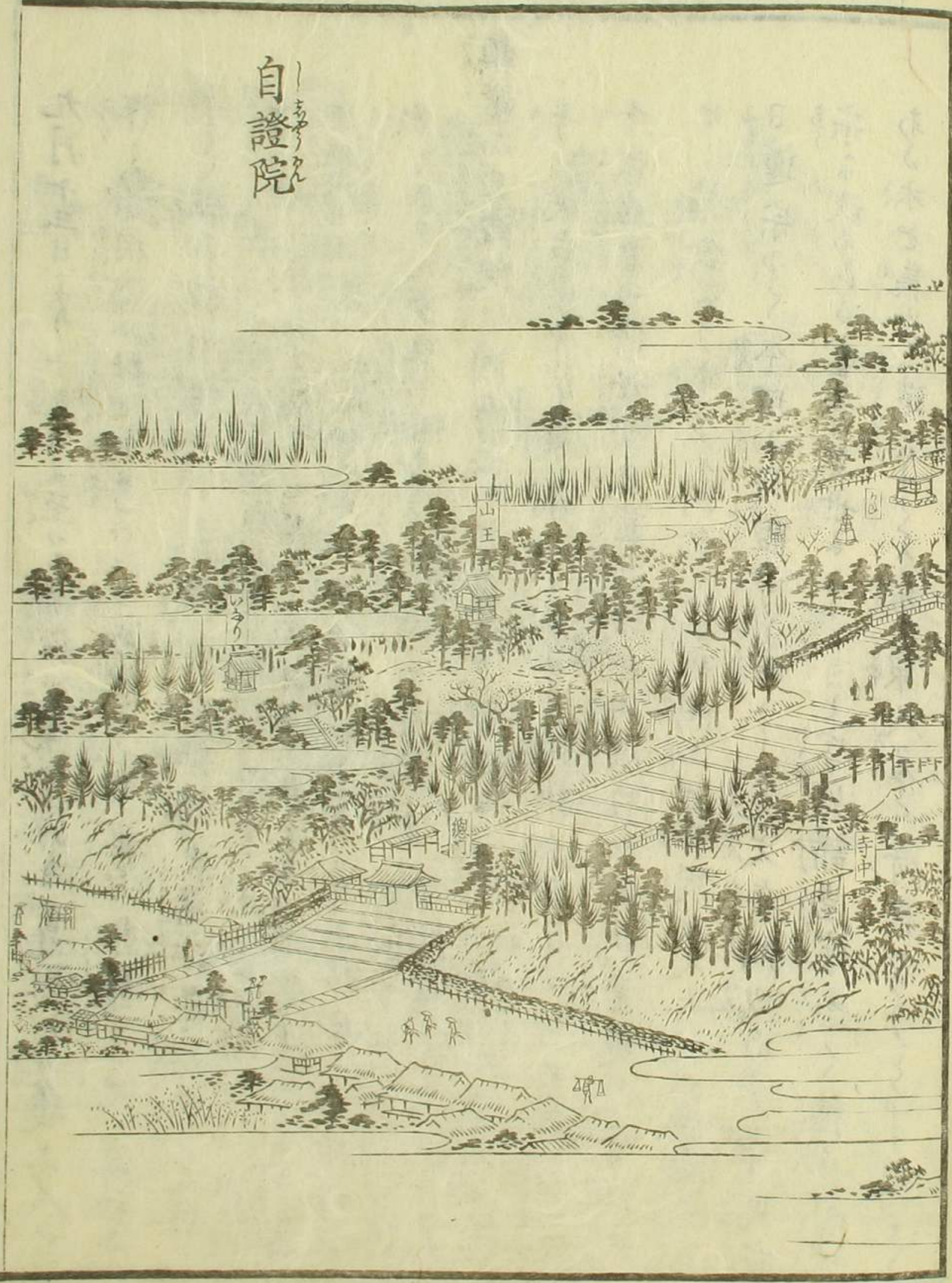
諏訪谷村
諏訪明神社





大久保の映山紅ハ
 弥生の末次盛と云
 長丈餘のりの萩株
 ありと其紅艶と愛
 するの輩こそ小群遊を
 花形微妙と云々も
 叢り開く枝莖と蔽ひ
 さくら満庭紅と灌
 う如く夕陽小映して
 錦繡の林沐るは
 此辺の壯観
 ありん

自證院





明鏡神社

圓照寺

鎮護山自證院

同所西の方道より右側あり

饅頭谷と云 圓融寺と

号は天台宗なりて東嶽山に属せり尾州亜相光友卿の沔簾中
 千代姫君の沔母堂自證院殿光山曉桂大姊沔菩提のふお開創
 せし精舎なり本名ハ阿弥陀如来開山と日須上人と号は當寺始也
 日蓮宗より本理山自證寺と唱へし元文年間故ありて天台
 宗に改めらるる當寺とせしや一寺と字は諸堂宇悉く種々此節
 ある木を集めて造立ししるお衆人よく奇異なりとす因る

九月十三日より十九日に至り誦經說法等あり尊影八日護上人の
 作との相傳ふ此七面宮ハ江戸の地ハ七面宮を勸請するの最初ハ

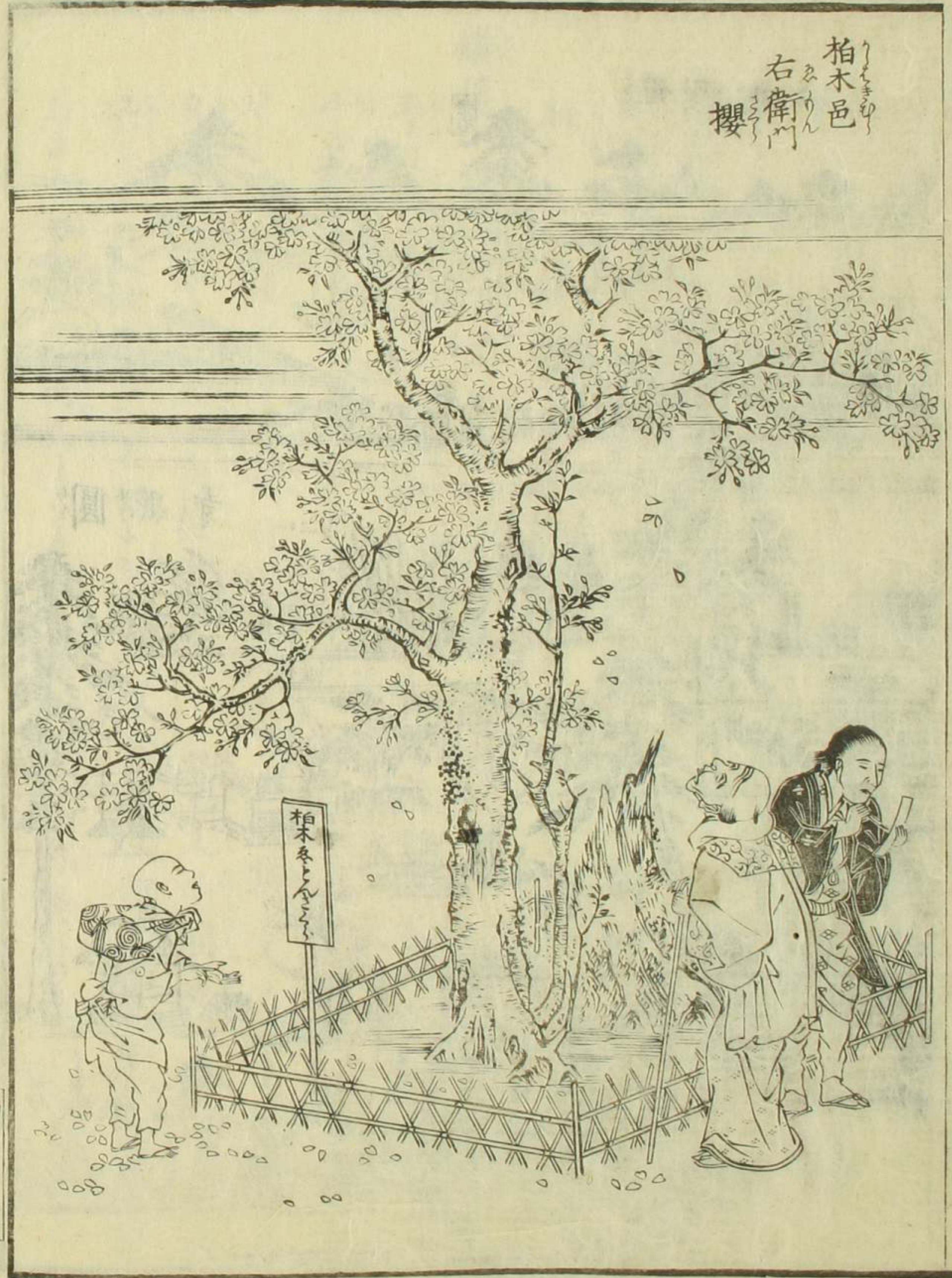
往古駿州大久保ハ三澤氏某勸請を萬治年間當寺へ移し

或人云三澤氏ハ小次郎政廣と云後河國富士郡大鹿村

院法性日弘或ハ云延寶年間甲州身延山より移す境内櫻樹

多ありて弥生の盛をとて一時の奇觀とせ寛文三年より此神前より

柏木邑
右衛門
櫻

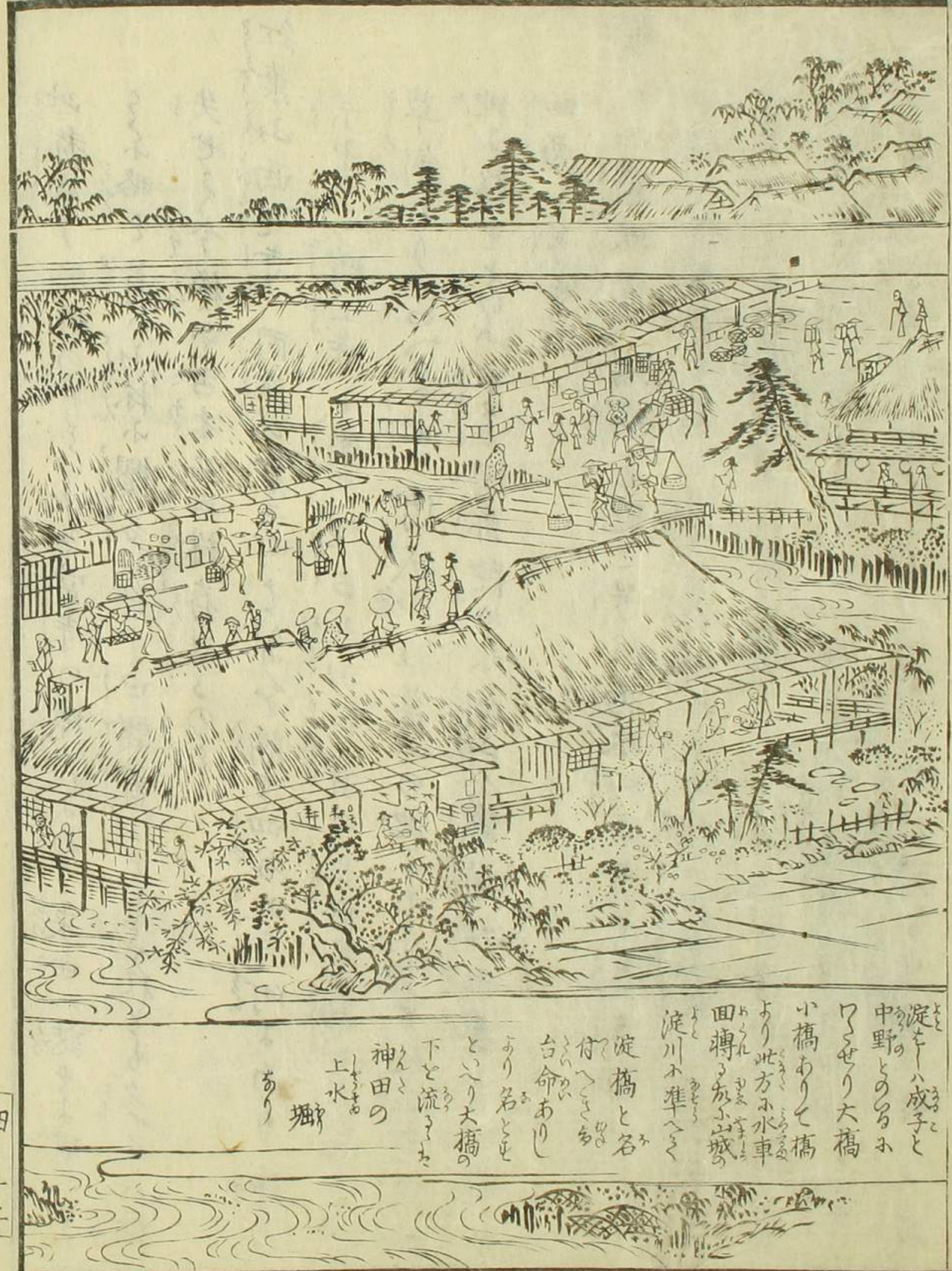
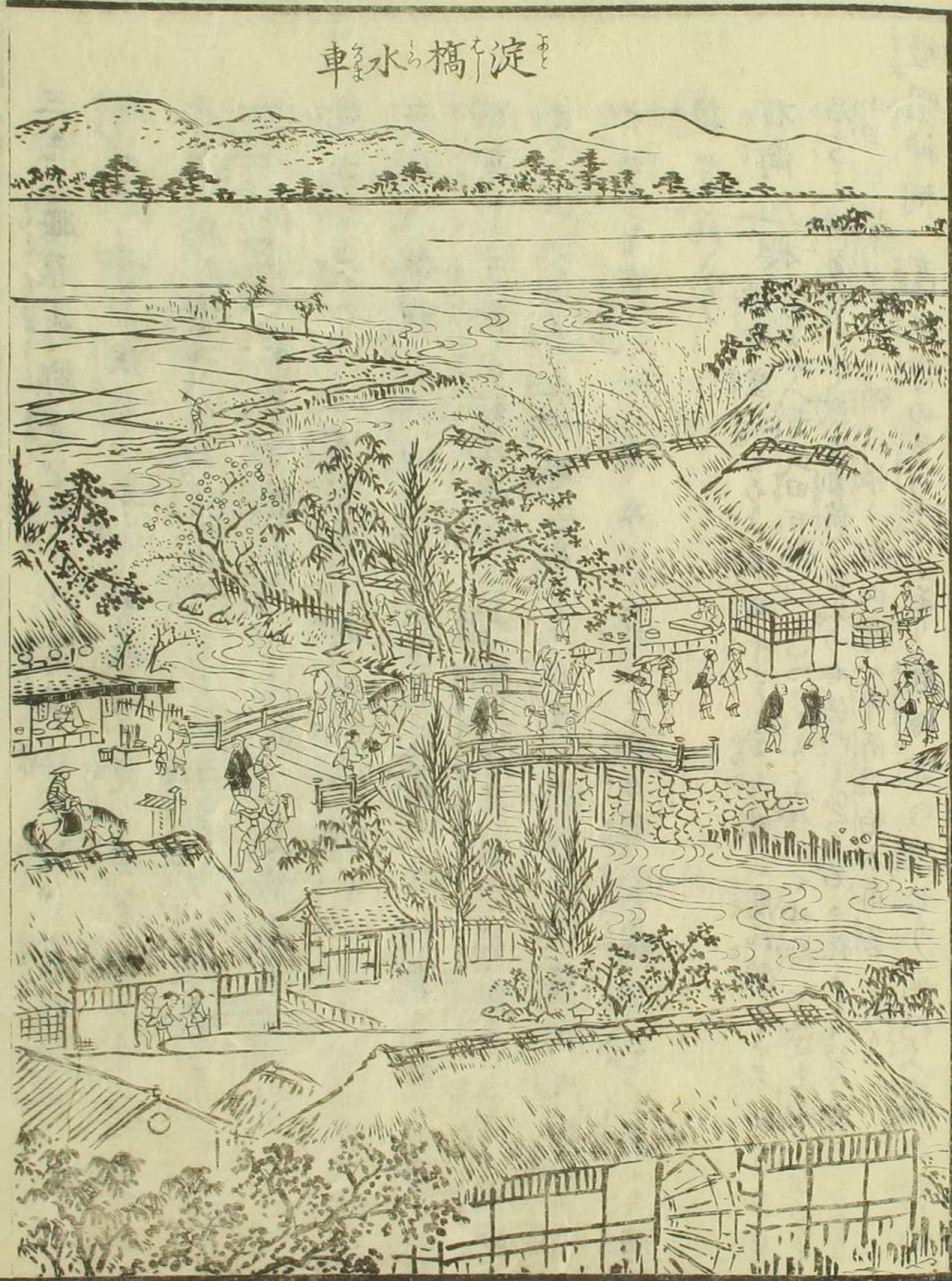


此稱あり蜘蛛の井とのあり當寺の境内にあり来由ハ誌にも堪へず
 小略を背ハ山林小櫻多し由諸書に足るれども多くハ枯
 失せ今僅小古木二三株存せるの

紅葉山西迎寺 同巽の方二町を隔て四谷北寺町にあり浄土
 宗中て増上寺に属せ往古太田持資の臣伏見勘七といふ人の
 草創なりといふ旧ハ御城中紅葉山の地にありとて天正の後此
 地に移せといふ本多阿弥陀め来開山ハ儀蓮社仁譽上人存公
 和尚と号せ

醫光山圓照寺 瑠璃光院と号ハ柏木村にあり真言宗なり
 田端の興樂寺に属せ本多薬師め来の像ハ行基大士の作朕士ハ
 日光月光の二井なり又左右の壇上ハ十二神将の像を安け相傳ふ
 醍醐帝の御宇理源大師の法弟荒波の貞宗僧都此像を此地に
 安置しなるといふ兼平二年壬辰平将門威を東関に振入天慶

淀橋の水車



淀川ハ成子と
中野との間に
ワセリ大橋
小橋ありて橋
より此方水車
回轉するは城
淀川ハ準へ
淀橋と名
付てあり
台命あり
あり名と
とへり大橋
下と流る
神田の
上水
あり

三年藤原秀郷是を亡きんう為軍勢を帥く當國中野に至る
時右の臂は疾あり軍中醫菜なく大は是を憂ふ夜靈示
あるを以て當寺の本を祈り病苦忽ち平愈せり其時又
將門征討の願書と献き果しく將門を誅戮せ故に凱陣の後
堂宇を建立しく圓照寺と号し其後建仁二年壬戌に至り江戸
民部大輔頼助修營ありと云ふ弘安八年兵燹は罹り佛宇
回祿を至る後永仁元年癸巳頼瑜僧正茅宇と普覆し日記と修補
ましくとも天正中越の景虎此地は戦ひ一頃復兵火の爲に廢
亡せしを寛永十八年辛巳に至り春日局官裁を乞て重く修
復せしめり

右衛門櫻 當寺堂前より單辨やう芳香殊に勝れ類あり名樹なり里
名は櫻ありと云ふ昔武田右衛門といふ人住んで此櫻を愛せし相木村あり
小田原北条家の所領後帳に徳部惣四郎所領相木村あり
圓照寺の良の方あり圓照寺の持あり相傳へ藤原秀郷
燈明神祠

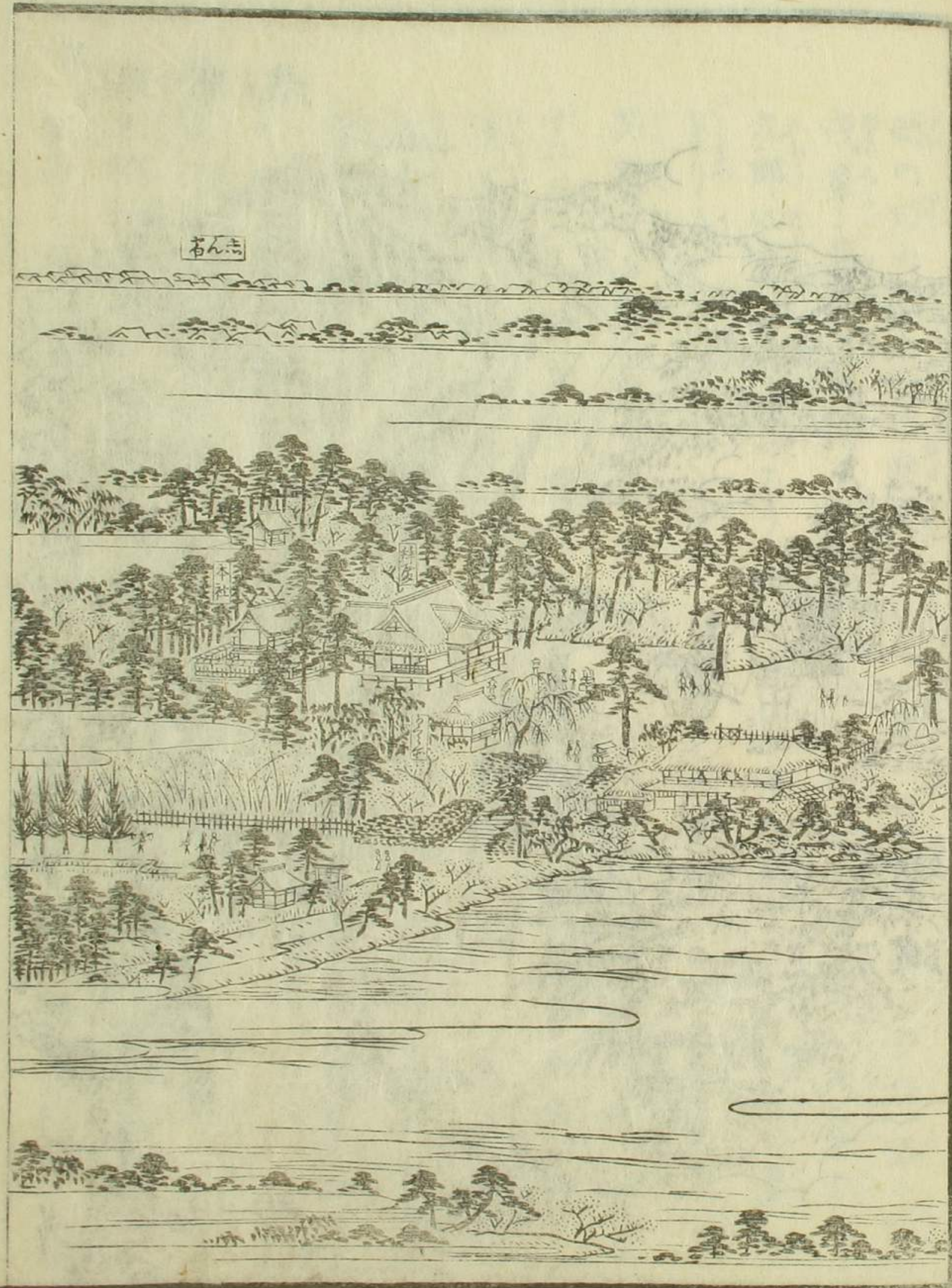
將門を誅戮し凱陣の後將門の鎧を此地に埋藏し上は充倉を
建く燈明神と稱せし社前は兜松と稱する古松あり是も其
兜を埋くる印と云

淀橋 成子宿と中野村との間架を大小二橋あり此方小

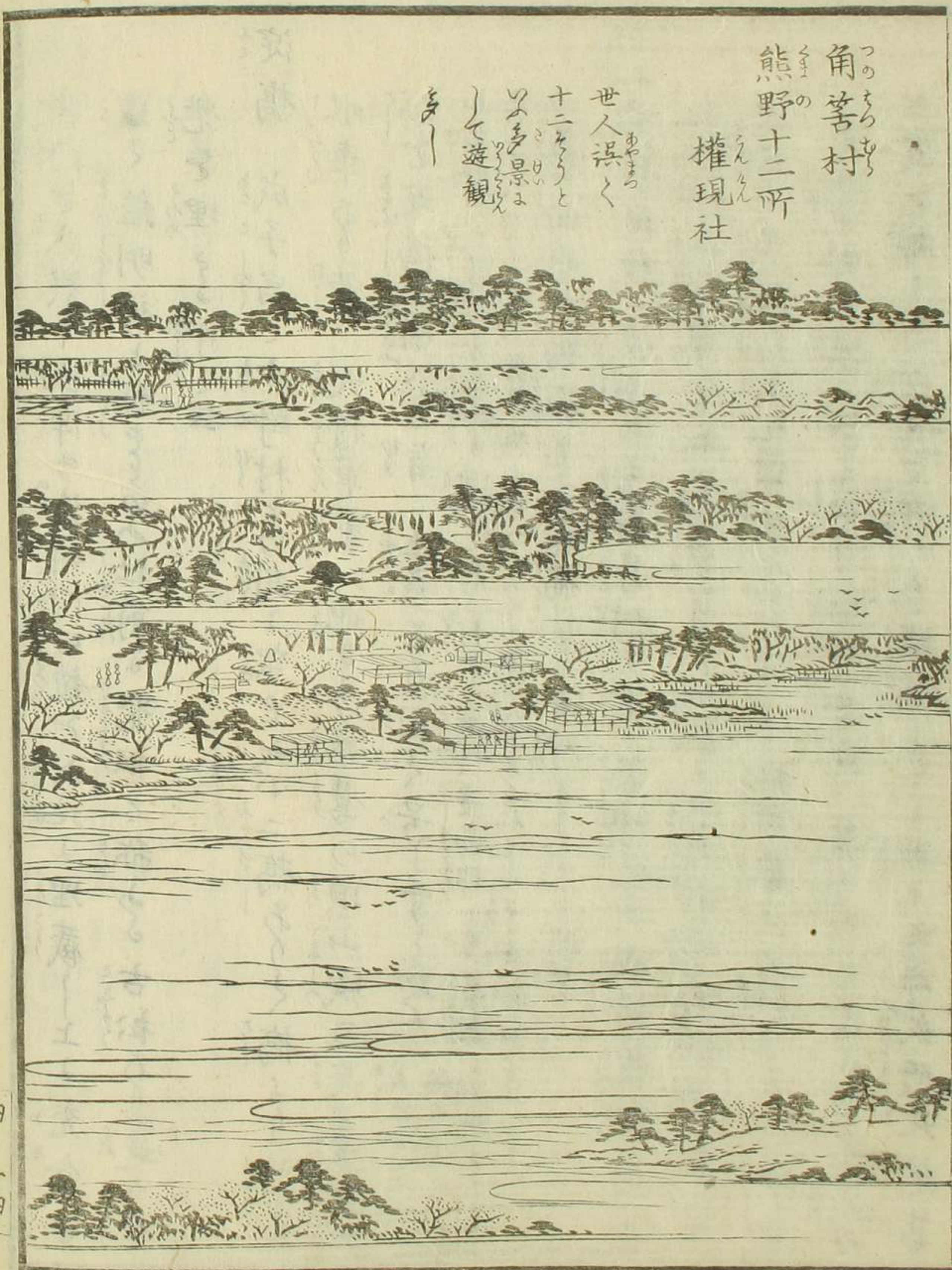
水車あり昔 大將軍家此地は伊放鷹の頃山城の淀に準擬此

橋を淀橋と唱へし旨 上意あり因り号すとのり
和名抄に武藏國豊島郡に餘戸といふ村あり此地は豊島郡と多磨郡の中間を占む
ありしに餘戸橋と唱へしといふなり是も是非を考す
旧名は面影の橋姿見すの橋なるとも呼りしといふなり

十二所権現社 淀橋の南角若村より祭神紀州熊野権現は同
本郷村成願禪寺奉祀の宮なり社記に云應永年間鈴木莊司
重邦の後裔鈴木九郎某あり紀州藤代より住りし流落
して此中野の地に移り住す熊野権現は産土神と云ふなり宅の辺の
丘陵を圍き小祠を營り信深く然り九郎成時北總葛

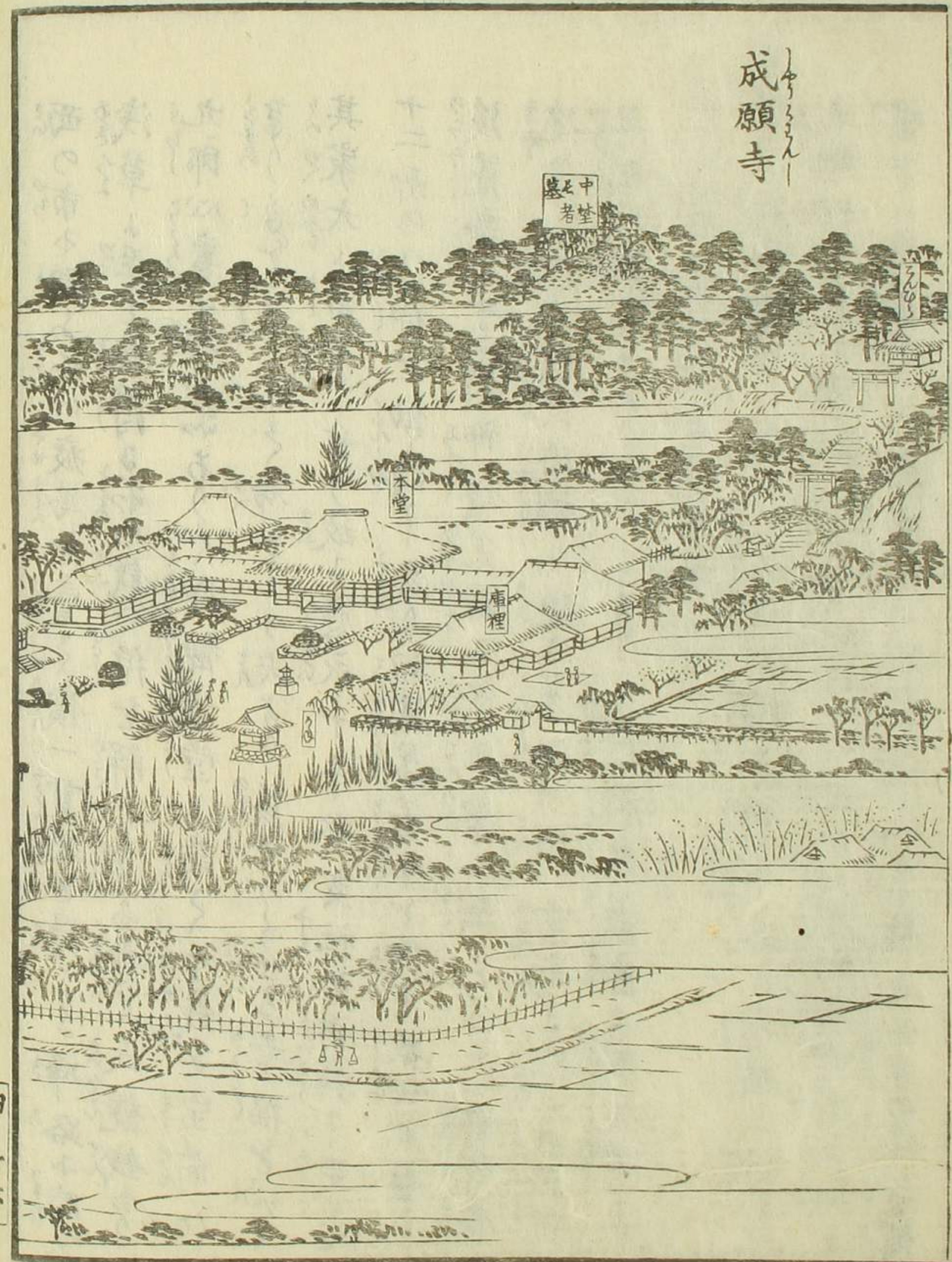
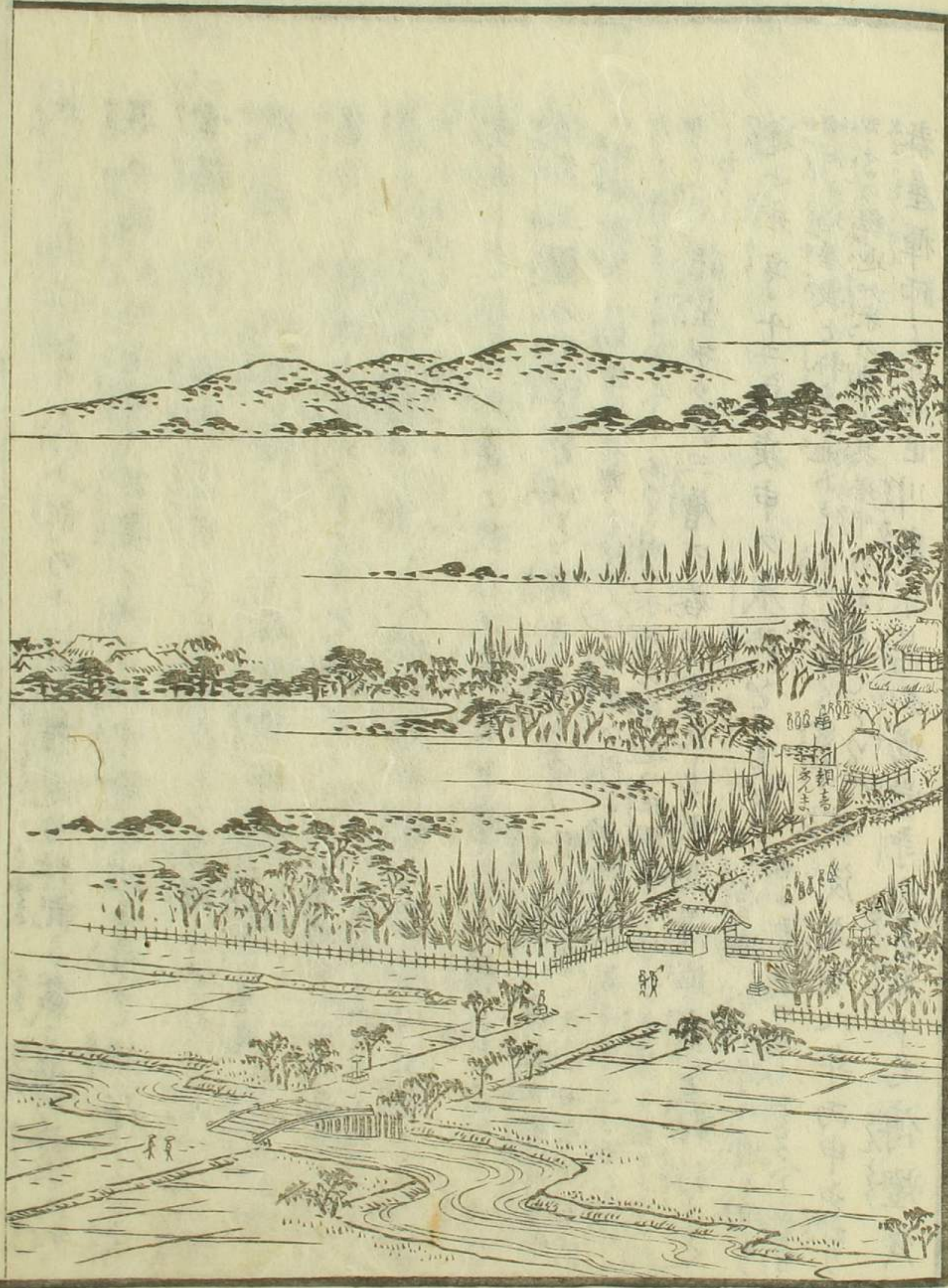


石山



つるのちりや
角の村
熊野十二所
権現社

世人誤く
十二とくと
ゆふ景よ
しと遊観
多し



成願寺

中
者
堂

本
堂

庫
裡

太子の真作ありとの前の十二所権現の社記に載る所の鈴木九郎
某本國紀州をゆく其妻と共に此中野の地に移り住たりし後
幸福を得る其家富栄えりされとも宿因あり一人の娘
俄に死して蛇形を頭ハセし春屋禪師
畜身を解脱し上天をりを得る
十二所権現宮の手洗池を蛇池と
号す時春屋禪師の着るふ松く父母頻に菩提心を發し法喜
せし法脈今後當寺に傳ふ
受戒して自ら正蓮と改む又居宅を壊ちて精舎と爲し女の
法名正觀の文字を以て其寺号とす
女の法名を真蓮正觀禪女と
號し永祿二年小田原北條家
の所領松原島津又次郎との人の所領の内は中野内正觀寺との寺号を住し
たる當寺の寺号ありしある時永祿の頃正觀寺と改む後我りて成
寺と改諸堂ありし三層の塔と造立し生涯優婆塞を勤行し
遂に永享十二年庚申の歳終るとり
三層塔ハ今中野の通り道あり
右あり松の条下と云ふ當寺
境内の塔屋敷と稱する地あり
其後文明八年丙申のり
春屋禪師より四世川庵宗鼎和尚當寺の董席して傳燈城

挑く法嗣今も連綿たり徳門は掲げらる多寶山の額本堂は掲げらる
成願禪寺の四字ハ雪峯和尚の筆なり

中野長者正蓮墳墓 同境内叢林の中あり閑基鈴木九郎の墓あり其石

武州多摩郡中野の中正觀寺といふ某師の棟札は朝日長者昌蓮と記し
ありと云昌正同音あり同義高田百八塚の条下と應照と云ふ

中野 渡橋の西と云ふ 渡橋の下を流る上水川を以て 此地ハ多摩郡小
属す武蔵野の中央あると云ふ号くと云ふ 永祿二年小田原
帳ハ太田新六郎知行の中ハ中野内阿佐ヶ谷又中野大場源七郎分とあり地と
併し如ふ

北國記行

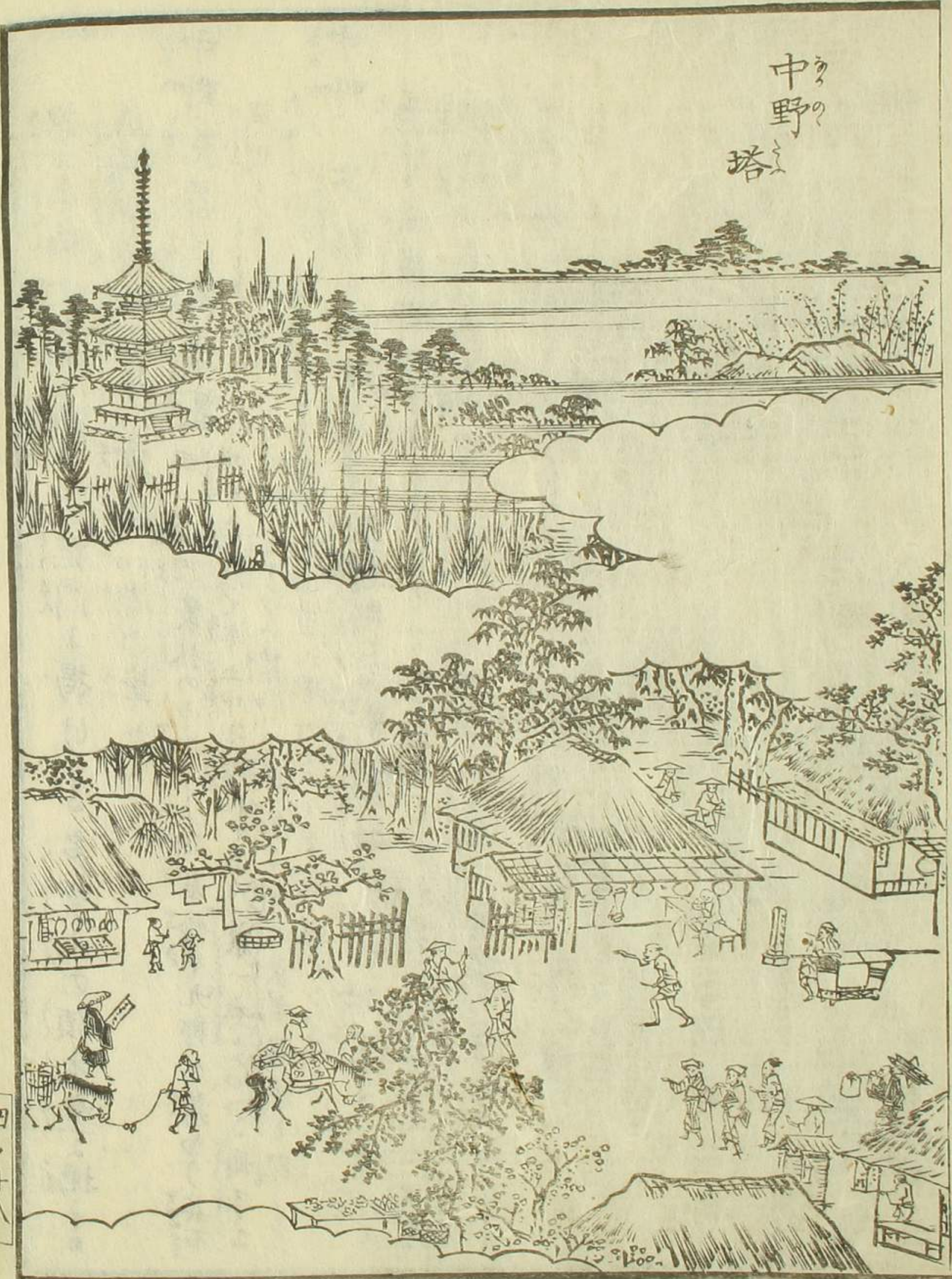
むし... 中野の... 平重俊... 此の... 永祿二年... 北條家の所領... 應照と云ふ

中野七塔 今其所在を云ふ... 或人云三所を云ふ... 忘れりあり

とそ里諺ハ中野長者昌蓮佛小供養の爲高田より大窪迄此
間ハ百八員の塚を築くと云傳ふ 此の高田百八塚の条下と云ふ七塔と

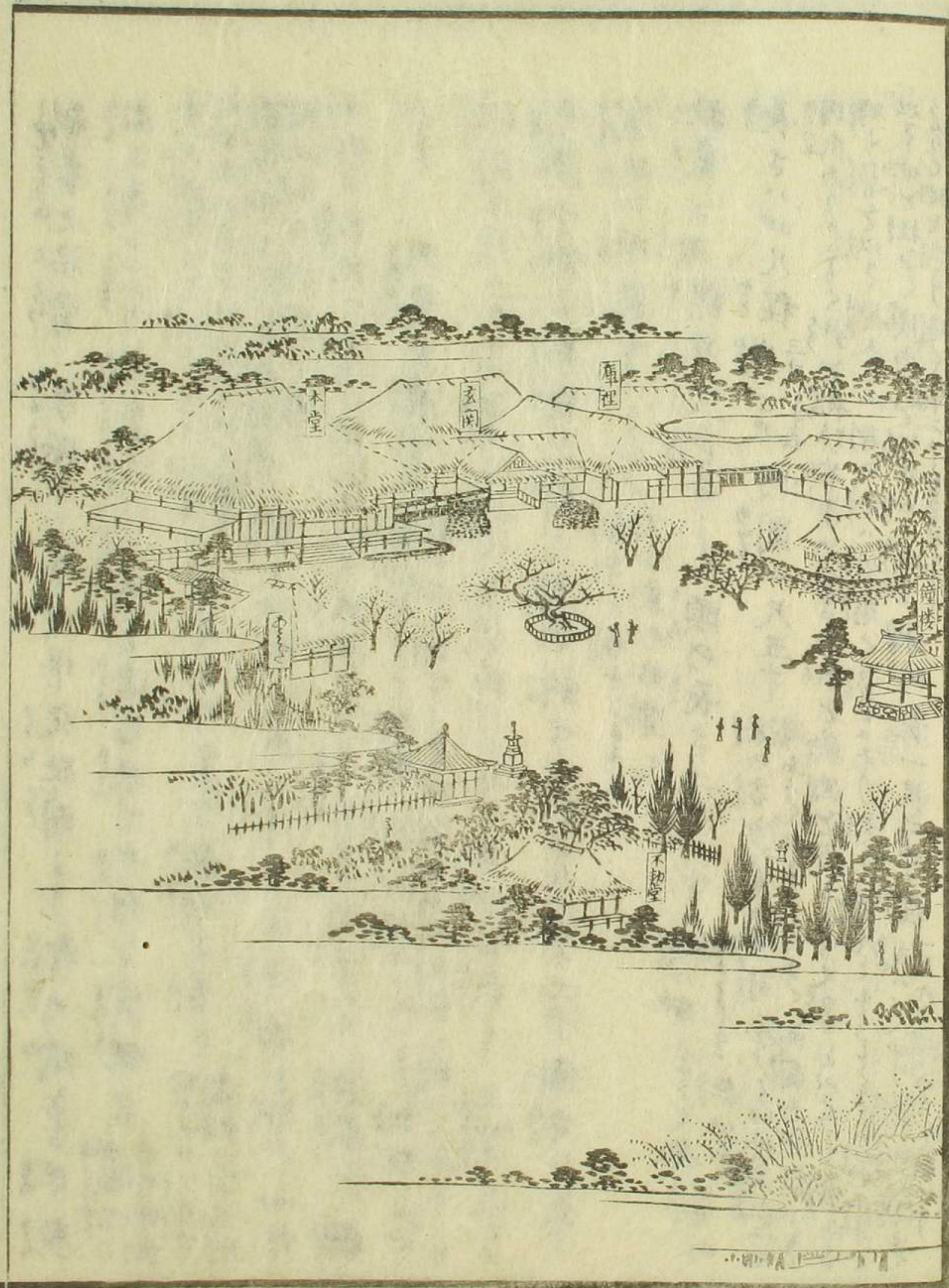
應照と云ふ

中野の塔



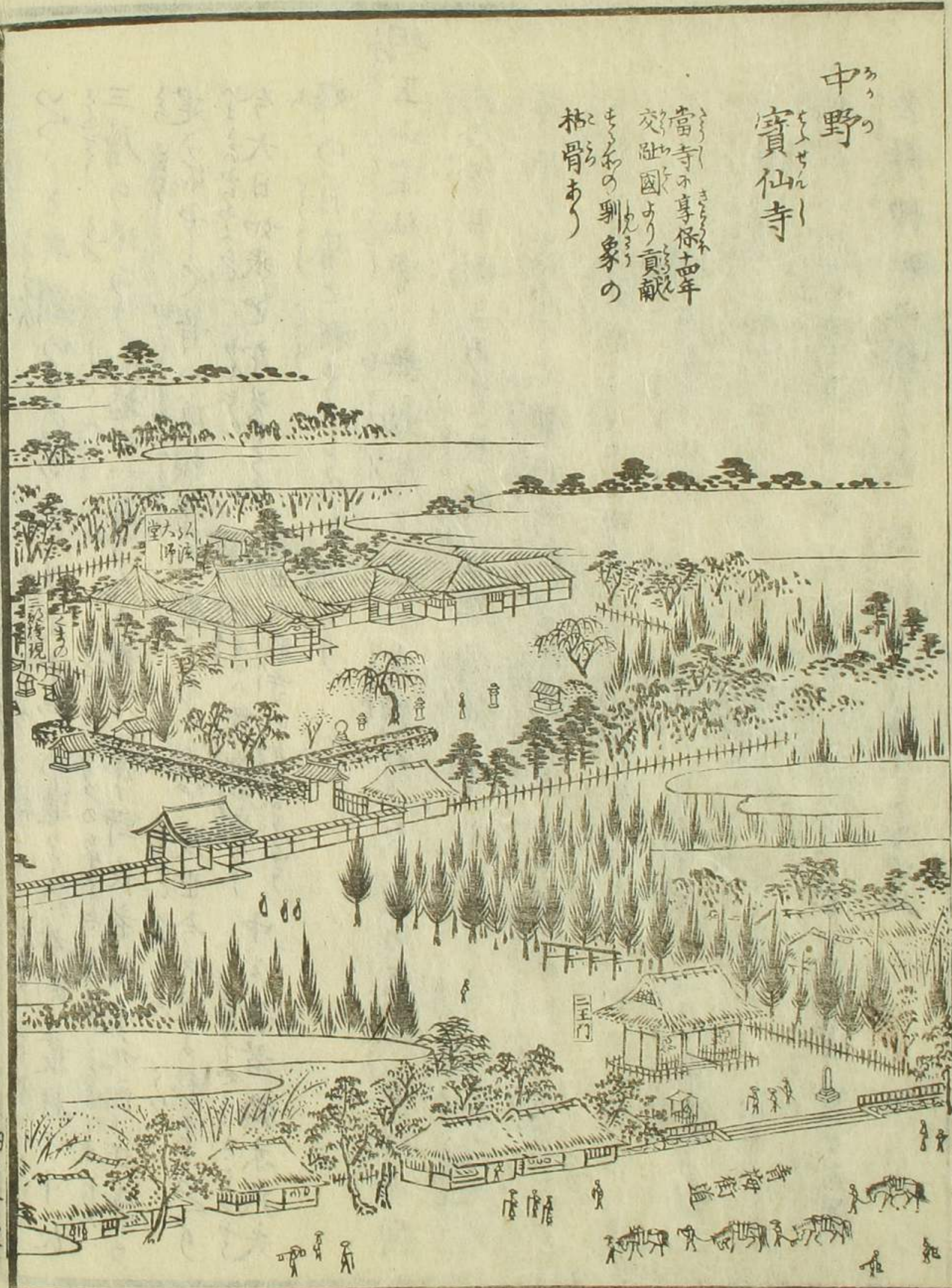
其類のものあり又中野の通る右側叢林の中に
 三層の塔あり七塔の一なり傳へ云中野長者鈴木九郎正運
 建ふ中野昔成願寺の境ありと後世今の地に移すなり
 今大日如来と名するを昔の中野の釋迦如来あり
 後世成願寺の如来とす中野長者鈴木氏夫
 婦の肖像と稱するものと安せり

明正山宝仙寺 無動院と号し寺領あり古義の真言宗にして同
 西の方右側あり良辨僧都開基なりと云はる本寺ハ弘法大師
 等身の像あり願行の作なり中興開山と聖永和尚と号し往古ハ
 大刹なり此地より二十町を北の方阿佐谷の地あり一城
 足利の代に至る今の地は遷すとありされと大永の頃兵燹に罹りて
 佛殿僧坊悉く焦土とあり因る其頃の日記も廢せたりと云
 開創の時世々詳あり境内普門院ハ不動尊の靈像を安置を
 良辨僧都の作とも或ハ願行の作ありともいふ

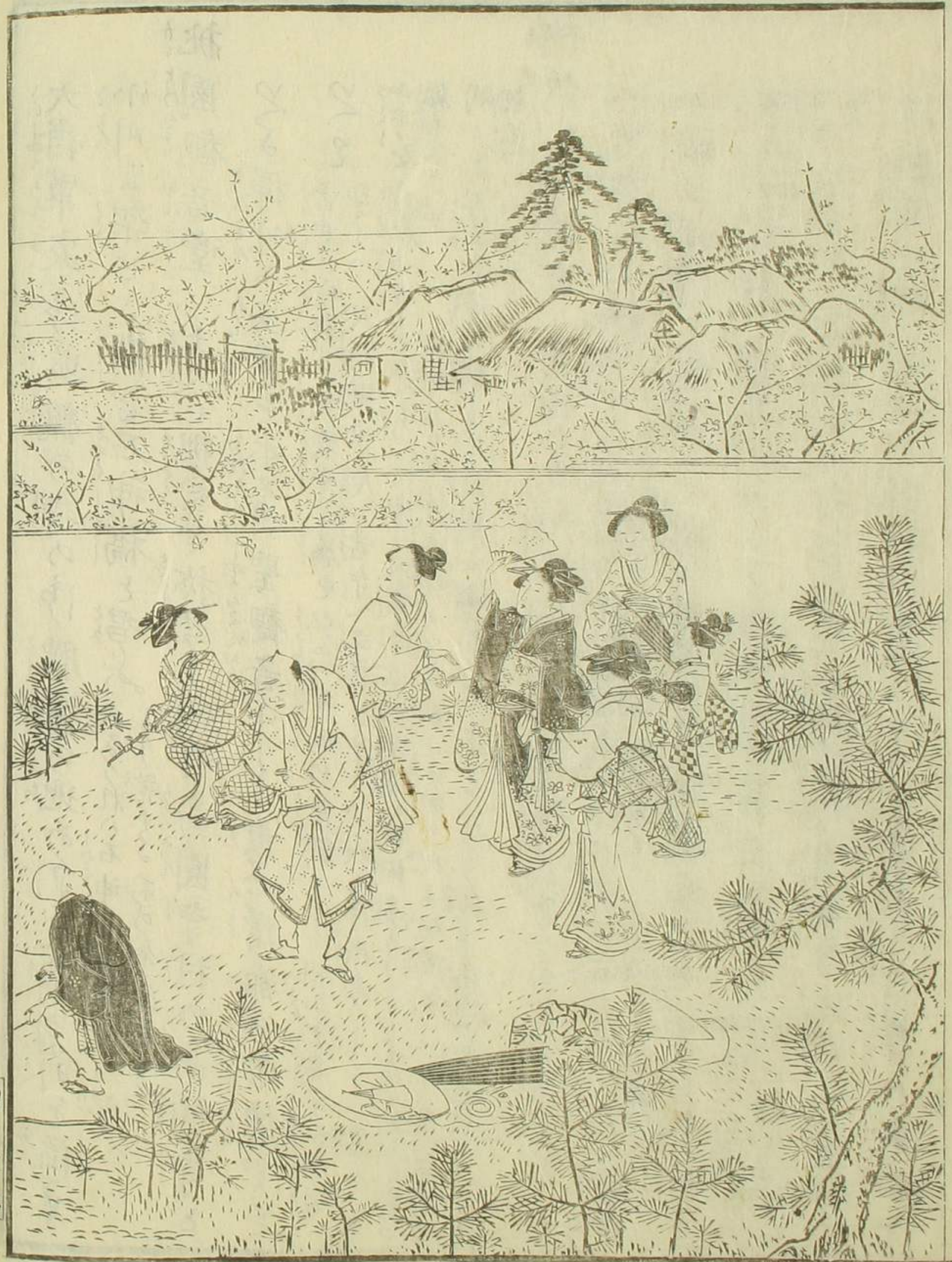
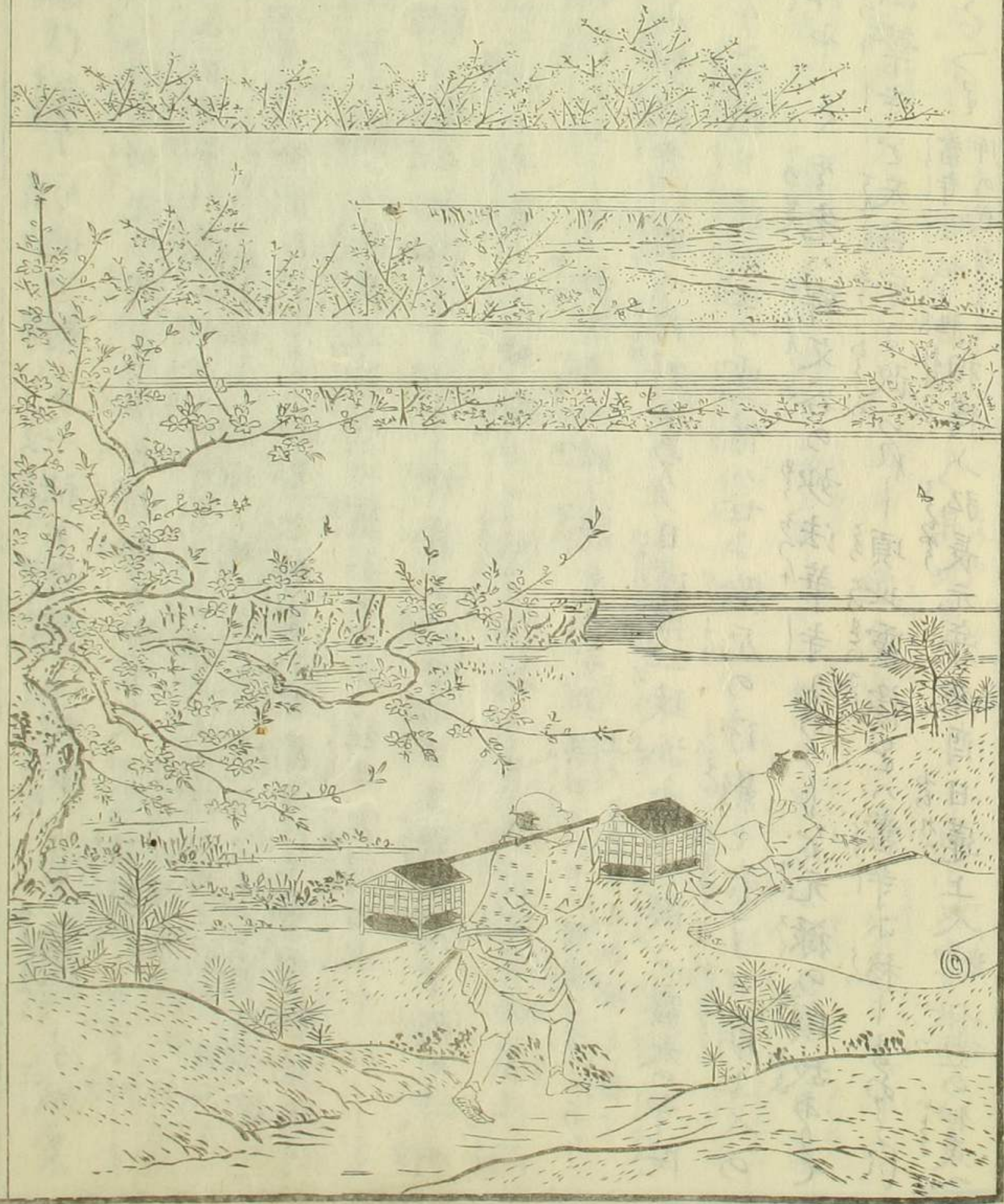


中野の
寶仙寺

當寺の事係古年
交趾國より貢獻
もとの別象の
枯骨あり

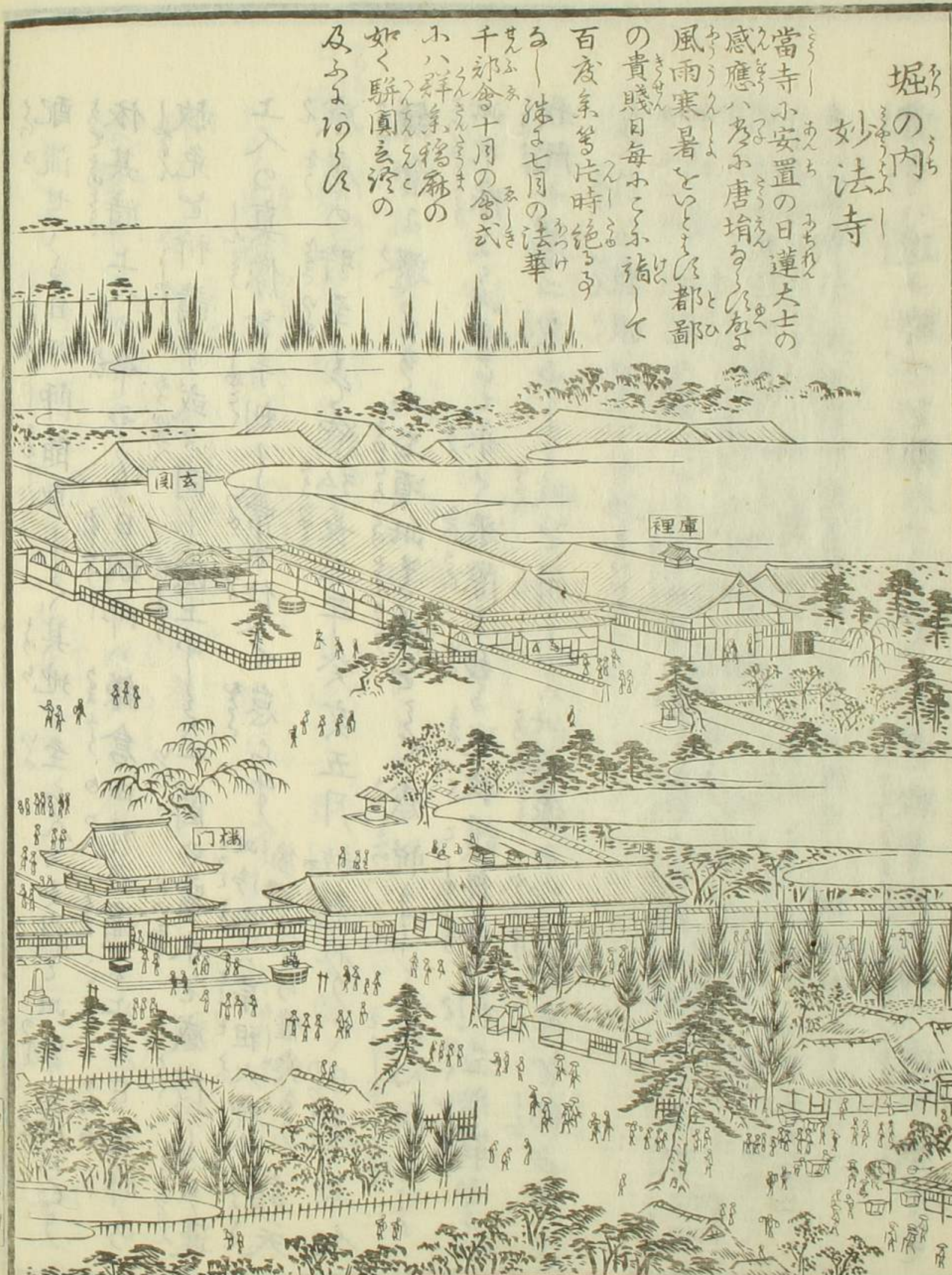
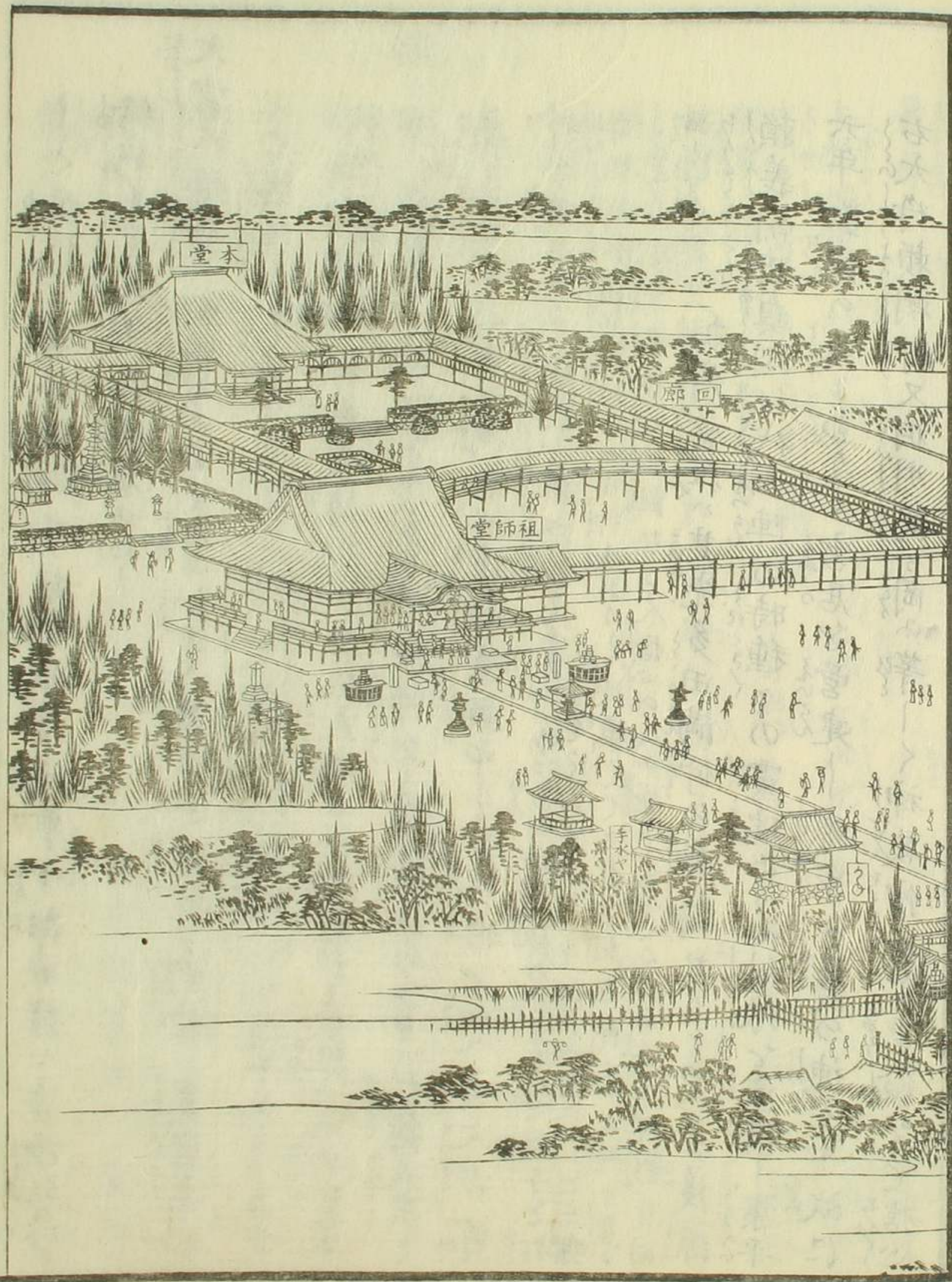


興春園桃



慕ひまじりて地を封じ一社を経営し神明宮と勸請す然るも
建久の頃此地の農民横井兵部とて人此人の遠裔今も此地に住し
頼義朝臣奥州征伐の時此地より少くも横井氏の祖兵部といふ者随兵よ加
由家あり一急病に臨みて戰場に趣くありて終に農民と
傳ふと云 祈願ありて伊勢太神宮へ参詣せんと勢州能保野の
驛舎小宿す其夜太神宮の靈示ありて翌日宮川の水中に
一顆の靈石を得て依て神意に任せ四里を携へ歸り件の神明
宮の社に安置し神躰となすとのり其後祇海とて沙門
神告ありて社を今の地に移すあり其旧地ハ七八所東の方あり
土人これを元伊勢と稱す
日圓山妙法寺 堀の内村あり日蓮宗一致派にして頗る盛大の寺院
なり宗祖日蓮大士の靈像ハ世に除厄の沙影と稱す日朗上人の
作りて先ハ碑文谷の妙法華寺ありと元祿の頃故ありて
法華寺と天台宗に改られ頃此靈像を八當寺に移すあり
當寺住侶日性 相傳ふ弘長元年辛酉日蓮上人四十伊豆の伊東へ
とて師の代なり

配流せし日朗師隨身し其地に至らんとこれと此事協し
依其時上人の命あり日朗師ハ鎌倉由井の濱に止り日夜師の
赦免を祈請す或又同一海上中一箇の靈木を感得し日蓮
上人の真像を手刺し常仕へて怠らず此沙影ハ宗祖大師の
像と造るの権輿あり 諸天
感應の時至りて弘長三年癸亥五月赦免ありて日蓮上人
鎌倉を還りて頃此像をて感悦まりて我心神今より
此木像より永く来際し延救護衆生の利益無窮ある
我既ハ四十二歳中て救を得し此木像ハ除厄の号を稱し
とて自ら點眼なりとあり
加持符 有信の章三七日の間此符を對し正念に唱題誦経し其病床のありて壁上
或ハ家の柱に貼す故に世俗張符とて相傳ふ日蓮上人伊豆の伊東あり
るに靈應あり後日浪師是を傳りて已降世に相兼むるとあり
當寺ハ遙小都下を離れしとて靈驗著故に諸人遠を厭む



堀の内
妙法寺

當寺小安置の日蓮大士の
感應ハ多小唐増々ハ多
風雨寒暑といハ都都
の貴賤日毎ハ不絶
百夜糸等ハ時絶
ハ一殊ハ七月の法華
先ハ千部會十月の會式
小ハ群衆の
如ク駢圓之
及ハ

歩行と運び渴仰す毎年七月法華十部十月十三日淨影供を
修すを其間群恭拈麻の如し

大宮八幡宮 和田村小あふあふ和八幡宮共称せり別當ハ真言宗に

一七幡降山大宮寺と号く 借中野の宝仙寺 例祭ハ九月十九日とす

二十一日迄三日の間 神躰 應神天皇又左右ハ二神あれとも往古の兵燹ハ

罹りて舊記亡びしを神名詳あらず疑わらるる 仁徳天皇と

高良臣あつてさう何とも靈妙奇異ゆゑ文彩を加へて大古質

朴の風ありて彫刻最巧あらず 元禄の末より神厨子を釘

年間別當祐照法印一七日行法ありて遠慮してこれを閉き神像と拜し

画一す相傳當社ハ其先多田満仲の勸請なりとす 後源

頼義朝臣奥州征伐出陣の時種々の靈瑞ありて神像と感得し康平

六年凱陣の時より宮居と堂建し源家守護の神とす故に

最厚 昔ハ大社中ハ社殿ハ宮居あり 然ハ足利將軍の世裁後此

上杉相模の北条と戦ふ頃上杉の勢兵此地ハ屯し放火を 此時神像ハ

大樹の下に道れり別當真順法印 社領ハ賊の爲に掠らるる神巫

社僧も四方へ分散しこれハ神躰の終に叢祠不安しなりハ天正の

頃大石信濃守當社の古きを尋く神宮を建る同十九年 忝も

大神君此地ハ台駕をめぐりこれ源家累代守護の靈神なりとす

ありしゆこれ新ハ神領と附し之りといふ

幡ヶ谷不動明王 幡ヶ谷村ハあり真言宗光明山莊嚴寺ハ安置を

本尊不動明王の像ハ智證大師の作なり毎年四月八日より同

十八日迄内拜せしむ相傳ハ往古智證大師江州三井寺を創建の

時彫刻の靈像なりといふ 天慶年間平將門東國不在て逆威を

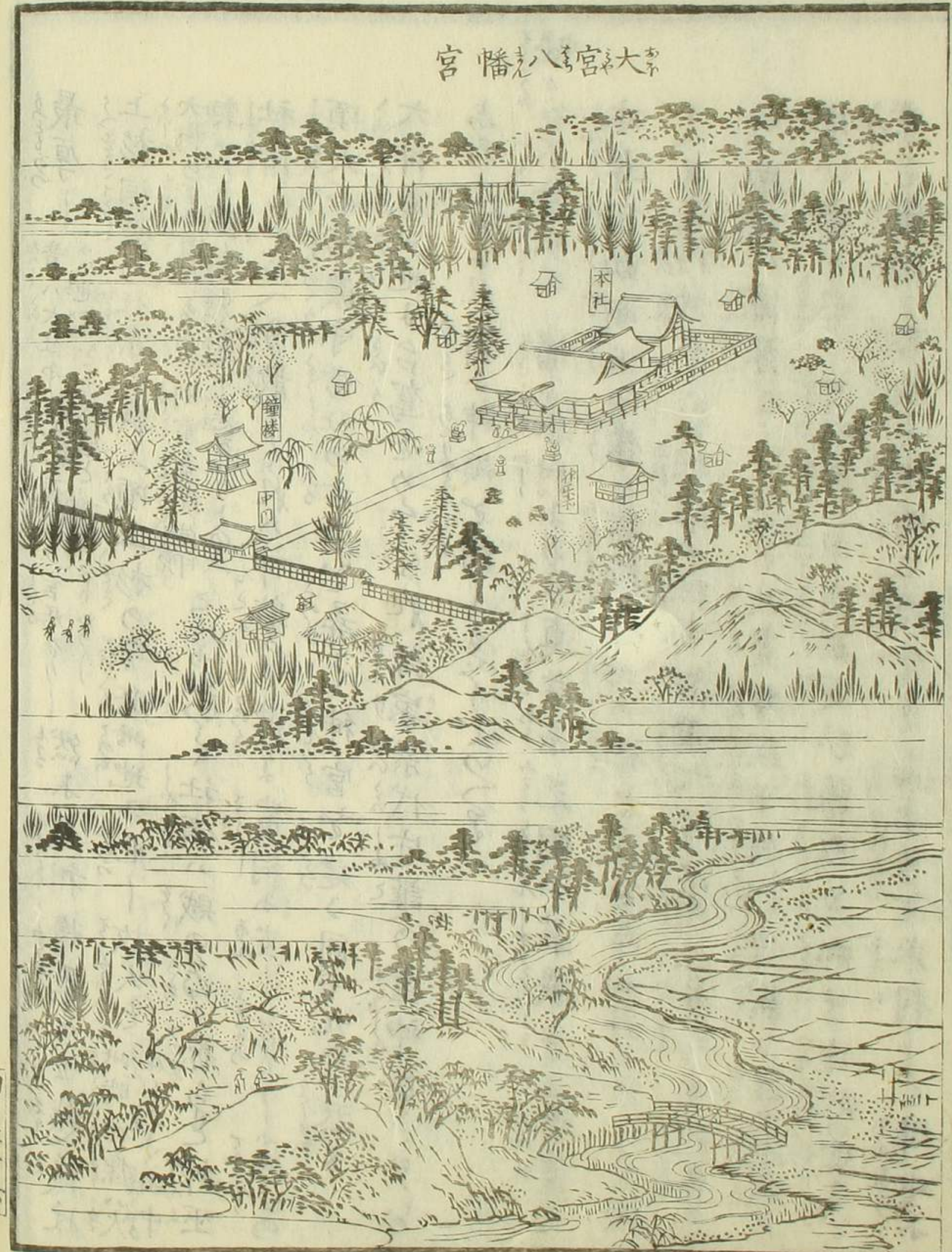
震ひ帝と惱しなるが平貞盛及び藤原秀郷等追討の宣旨を

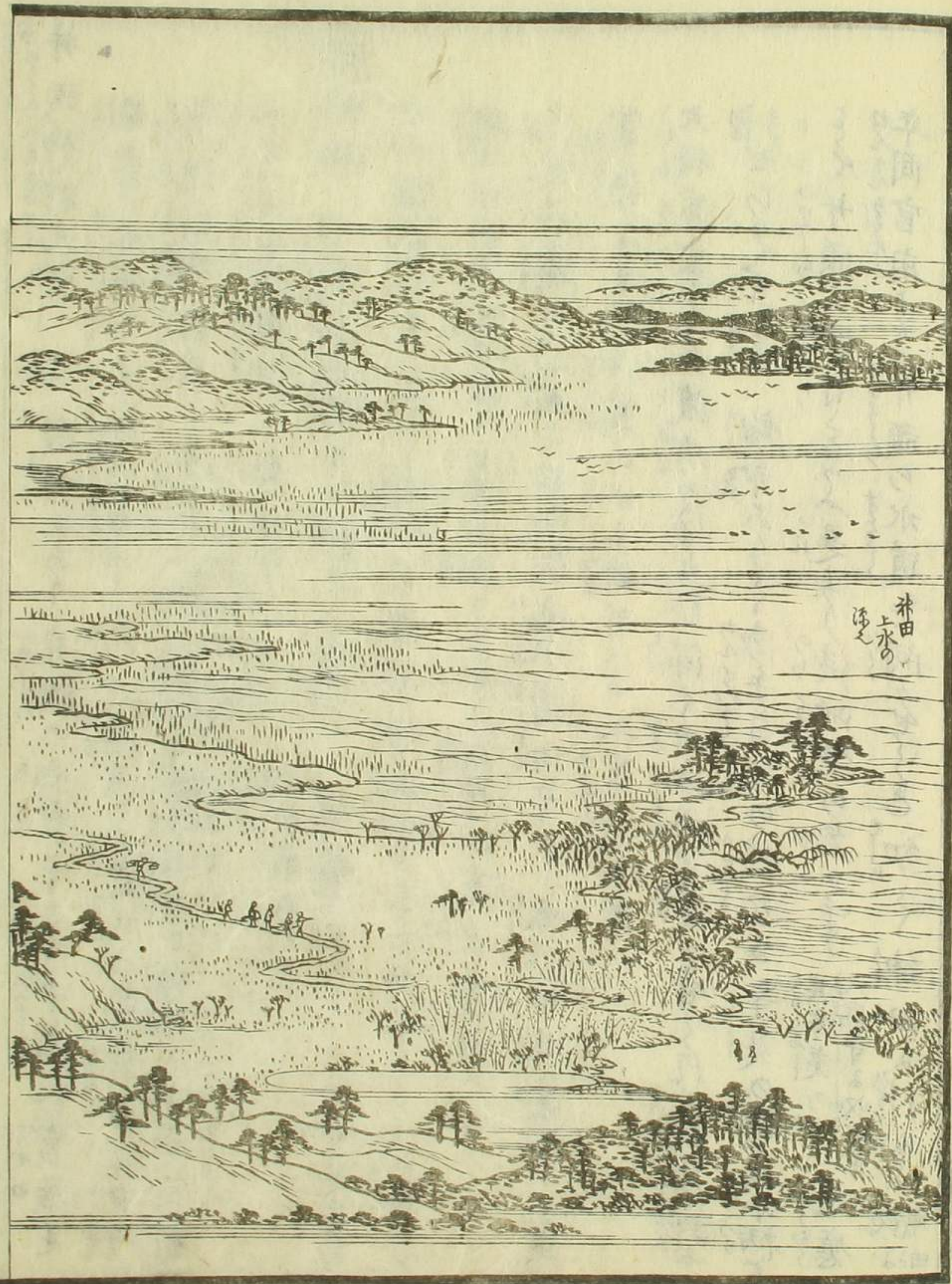
蒙り東國に發向せし時三井寺より此本を奉持し陣中ハ



当社廣前の老松ハ嬌々として雲を拂ひ數百歳の相と標せり白石先生も此松を賞して奥羽とて一丸房総豆相東海一路畿内濃尾の諸川あも未りる長松の多き成見はと新安子管小記されり又社前の大路ハ往古の孫倉街道ありて今土人正用街と唱へり上宮井戸小湊倉揚と傳りのわもいふ〜〜街たるり〜〜
 田村とら〜り

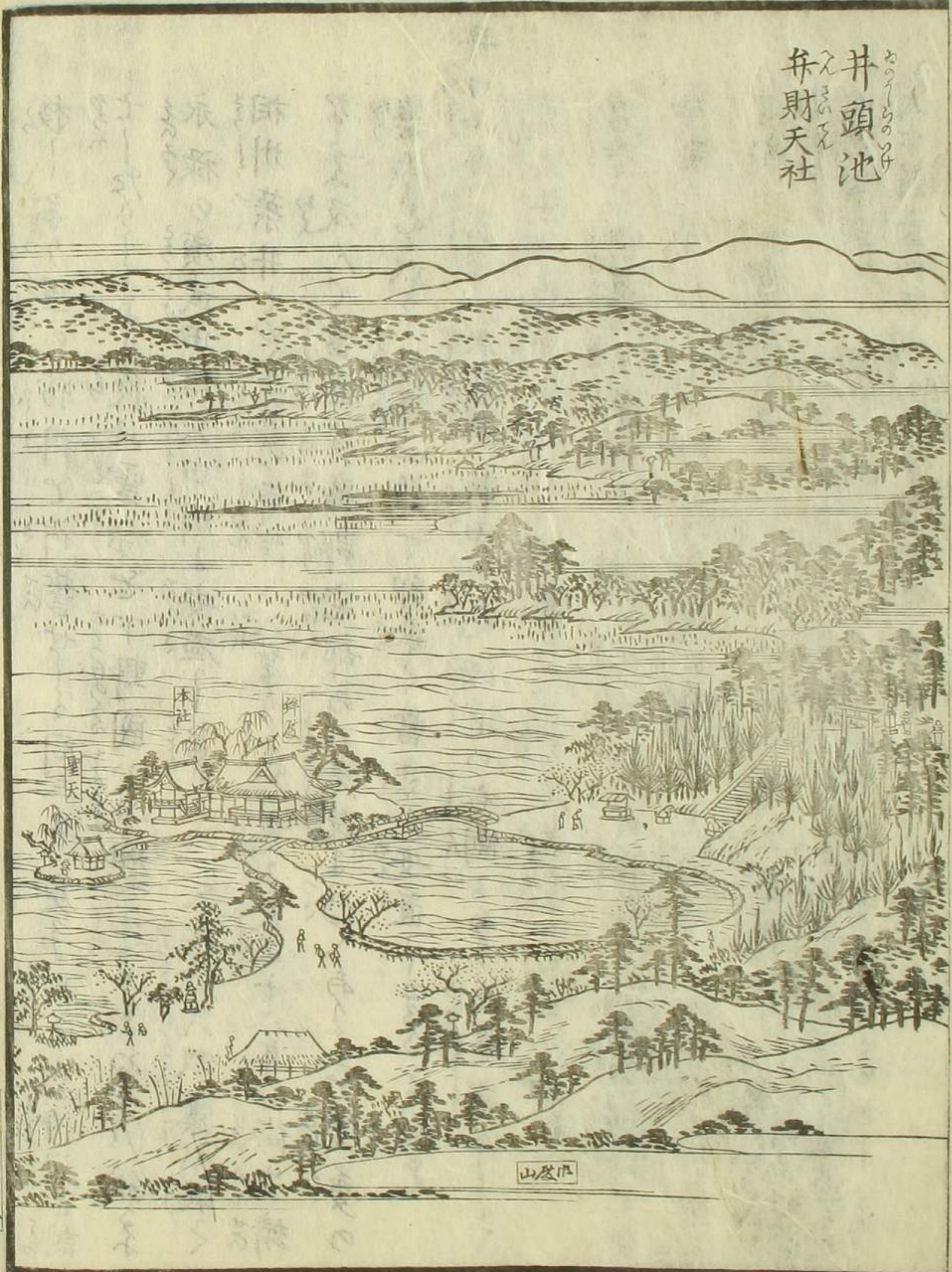
大宮八幡宮





林田
上水の
海

井頭池
井財天社



山登凡

井頭辨財天宮 牟禮村あり井頭の池靈や中島に宮居を

別當ハ天台宗中々大盛寺と号し相傳ふ建久八年鎌倉右府將

軍頼朝卿創建しあり正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社に軍

本多天女の靈像ハ傳教大師作り寛永十三年丙子

井頭池 神田上水の源あり長さハ西北より東南へ曲り三百歩あり

中ハ百歩ありあり池中ハ清泉涌出する所七所あり旱魃

酒さるる故小世ハ七井の池とも稱し相傳ふ慶長十一年

大神君適るる至らせあり池水清冷や味ハの甘美なる

賞揚しあり浄茶の水ハ汲せり又寛永六年

大将軍家らるる渡御なりあり深く此池水を愛せり大城の清許

引せらるる旨 鈎命ありあり浄手自池の傍なる辛夷の樹ハ小柄

とく井頭と彫付る是より後此池の名とす其辛夷の木ハ一丈あり

年間官府より井頭の水道を開くせり初く神田より大盛寺ハ収蔵

上水の稱あり寛永八年辛未の夏池水濁りあり天海大僧正加持し

十五日より四月十五 浄楊枝の柳ハ聖天堂の後あり腰掛の

藤今在所三ツ柳ハ神木と稱す西北の方ハ丘陵と今御殿山と

の昔省耕の浄殿館あり跡わらうるあかかく唱あるといへり今

此池ハ清泉や炎天や水の減まらり常ハ泌沸と

湧出す其地最閑寂や池辺柳樹多く初夏の頂ハ

新葉黯く陰を照し浅翠嬌青碧空と蔽ふ似

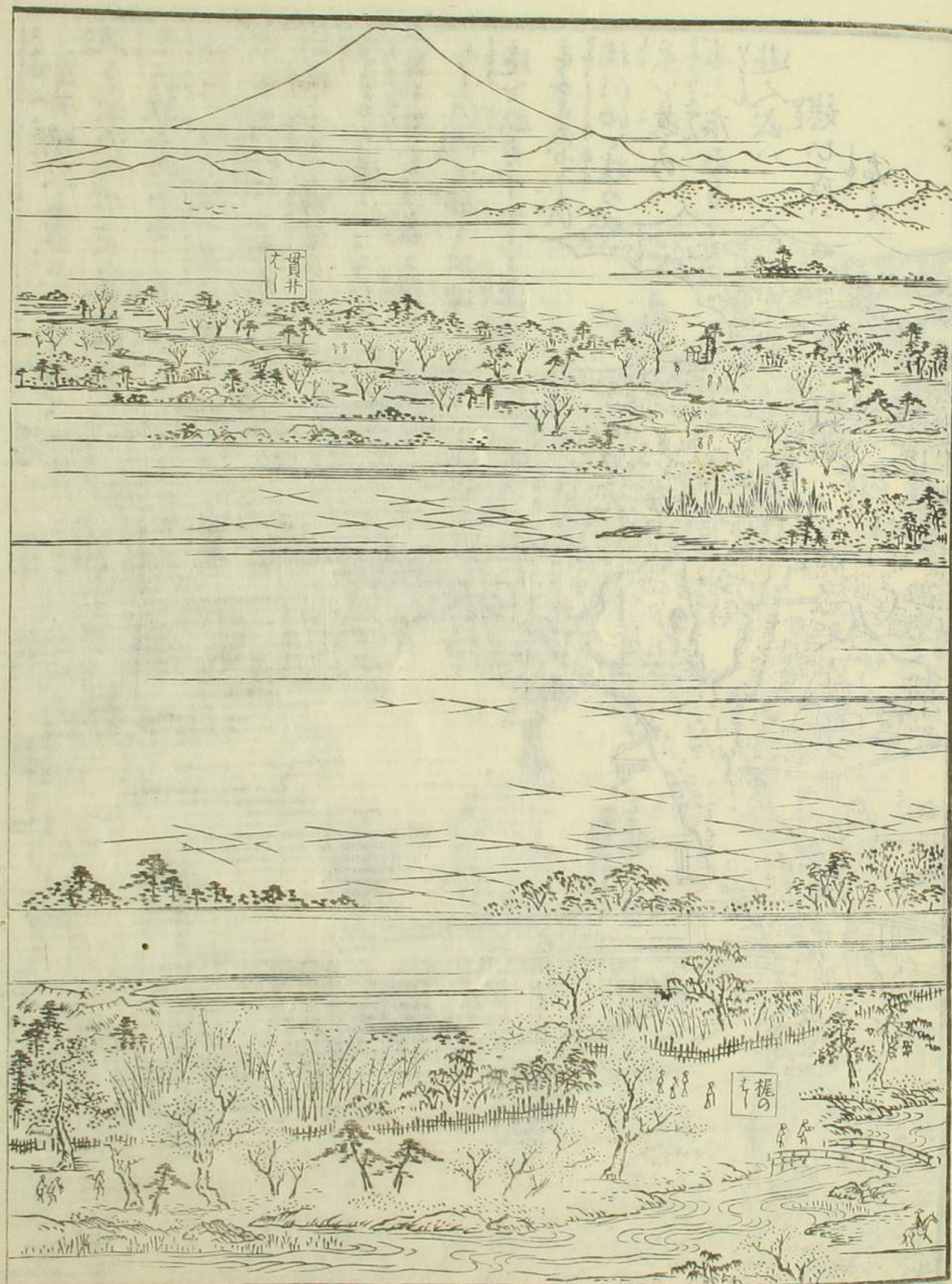
金井橋 多磨川の上水堀兩岸の芝塘あり金井村に架す故小名

とす水源小川村より新橋の東北千川上水の掛口の

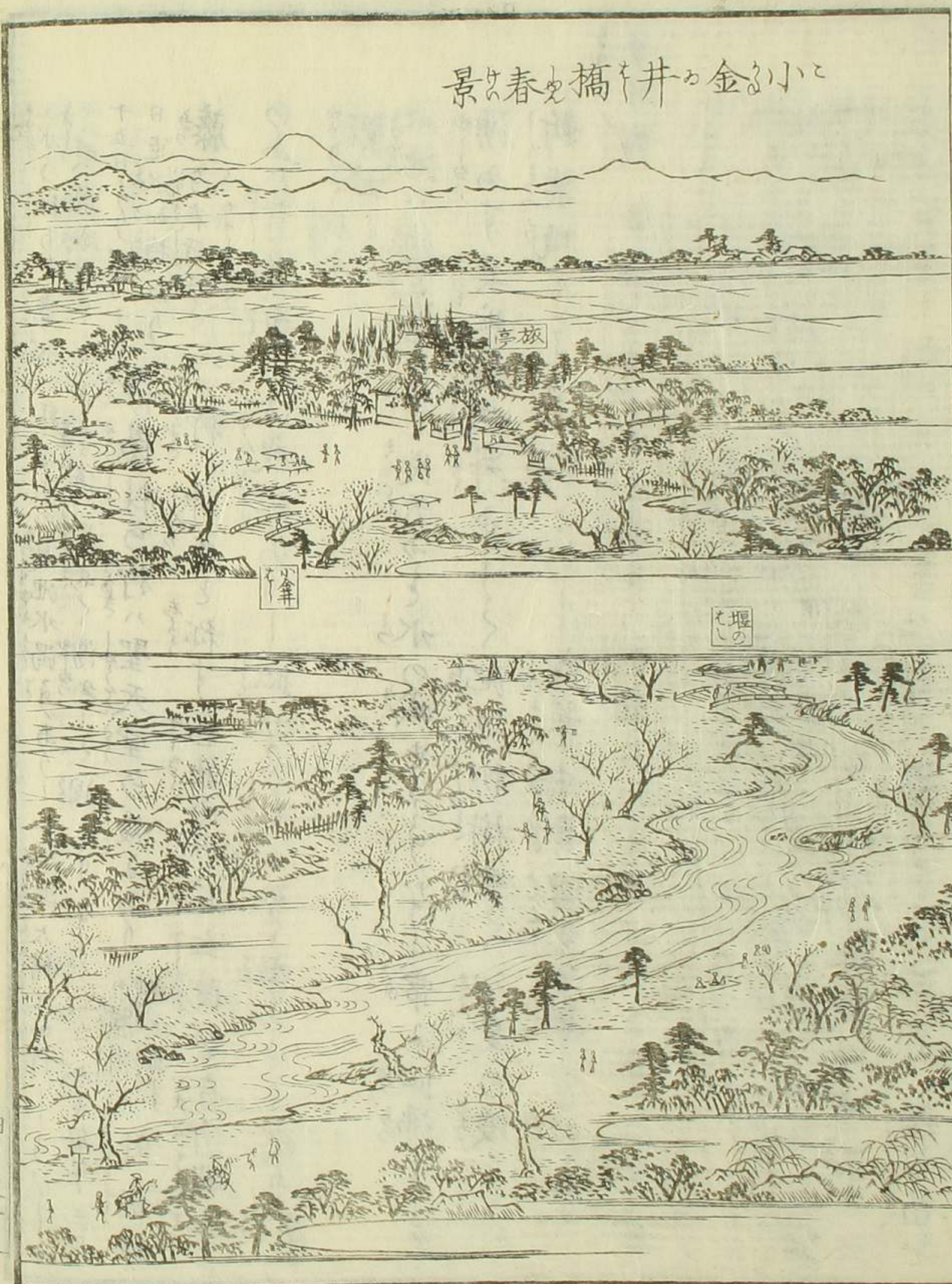
何れも此地名あり唱ふ金井橋の類あり此水流

此水流と大江に此地の直流九十里あり是と玉川上水と号す兼應の頂

台命を奉し和州吉野山は常州櫻川等の地より櫻の苗を



景は春の橋を井の金に小



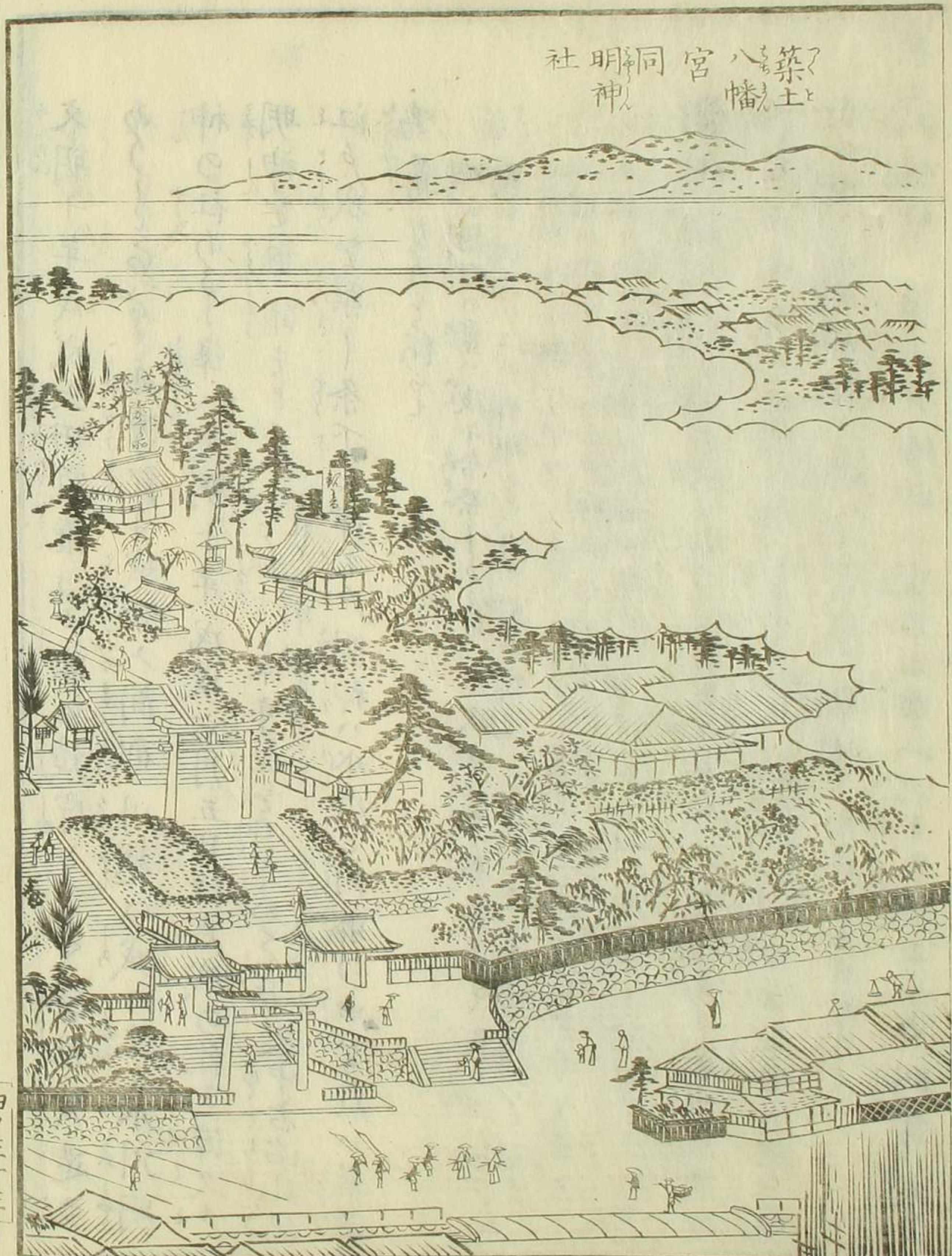
殖らるるや中々其數九一萬余株ありしを
項_まて八年_の官_{かん}府_ふよりこれを殖_つせむと
あり今_{いま}も教_{きょう}大_{だい}減_{げん}九_く三_{さん}百_{ひゃく}株_さありしを
開_{ひら}初_{はつ}く六十_{じゅう}日_{にち}目を満_{まん}開_{かい}の期_きとす七十_{しちじゅう}日_{にち}目の項_{こう}は至_{いた}りてハ落花_{らっか}を
最_{さい}年_{ねん}の寒_{かん}暖_ぬみより少_{すく}の遲_ち速_{すく}ありとすも大方_{おほ}違_{ちが}はせ
就_あ中金_{かね}井_い橋_{はし}の辺_へを佳_か境_{きやう}ありし爛_{らん}漫_{まん}しるも
川_かの流_{なが}れを夾_さんで一目_{いちもく}千里_{せんり}実_{じつ}は前_{ぜん}後_ご尽_{じん}る際_{さい}を
遊_{あそ}へハさゆり白_{はく}雲_{うん}の中_{なか}にありし蓮_{れん}壺_ぼの仙_{せん}臺_{だい}に至_{いた}りし
しゆる最_{さい}奇_き觀_{くわん}する處_{ところ}は近年_{きんねん}都_と下_かの騷_{さわ}人_{じん}顔_{がん}士_し遠_{えん}を厭_{いと}はしとす
来_きて遊_{あそ}賞_{しょう}す

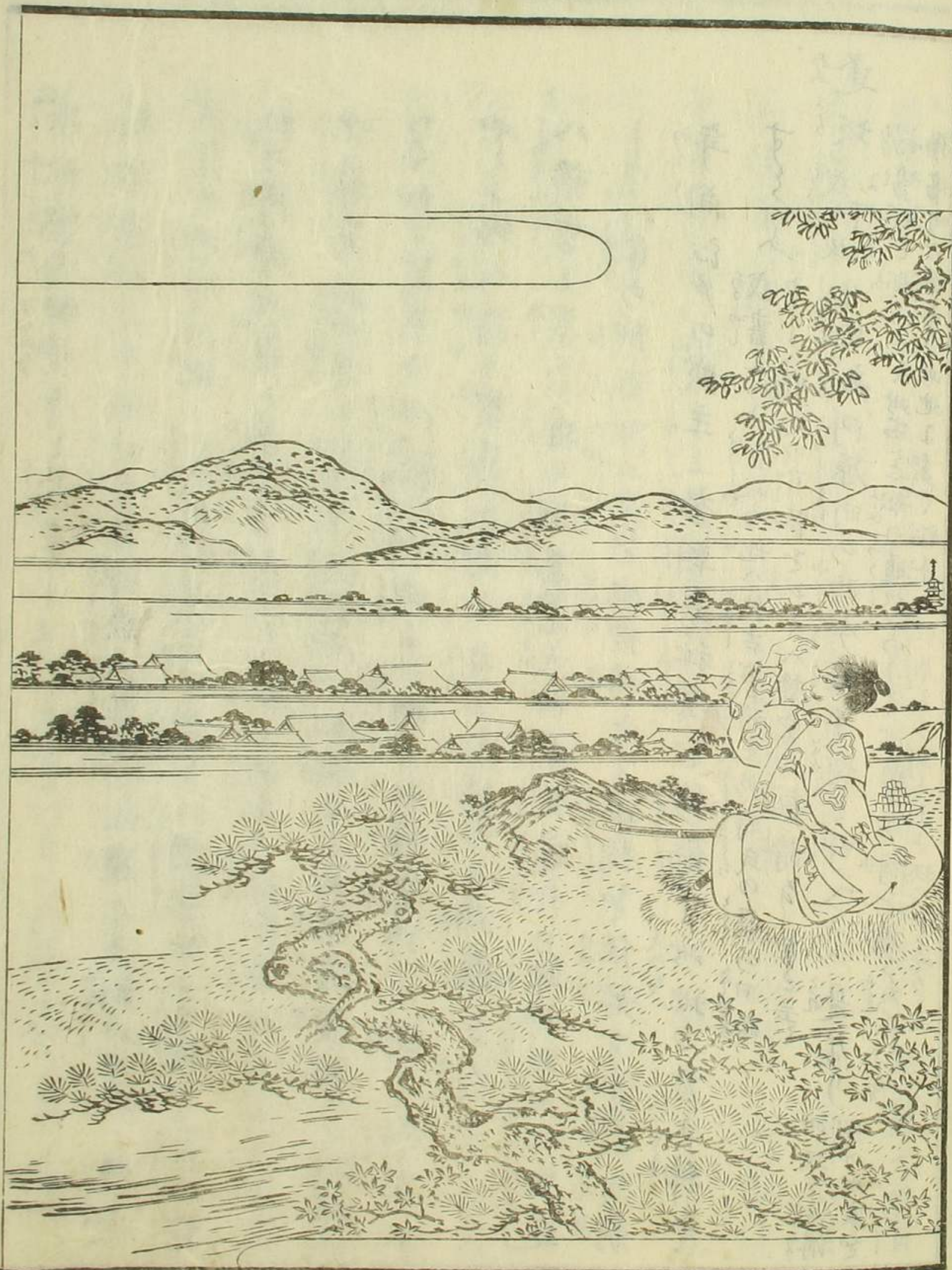
津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}社_{しゃ} 築_つ土_と銀_{ぎん}町_{ちやう}あり
宗_{そう}中_{ちゆう}く善_{ぜん}龍_{りゆう}山_{さん}成_{じやう}就_{じゆう}院_{いん}と号_{ごう}は本_{ほん}地_ち佛_{ぶつ}ハ聖_{せい}觀_{くわん}音_{いん}傳_{でん}教_{きやう}大_{だい}師_し社_{しゃ}
作_{さく}なり相_{あひ}傳_{でん}み天_{てん}慶_{けい}三_{さん}年_{ねん}庚_{かう}子_し相_{さう}馬_ま将_{しやう}門_{もん}誅_{しゆ}せられ後_{のち}首_{くび}級_{きやく}と
當_あ國_{こく}江_え戸_こ平_{へい}川_{せん}の觀_{くわん}音_{いん}堂_{だう}へ移_{うつ}し是_{これ}を齋_{いひ}く津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}と稱_{なづ}す

文明_{ぶんめい}十年_{じゅうねん}戊_ご戌_{しゆ}太_{たい}田_{てん}道_{だう}灌_{かん}江_え戸_こ城_{じやう}の鎮_{ちん}守_{しゆ}とす宮_{みや}社_{しゃ}茂_{さう}造_{ぞう}立_{りつ}
ありしとす永_{えい}亨_{かう}記_きは武_ぶ州_{しゆう}入_に間_ま郡_{ぐん}川_{せん}越_{えつ}の城_{じやう}の乾_{けん}は氷_{ひやう}川_{せん}明_{めい}
神_{しん}の社_{しゃ}ありし準_{じゆん}へ文_{ぶん}明_{めい}十_{じゅう}年_{ねん}戊_ご戌_{しゆ}六_{りく}月_{げつ}五_ご日_{にち}江_え戸_こ城_{じやう}の乾_{けん}は津_つ久_く戸_こ
明_{めい}神_{しん}を勸_{くわん}請_{しん}すと云_いふ江_え戸_こ秋_{しゅう}子_し永_{えい}亨_{かう}記_きを引_ひきかきし又_{また}中_{ちゆう}古_こ治_ち乱_{らん}記_き
江_え戸_こ城_{じやう}を築_きし条_{じょう}下_かは津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}ハ氷_{ひやう}川_{せん}と同_{どう}弊_{へい}の由_{よし}なるハ素_そ盞_{さん}
鳴_{なり}尊_{みづね}なりとあり

按_あむ將_{しやう}門_{もん}の靈_{れい}ハ後_{のち}合_{がっ}祭_{さい}しるる南_{なん}向_{かう}亭_{てい}茶_{ちや}話_わと云_いふ筑_{つく}戸_こ旧_{きゅう}ハ次_じ戸_こと
書_{しよ}を住_{すま}古_こハ江_え戸_こ明_{めい}神_{しん}とて江_え戸_こ城_{じやう}の鎮_{ちん}守_{しゆ}とす江_えと次_じと字_じ形_{けい}相_{さう}似_ししるる
土_{つち}記_きハ載_{さい}せし江_え戸_こ神_{しん}社_{しゃ}ハ秋_{しゅう}祭_{さい}神_{しん}も素_そ盞_{さん}鳴_{なり}也_{なり}當_あ社_{しゃ}武_ぶ藏_{ざう}國_{こく}風_{ふう}
土_{つち}記_きハ合_{がっ}せり標_{ひょう}五_ご卷_{けん}神_{しん}田_{でん}明_{めい}神_{しん}の条_{じょう}下_か江_え戸_この神_{しん}社_{しゃ}の考_{かう}へを附_つせりてはあ
當_あ社_{しゃ}ハ往_{かう}古_こ上_{じやう}平_{へい}川_{せん}の地_ちありしと天_{てん}正_{しやう}七_{しち}年_{ねん}己_こ卯_{まう}田_{でん}安_{あん}の地_ちは遷_{せん}座_ざ又_{また}
元_{げん}和_わ二_に年_{ねん}丙_{へい}辰_{しん}今_{いま}の地_ちへ移_{うつ}しるる昔_{むかし}筑_{つく}戸_こは作_{さく}る後_{のち}中_{ちゆう}古_こ田_{でん}安_{あん}の地_ちは鎮_{ちん}
座_ざの項_{こう}ハ田_{でん}安_{あん}明_{めい}神_{しん}と唱_なへしとあり祭_{さい}禮_{らい}ハ九_く月_{げつ}十_{じゅう}五_ご日_{にち}なり

築_つ土_と八_{はち}幡_{ばん}宮_{みやう} 津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}の宮_{みやう}居_いふ並_{なら}み地_ち主_{しゆ}の神_{しん}ハ別_{べつ}當_{たう}ハ天_{てん}台_{たい}





膳喜洛陽千歲
 光瑞烟祥氣入
 望昌三條橋影
 遊魚聚十字街
 頭征馬愷岩岳
 風來吹袂過敵
 山雲度引紳長
 金湯城上立鷓
 尾九陌不消逐
 異方山崎垂加



くろふも姿乃消くせむれハ美佐吾り身まうりぬるをありて
此わりのの淵身と投く空くかりたりとかなるままあり後
此和と逢坂といひとん神楽坂の西の小坂と土俗幽美坂といひ恐らくハ
連坂と混りたる歟又地名といひ坂といひ女の名と云

神楽坂 同所牛込の津門より外の坂といひ坂の半腹右側小高
田穴八幡の旅所あり祭礼の時ハ神輿此所ハ渡りせらるる

其時神楽を奏する故ハ此号ありといひ或云津久土明神田安の地より
今之処へ遷座の時此坂にて神楽

常小神楽の音此坂遊きとゆるゆゑありといひ或云津久土明神田安の地より
今之処へ遷座の時此坂にて神楽

善宮八幡宮 同所善宮坂の上善宮町あり或云津久土明神田安の地より
今之処へ遷座の時此坂にて神楽

宗普門院と号し相傳ふ文治五年の秋右大将頼朝卿奥州の
泰衡を征伐せんる為小發向を時宿願ありと興州平治の後
當社を營々鎌倉鶴ヶ岡の善宮八幡宮を移し奉らるる也

牛頭山行元寺 千手院と号し同所神楽坂の上寺町道より右ハ
あり天台宗東嶺山ハ属を本尊千手觀音大士の像ハ惠心僧

都の作なり 襟懸の本 慈覚大師を兵山とせし云土俗傳へ云當寺昔
大和守頼朝卿ハ

今之牛込津門の辺ありと稱す 神楽坂中門の旧跡あり大永の兵亂堂塔
破壊せし頃のものといひ古き大般若經と秘藏せりと云昔門内左右小南天樹多

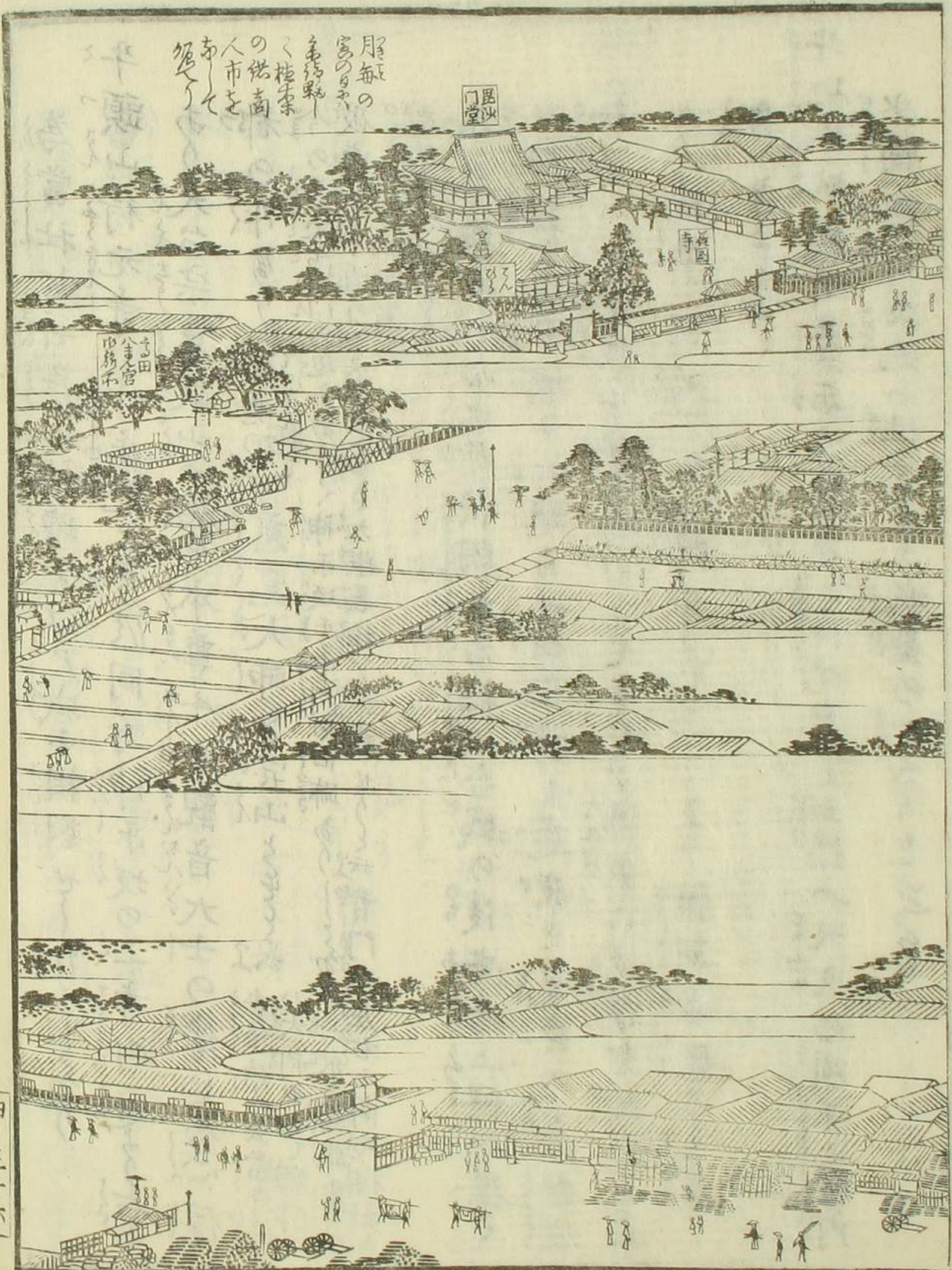
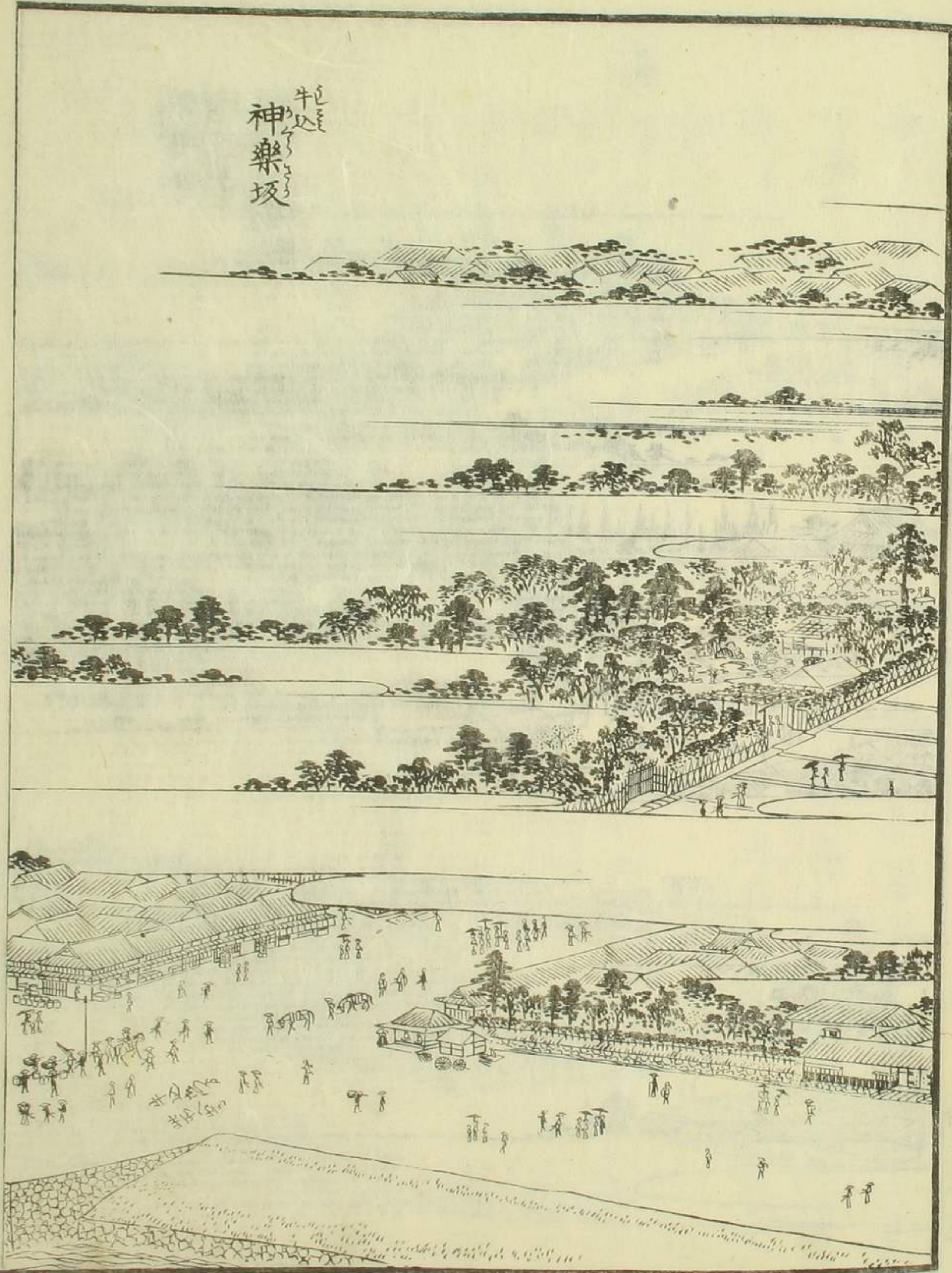
本尊縁起云右大将頼朝卿石橋山合戦の後安房上總を歴く
下徳國より此國ハ打越ゆり頃前ハ通夜をそ夜の夜ハ頼朝

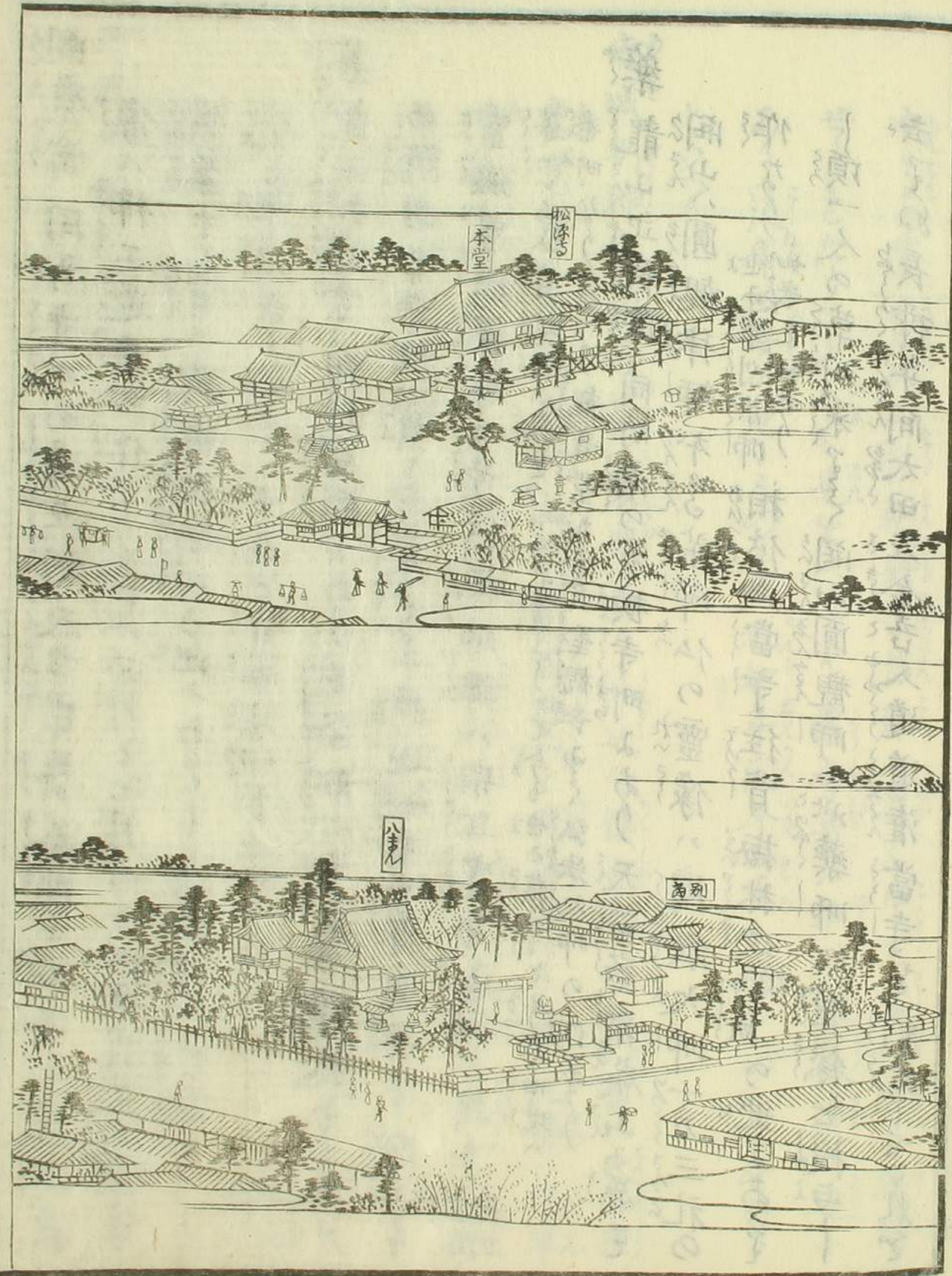
卿自ら此靈像を襟かけをまつり源家の武運を閑くと云
あハ後果しく天下を一統せられりより頼朝襟懸の像と

稱へきると云く

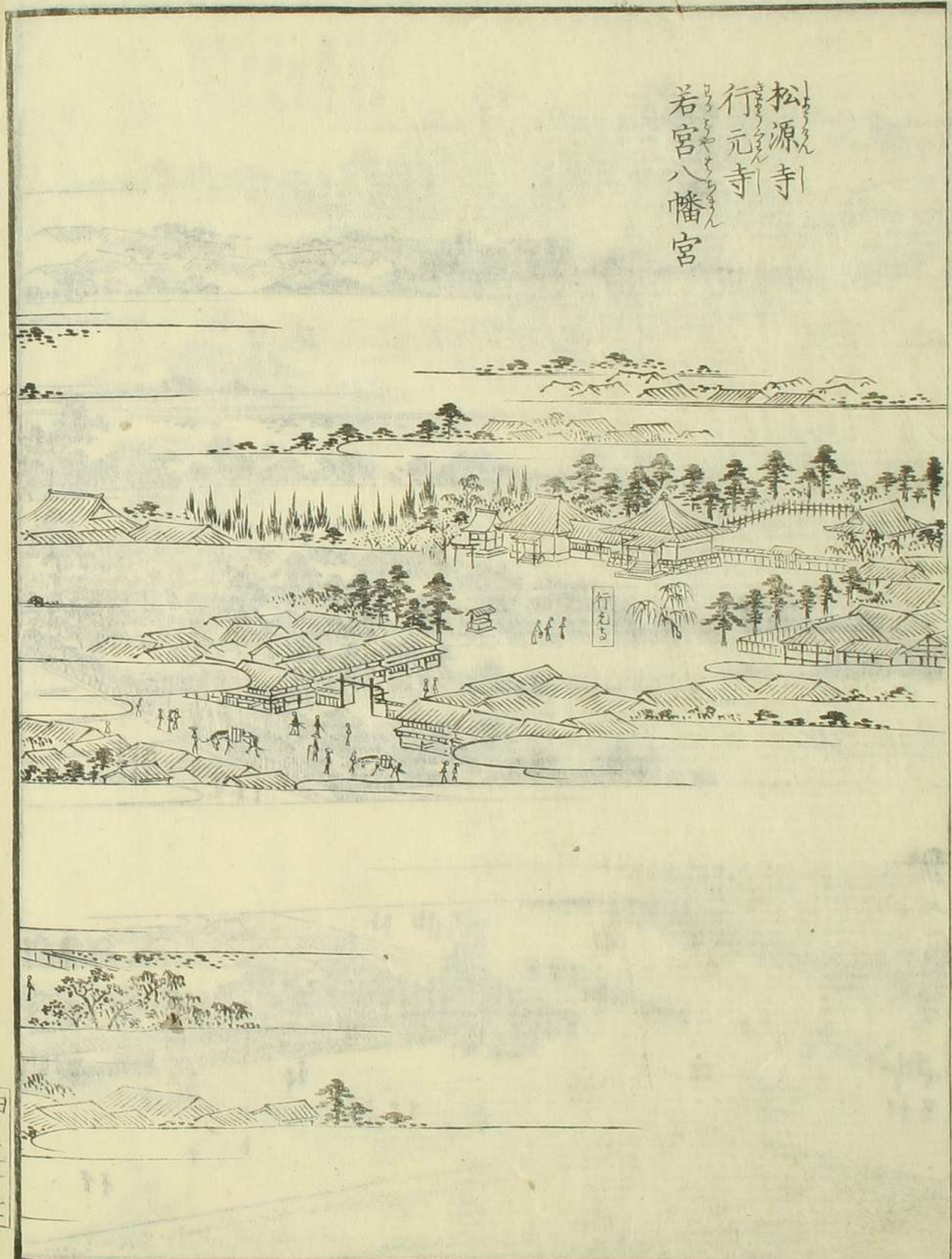
牛込城址 同所藁店の上の方舊田地ありと云傳ふ天文の頃牛込宮内

少輔勝行此地小住り城壘の跡ありといふ





松源寺
行元寺
若宮八幡宮



閻魔堂 同所寺町の通左側天台宗養善院小安置を閻王此
像ハ佛工運慶の作なりとのふ正月と七月の十六日ハ泰詣の輩
群集す昔ハ赤城内平川の地ハありとのふ以て傳へて証と
今も平川寺と号く中興と智導法印とのふ

蒼龍山松源寺 同所向側ハあり花洛妙心寺派の禪林ハして江戸
の觸頭四寺の一員とのふ本も小釋迦如来の像を安す岡山と

靈鑑普照禪師と号し禪師諱ハ宗立字を蓬山とのふ
蓬山とのふ昔境内ハ猿をつまきて置りて今も世ハ猿寺と号く旧地ハ
番町なりとのふ観音堂ハ聖觀音ハ弘法大師の作なり

藥龍山正藏院 同所南の方横寺町ハあり天台宗東嶺山小屬を
岡山ハ圓觀律師本も茶師ハの靈像ハ傳教大師一刀三礼の
作なり世ハ草刈茶師相傳ハ當寺往昔梅林坂内赤城の地ハあり

一人の草刈来りて岡山圓觀師ハ此藥師の靈像を授与し
去りぬ長祿年間太田左金吾入道道灌當寺を創建してこれを

本もとす 平後上杉朝興も信殊小厚く牛王宝印等を寄附
せしむたりとのふ今も是を傳へり當寺昔ハ平川梅林坂の辺ハ
あり後年田安の地よりつれ元和年間今の所ハ地をかへせらる

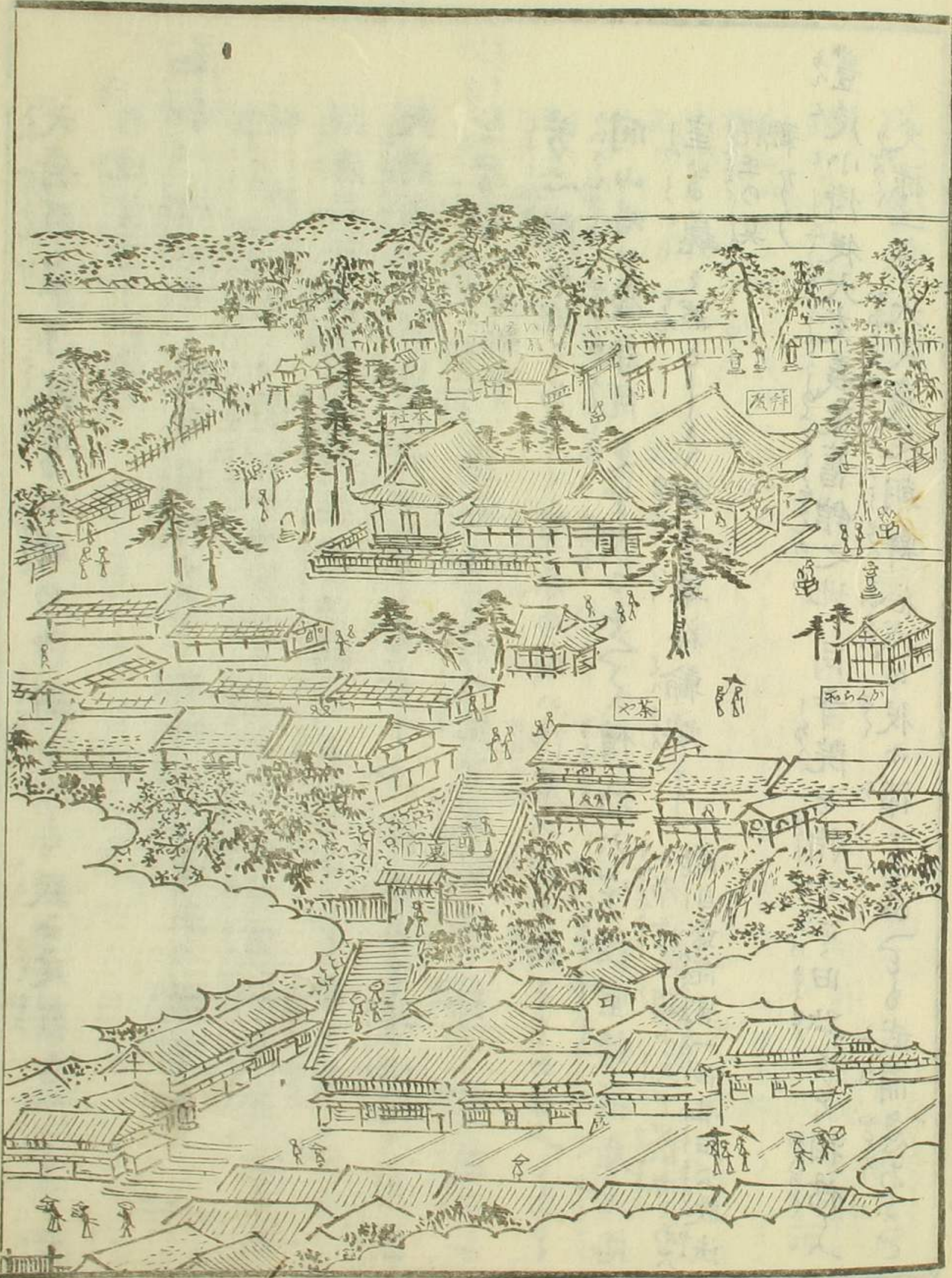
赤城明神社 同所北の裏通あり牛込の鎮守也と別當ハ天台宗
東覺寺と号し祭神上野國赤城山と同神也と本地佛ハ將軍

地藏と云往古大胡氏深く此御神を崇敬し始ハ領地ハ勸
請し近戸明神と稱す子孫重泰當國小移りて牛込ハ住せり

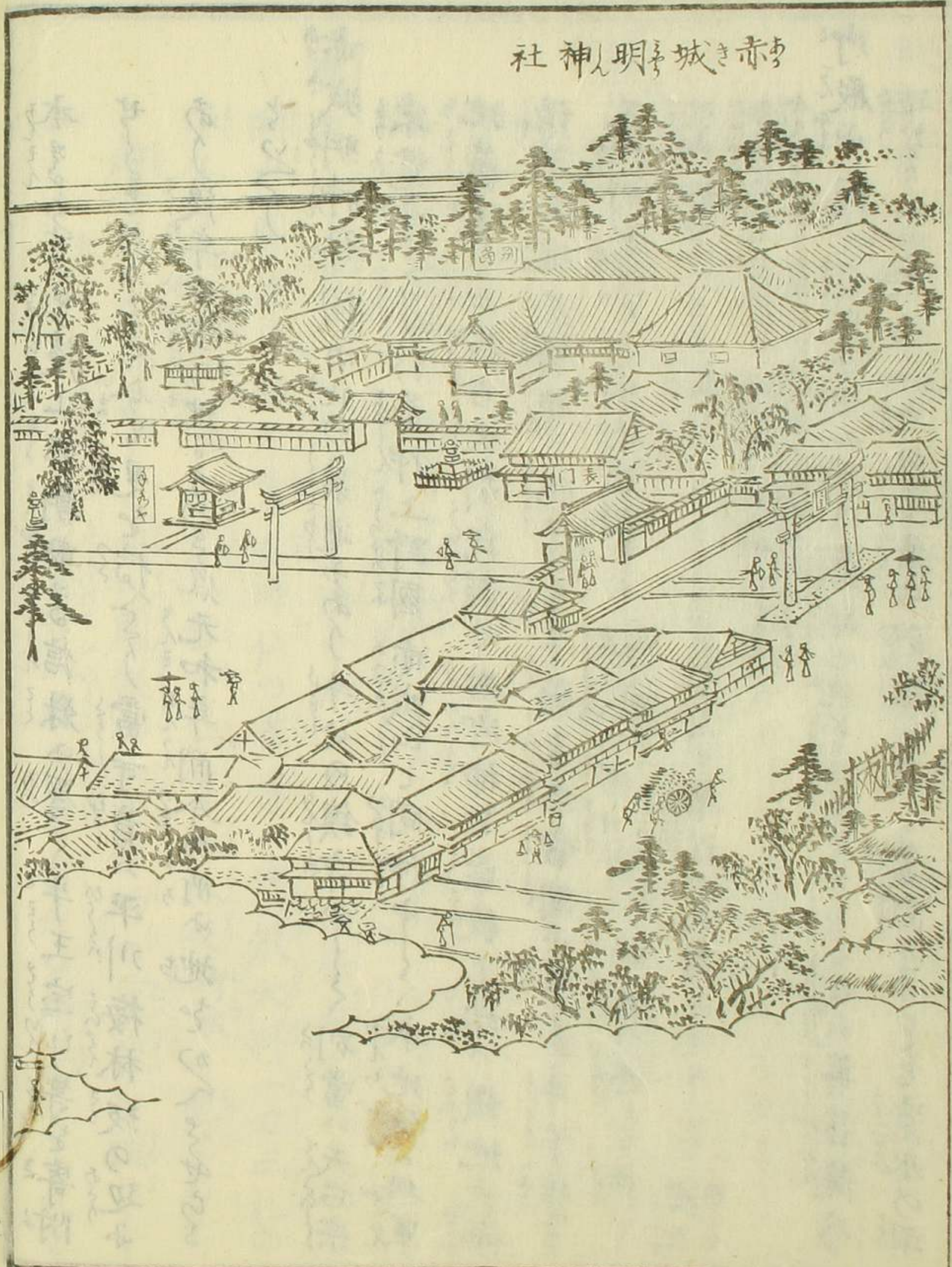
又大胡を改め牛込を氏と其居住の地ハ牛込祖先の志を継ぐ
此御神とて勸請なりとのふ祭礼ハ九月十九日なり當社始

勸請の地ハ目白の下關口領の田の中ハあり
今も此木立ありて是を赤城の森と云ふ

赤城山 同く東の方中山家の藩邸の地ハ旧址なりとのふ或云萬昌院乃
辺なりとのふ相傳ハ太田道灌の別館ありと舊跡なりとのふ寛永の頃



赤城神明社



大將軍家沙故鷹の時の沙儲とて假に建置あり沙殿の地なりとの事

陰涼山濟松寺 同所榎町あり京師妙心寺派の禪窟なり昔ハ

寺より輪番本尊釋迦如來を安も岡山ハ心印正傳禪師開基ハ素

心尼なり此尼ハ牧野兵部少輔政玄の女也て春日局と共ハ

大將軍家昵近の侍女なり當寺ハ沙佛殿あり芳心院ハ別當

を務む此寺ハ芳心尼ハ沙佛殿の前の池を鳳凰池と號く靈龜水

芳心院の地はありて寛永の頃ハ沙茶の水ハ掬てありてあり

開山塔ハ養春院是を預るまて僧坊六宇徑堂鐘樓庫裡浴

室等巍々然とて軒を連綿輪煥とて三佛堂の額ハ天下陰涼とあり

豐後小侍從大友義延舊館之地 同寺院を指く其旧跡とて相傳入

文祿二年大友義延朝鮮征伐の役ハ補まるとも武備急ありと

以て豊臣大岡罪て當國へ遷り此地ハ藝居せしむ此地即其旧

跡なりとの事 南向茶話云大友左兵衛督義統文祿年間朝鮮征伐の役ハ

義延此地ハ住む義延ハ從四位下叙一侍從小任をゆゑハ豊後小侍從と稱し

慶長五年関原一戰の後常州筑波郡小敷に於て三千五百石の地を賜はる

早世も又江戸鹿子とて草紙ハ義乘とて其後大橋立慶此地ハ居住せし

望海海邊に於ての事實を記せし次ハ沙祐筆大橋

高田天満宮の祠ありとて記せり

大友松 同所天神町の東ハ續きて沙持筒組高野氏の地ハありと云

昔大友義延ハ別荘の庭前の松ありとて其後同祿小亡ひりて

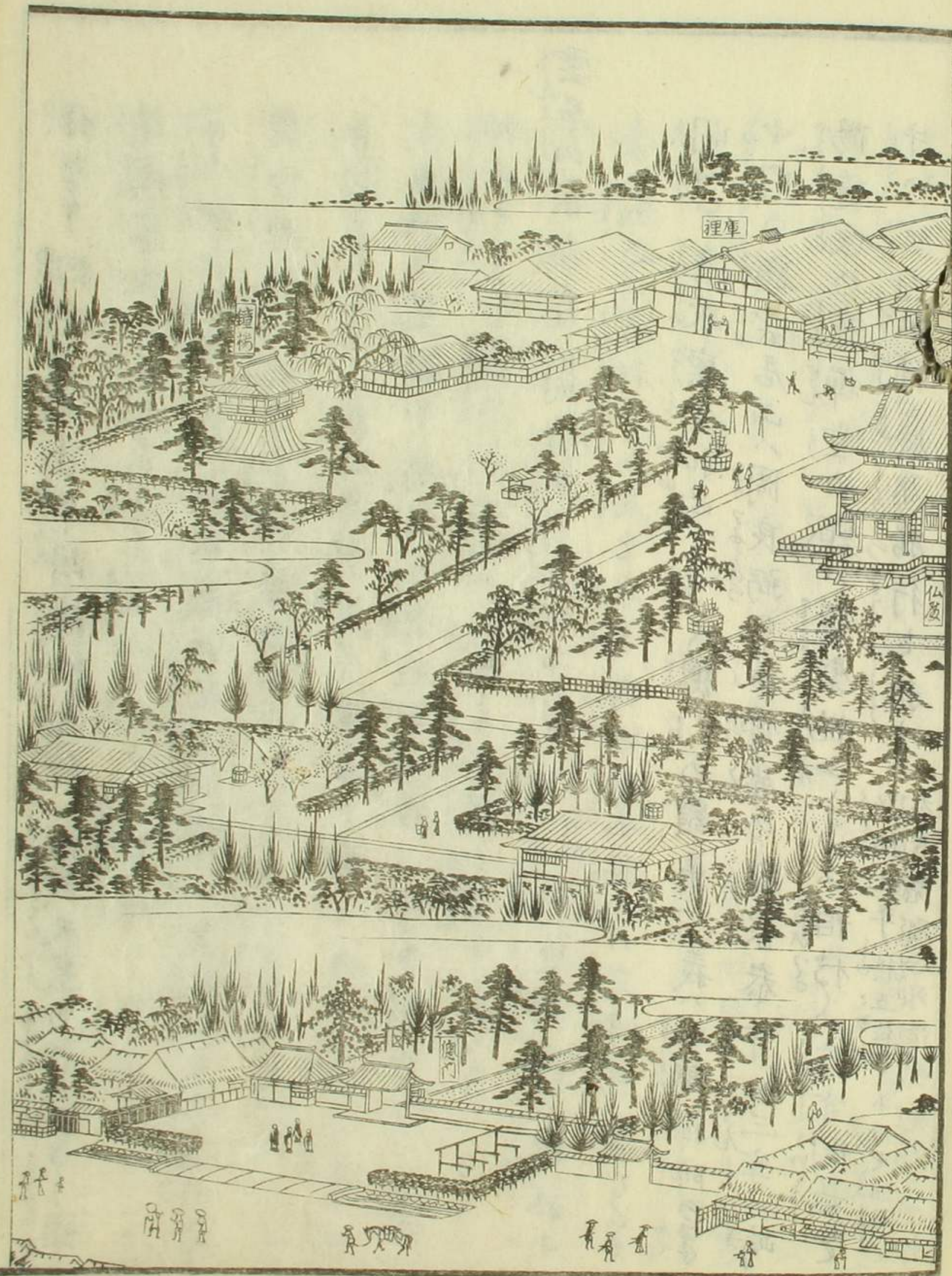
其地の主田跡を失ひむを歎き若木を栽られりとの事 或人云

家の傳説ハ大友宗五郎義延武州へ遷り頃從ひ來りて其家百吉良傳

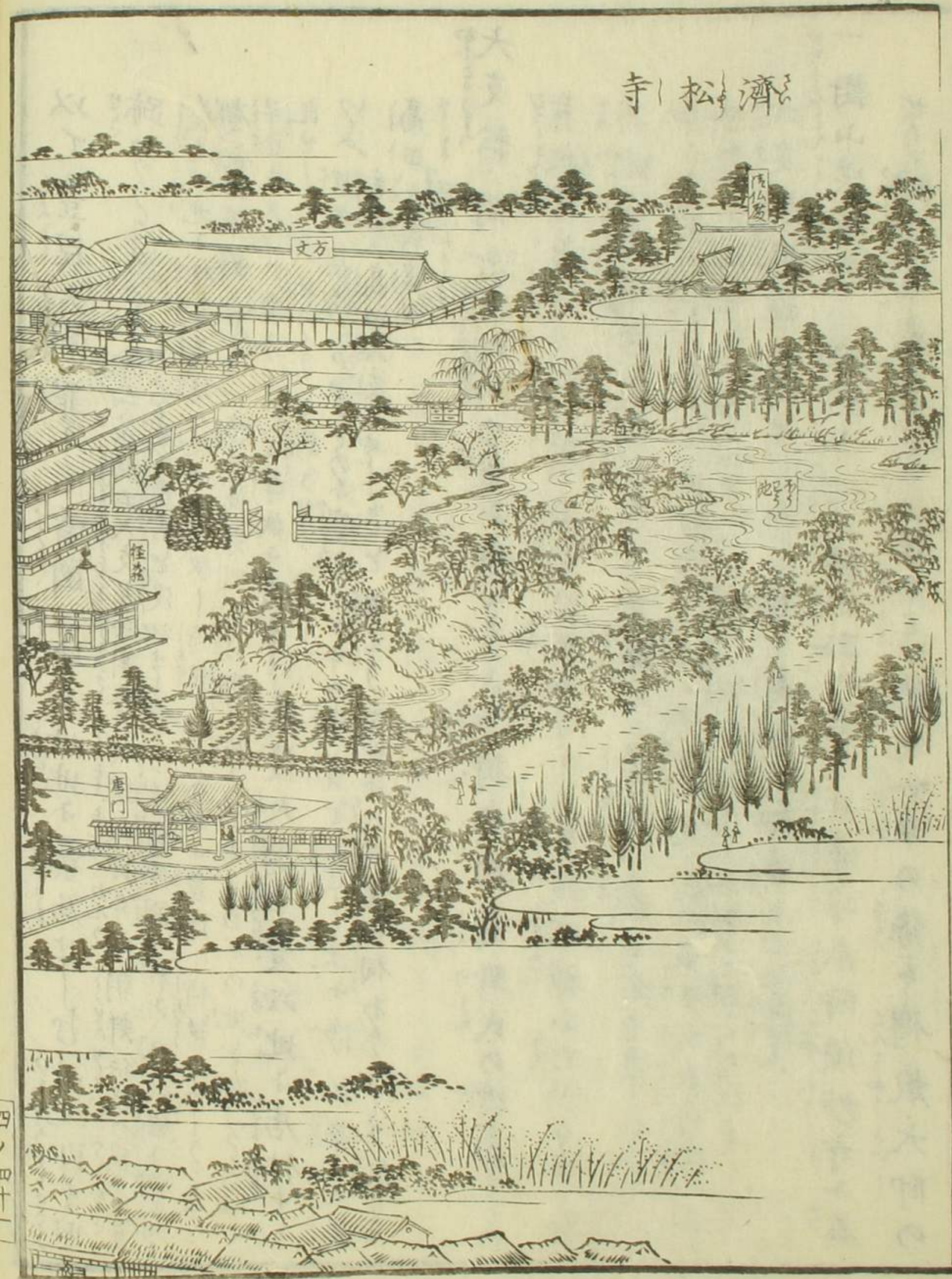
大友稻荷祠 同所ありて是も義延の勸請といひ傳ふ

一樹山宗拍寺 濟松寺向の横小路あり日蓮宗京師頂妙寺ハ屬

せり岡山ハ日意上人と号し本尊釋迦如來の像を傳教大師の



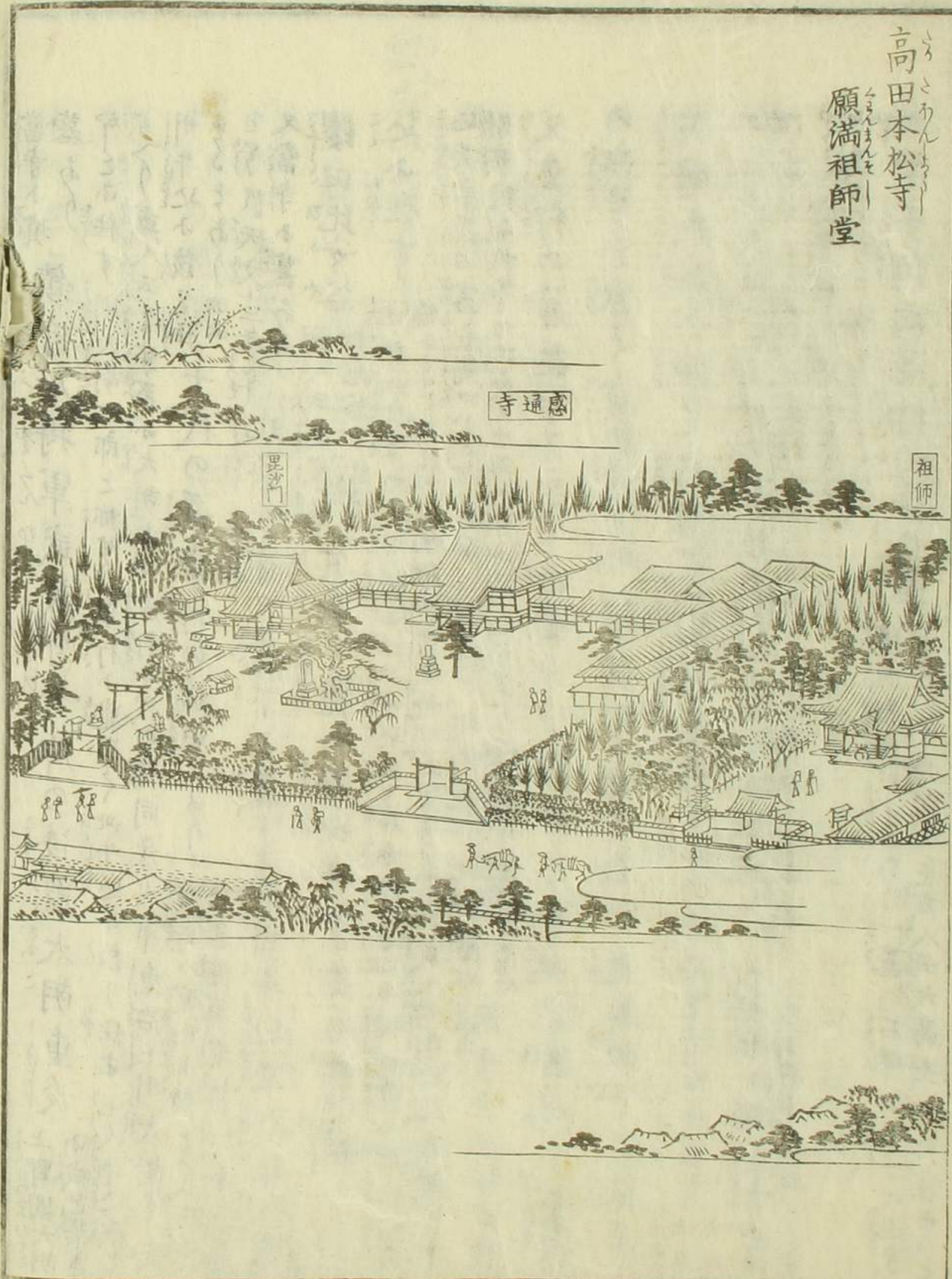
濟松寺



作なり相傳ふ延暦年間傳教大師桓武天皇の詔を以り鎮
護國家除災延命の爲ふ巖山に於て此靈像を彫造ありしと
なり然る元龜二年辛未織田信長公巖山を放火せし時仏閣
僧坊悉く灰燼す其時護持の人ありて此本尊を以り取寄りて
恙なくしと後水尾帝深く佛來り歸りしを以り是を拜
し又宸翰を賜ひて釋迦牟尼佛の号を添えり日意
師此本尊を感得し當寺を闢く安置ししと云々
雲居山宗恭寺 同所辨財天町あり
此地を土俗 曹洞派の禪林小
して駒込の吉祥寺に属す本尊釋迦如来脇士ハ文殊普賢なり
岡山と看采稟岡和尚と号く徳門の額弟一義ハ心越禪師の字
中門の額雲居山ハ岡良弼の書佛殿の額宗恭寺の三字ハ崎
陽道采の書禪堂の額ハ黄檗悦山との相傳ふ當寺開基を
牛込宮内少輔藤原勝行と稱す
弘治元年徳五位下小住を法名を
參秀院殿心外清雲庵主と号す
四ノ四十二

當寺小墳 鎮守府將軍武蔵守秀郷の後胤大胡重俊 上野國大胡
墓あり 鎮守府將軍武蔵守秀郷の後胤大胡重俊 上野國大胡
かこ住す則大胡太郎と稱せり重行小建ひて此牛込に移り住す土人牛込殿と
より或人云家系ハ大胡太郎成行十代の孫同彦次郎重治上州大胡より武
州牛込に移り住す 十代の孫重行の嫡男なり 重行ハ宮内少輔と云々
と別天文十二年卒 北条氏康の麾下屬し武州牛込及今井前坂の
又當寺小墓あり 北条氏康の麾下屬し武州牛込及今井前坂の
櫻田比々谷 或人云其家系 其余下徳の堀切千葉等の地を領し牛
込小住す 永祿北条家の分限帳ハ江戸牛込比々谷本郷葛西の堀切等の地大胡氏
込其餘高田落合関口小日向富塚小石川の金杉市谷田安櫻田
朝草同金杉寺の地名を所領の中注し加せり按朝草淺草と云々 天文十三年甲辰
父重行の菩提を吊りて當寺を創建し寺田を寄附し父重行
の法号を採りて寺の号ハ呼へり同二十四年乙卯從五位下小任す
其時氏康も告く大胡を改め其采邑の名の牛込とて氏とを 天正
年北条氏滅亡の後勝行の子勝重天正十九年辛卯始て 大神君小講し後
伊幕下より或人云勝行の子ハ俊重といふ慶長十五年始て三代大將軍を拜し
兩儀のつとめ是なり
大胡重行同勝行父子之墓 境内卯塔の中あり一基の石碑ハ父子の法号
ありしを刻せり或人云大高季明の書ありと

高田本松寺
願満祖師堂



三神山千手院 同所七軒寺町あり 真言宗 洞山ハ舜倚法印と
号を本尊千手観音の像ハ身長八寸九分脇士多門持國の二
天サハ赤梅檀ゆゑ 毘首羯磨天の作なりと云々 相傳ふ往古
越後國安巨山ハありて 天正年間豊大洞秀吉公柴田勝家と
戦ふ及んで蒲生氏郷の臣殿池玄蕃といふ人是を感得を既
申して元和年間蒲生家敗壞の後殿池ハ下總國佐倉の城主
堀田家は仕ふ故ありて 富永氏某傳來ハ後當寺ハ安置
しりといふ事

正定山幸國寺 同所原町あり 日蓮宗 小湊の誕生寺ハ属を
洞山を日觀上人と号し當寺ハ安置の日蓮大士の像ハ世ハ布引の
御影と稱せり傳云文永七年庚午宗祖大士鎌倉ハ在リ 項房總
の國郡数月疫癘流行せりこゝに於て人民大士ハ救を求む乃大士

の國郡数月疫癘流行せりこゝに於て人民大士ハ救を求む乃大士

若菜島
神明宮

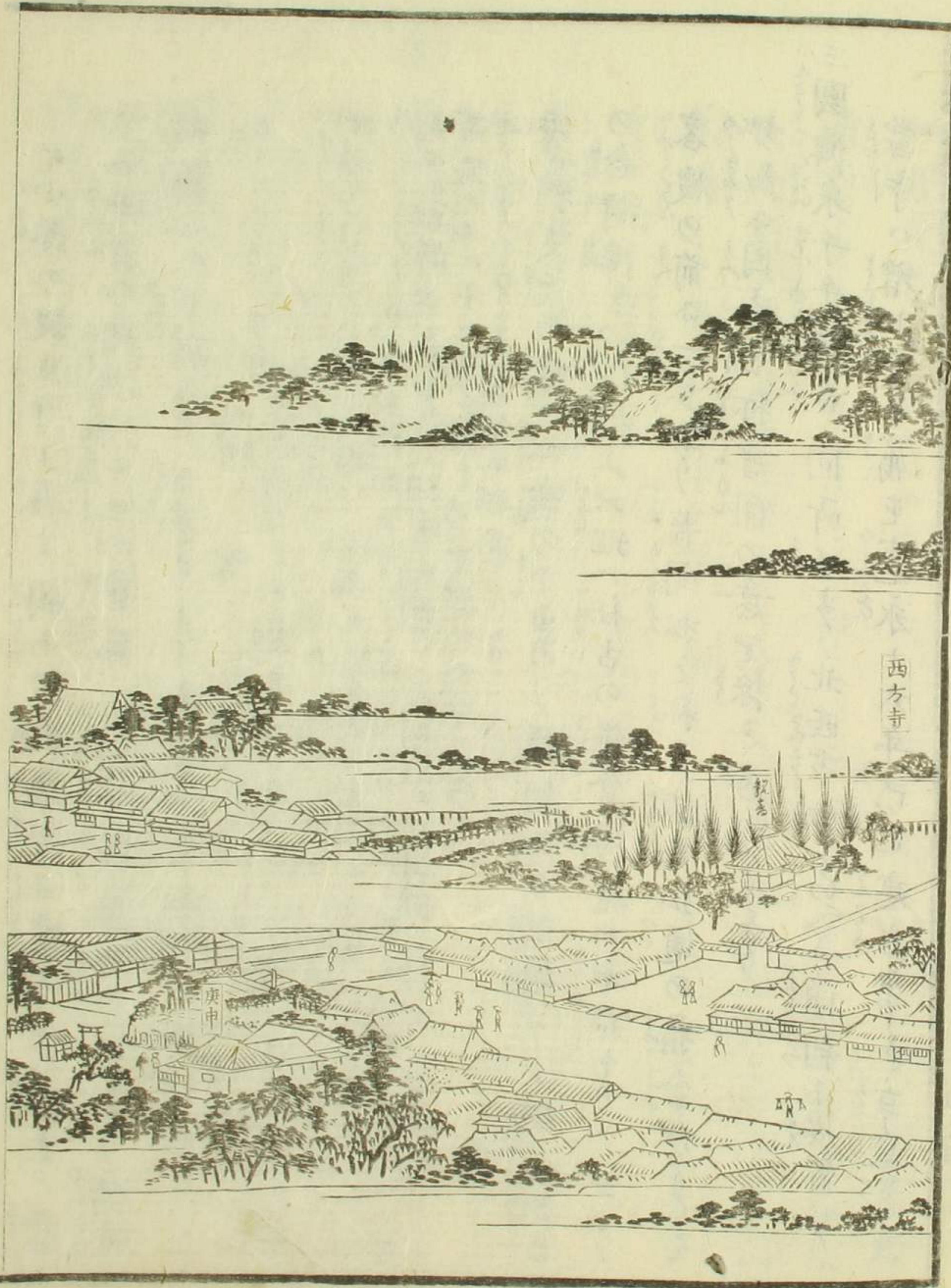


佛工をしく自の像を造りし白布に経題を書きて手
 掛をひ嘱して曰く則是日蓮なりと云く依り此靈像を其地
 移すに疫疾の患へ頓に退きしを故に此靈像を小湊の誕生
 寺に安置したり又宗門流布の爲寛永七年庚午二月
 十六日當寺に移しまぬるはと云り當寺に加藤肥後守清正
 の閑基ゆて宗祖の靈像に寒暖に應じ衣服を改むるに
 池上小同しきとのみ 故あり其衣服八年
 阿部氏某調進すあり

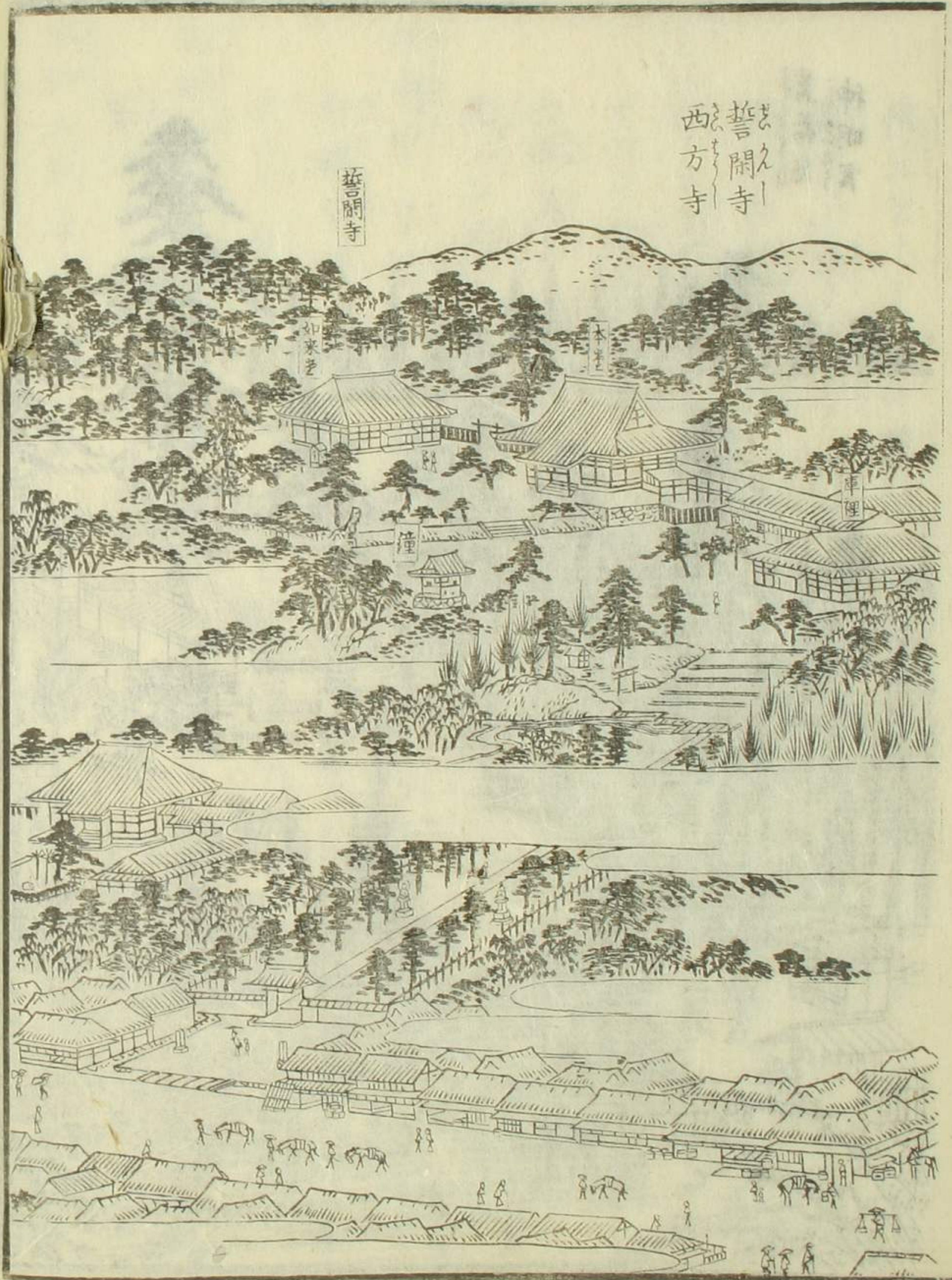
神明宮 早稲田大田圃にあり 祭神 天照春日八幡三座あり 同所
 赤城明神の別當等覺寺より兼帯を祭礼に九月十六日あり 鎮
 座の年歴詳あり 天和二年同所榎町より移すも今大所番
 榎林氏某の宅地ハ旧地あり

赤城明神舊地 同所田畔小川に傍てあり 大胡氏初に赤城明神と
 勸請せし地なり 故に祭礼の日ハ神輿を此地に渡し まぬるは

本妙山感通寺 高田穴八幡の馬場下南の坂上より日蓮宗に



西方寺



誓開寺
西方寺

誓開寺

小湊の誕生寺は属す開山を寂陽院日建上人と号す當
寺は安置の毘沙門天王の靈像は行基菩薩の作なり越後
國高田の日朝寺は安置せしを越後以將 忠禪の淨母君と号す
遷しありあり 日蓮上人傳ふに宗祖上人弘むる所の法華經の功德を
祖大士と導く寺僧吉祥是を奇と直ふ大士の法化は淨土の穢れぬ
高田の日朝寺にあり上杉謙信深くこの靈像を敬し家小相傳せし
謙信天正六年平を依り後奥州米澤の城に
遷しありありと當寺は安置せしとあり
摩利支天の像は松樹の下あり頼朝卿の勸請なり頼義朝臣
の念持佛といひは此れ此地は往古の鎌倉海道の旧跡ありといり
客殿の前は一松あり普聞松と稱し法花弘通の精舎なりと
妙經は因る名稱普聞の意を採る名つとあり
三國傳來千手觀音 同所坂より北西方寺といへる淨刹は安置せり
當寺は増上寺は属す寛永十六年己巳建立なり亨譽貞義

和尚開山より相傳ふ往古弘法大師唐土青龍寺の惠果阿
闍梨より授与せられし中印土の靈佛ありといり大師帰朝の
後高野山の塔安置ありしを彼山麓に住る流水といへる沙門
感得し武州浅草に移しありし故ありし開山貞義和尚當
寺は遷しせしなり故に三國傳來の稱ありといへる
自樂居士墓 境内即塔の地あり備前國の産中より既百十
四歳なり常小壯年の人の如く見ゆ文字を書きしを傳へり
一衆人のをいふありし百歳の項より壽の一字を學ひぬる是を依り書て
人小与へしとなり宝曆三年癸酉十二月三日没す
龜鶴山誓願寺 同北隣る易行院と号し淨土宗中より靈巖寺
小属を本より五智如来の像は各長八尺開山水食本誓上人秋風誓願
和尚の作なり常念佛の道場なり清淨無塵の佛域なり當
寺昔は少の庵室なり其前小松樹四株を植る方位を定めて
方松庵といひるを今四五十歩南の方道と隔て向ふの側は
庚申堂あり是則昔の方松庵の地なり



高田八幡宮

世に穴八まん

古輪法

稻荷祠

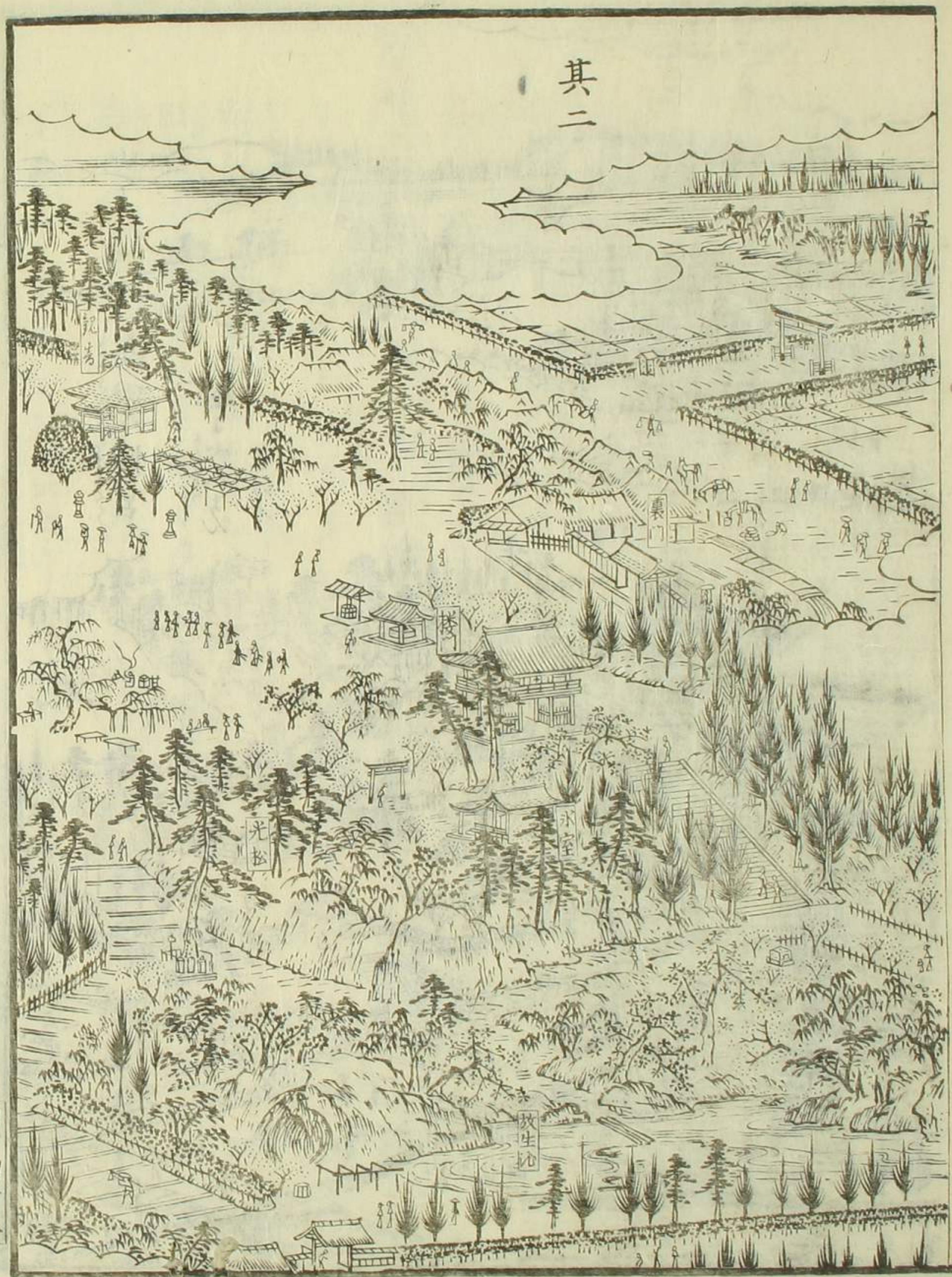
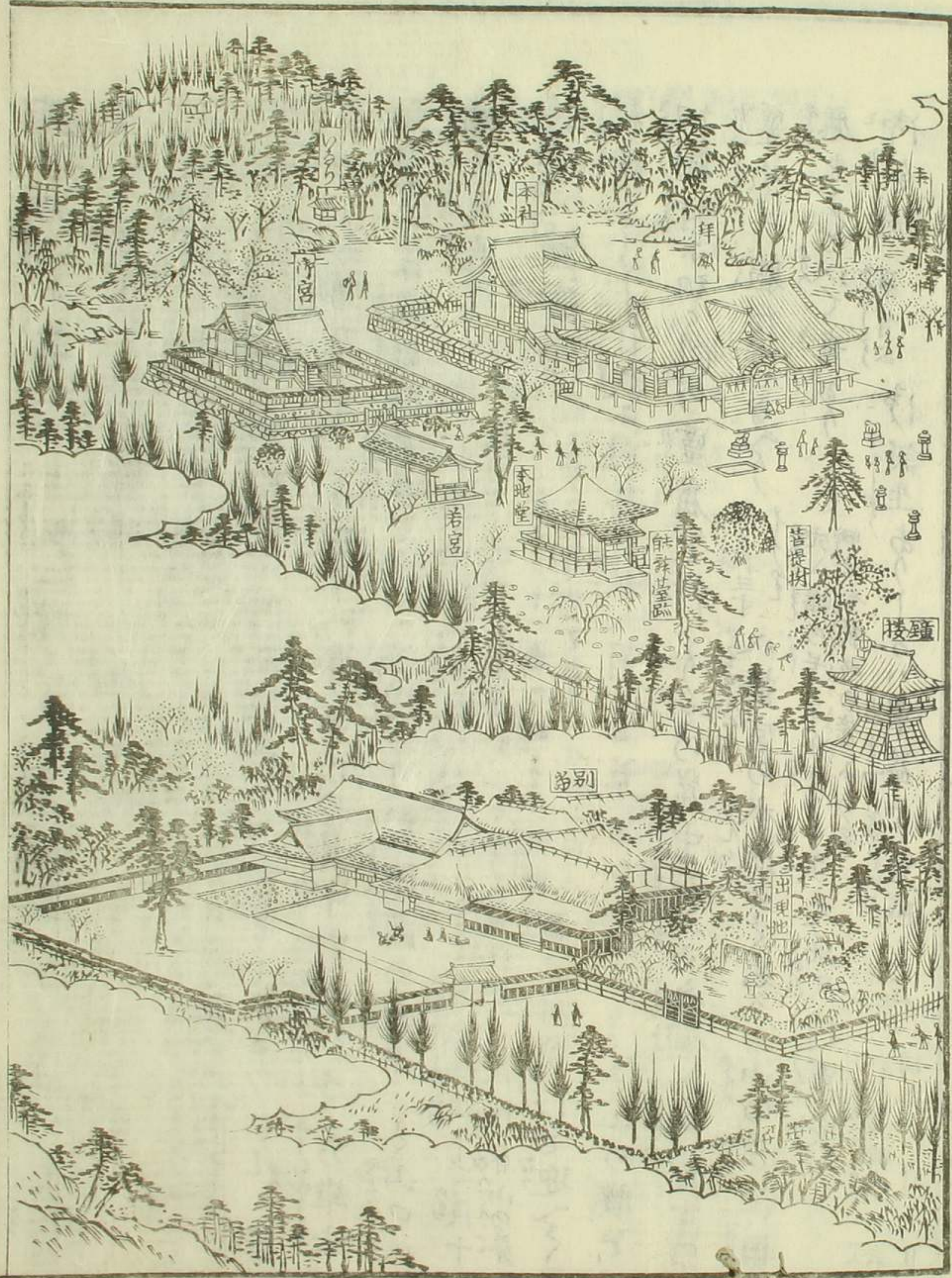
境内あり岡山誓願和尚ハまつくら仏像と作りしを得て常々吹草と
 吹草祭をなせしとあり今も垂枝櫻本堂の前あり菊岡赤くしゆるあはれ櫻
 その余風を年々とりあり
 たゞこれ小溝の流をとりて豊島郡と荏原郡
 の堺とも當寺鐘の銘をとりてを築し

金川

同所穴八幡の前を早稲田の方へ流る小川と云とあり
 水源八戸山御庭中より發するあり文明年間太田道灌遊獵の
 時急雨小逢ハ此地中々昔ハ川の幅も廣くありとあり
 奈川又加能川とも稱するあり

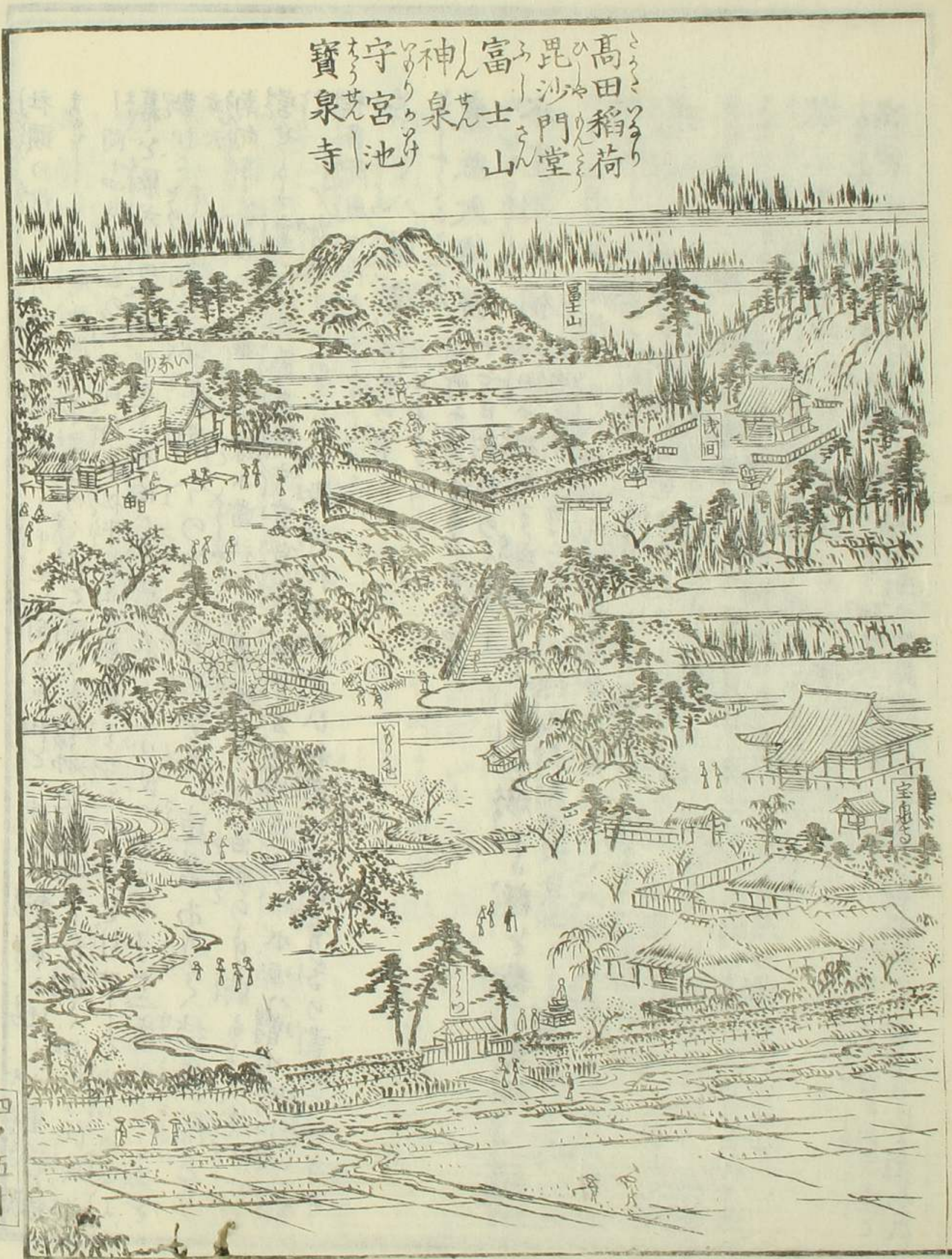
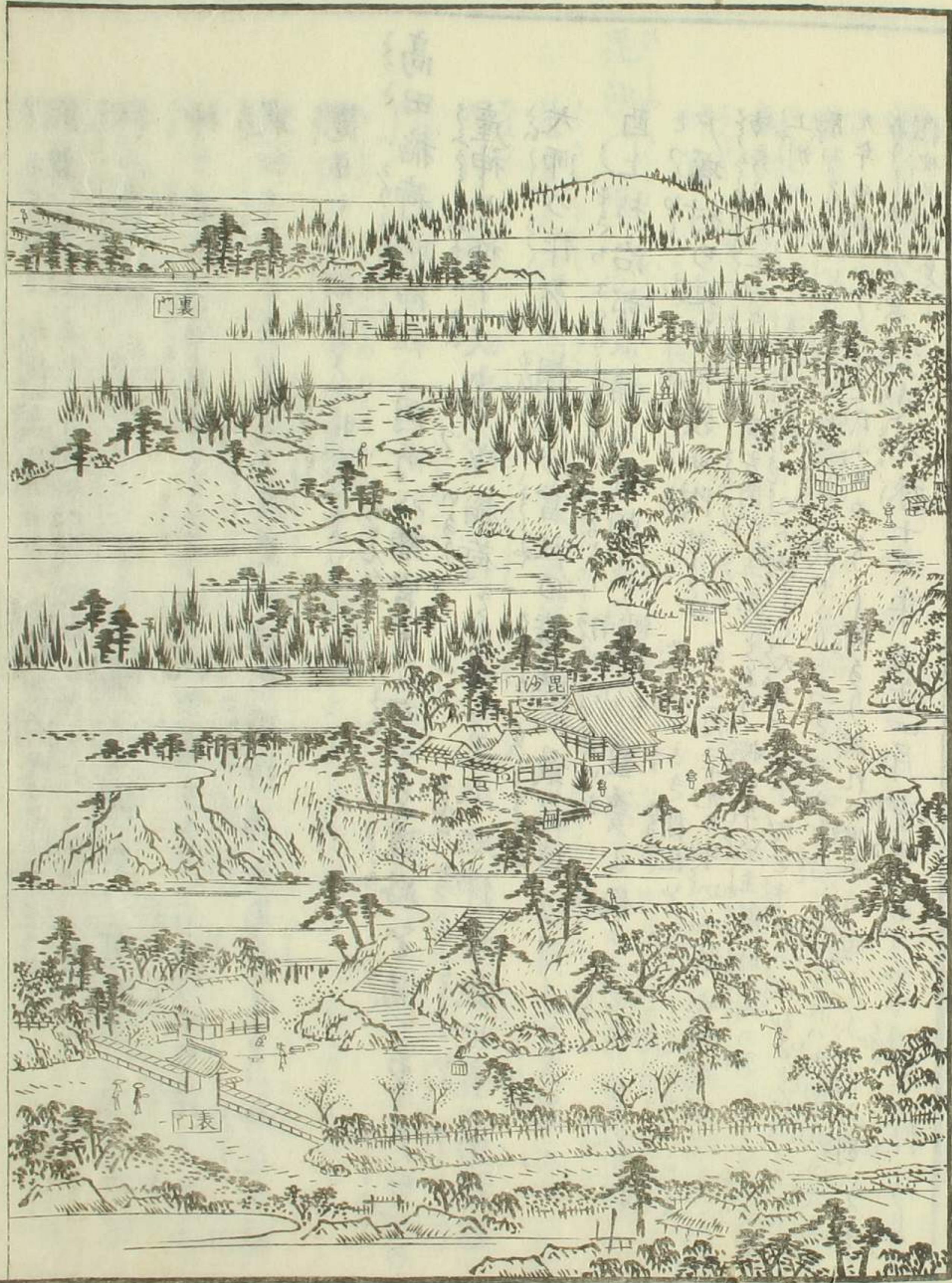
高田八幡宮

牛込の總鎮守中々高田あり
 と云別當ハ真言宗中々光松山放生會寺と号
 たり祭礼ハ八月十五日中放生會あり
 旅所ハ牛込神楽坂の中腹より
 社記云寛永十三年丙子涉弓隊の長松平新五左衛門尉源直次ハ
 與力の輩射術練習の爲此地ハ的山を築立らる八幡宮ハ源家の
 宗廟中々弓箭の守護神あれはとて此地ハ勸請せんを



謀る此山小素より古松二株あり至頃山鳩来つ日小此松の
枝上遊ふを以て靈瑞と假八幡大神の小祠を營々々々
件の松樹を神木とす南向亭云く此地八幡早稲田邑の地中島との此地は
靑柳津六兵衛と云ふ富民あり往古北条家小仕へ
所以を告知者なるを同十八年辛巳の夏中野室仙寺秀雄法
印の會下威盛院良昌と云ふ沙門あり周防國の産中々山口八
幡の氏人なり知くく毛利家の侍檀本氏某小仕へ檀本氏没後十
九歳の年道世と高野山小登室性院の法印春山の弟
刊とあり一紀の行法と云ふ三十一歳の時より諸國依く此沙門を迎へ
修行の志を遂げ同さめく奇持とありハセリと云ふ
社僧と云ふ故小同年の秋八月三日草庵を結んと山の腰を
切開時小む川の靈窟を得りその窟中石上小金銅の阿弥陀の
靈像一軀たせあり伊長寺 八幡宮の本此ゆきあり山号に相
應をもとて以て奇ありと云ふ 穴八幡の号小起まり其 又此日將軍家
此址今橋坂の傍小あり
伊令嗣 嚴有公 伊誕生あり 八衆益を靈威を志す
江戶名所記小云 同年八月九日

社頭の麓一町四方小張り地を隔き本社を八神木の松の本小延ハ重垣を結
まじりり時加州大守教百の歩を贈り地を築固やむ依く日ハ成流
同十四日進宮の式を執り新五左衛門尉平新五左衛門尉子十二歳ハ是を
幕を張式正の小的を建神射法を執り小此の阿某子十二歳ハ是を
勤むと云ふ元禄年間今のめく宮居を造営あり結構備あり
南向亭茶話嚴有公殊小當社を崇敬あり伊宿願のり満ありの後當社
營せ東門ハ内藤豊前守普賢堂ハ松平左近將監伊手水垣ハ増山兵部以捕
等これと寄進すあり又江府神社略記及ハ和漢三才圖會等の書小元禄年中
榊昌院殿ハ再興ありと云ふ
若宮八幡宮 本社の前 左小あり
東照大権現 同所小並つせめハ毎年四月
氷室明神祠 本社小相對す盛徳とハ二字を彫る額を掲ぐ祭神大己貴命
三年正月二日金澤の住人渡辺氏見善靈夢の應あり此神を祭る直良此神小
祈願ハ平愈也同七年の頃始て中鎮座せしむと云ふ
光松 別當寺と本社との間坂の支路ハあり昔の松ハ延享年間小枯る今
中々又寛永十三年始て當社ハ幡宮御請の項此樹上ハ山鳩来り遊びと云云
放生池 石階の下あり山の腰より清泉あり清泉ありと云ふ
出現所 坂の半腰絶壁小あり往古の靈窟の旧址なり近頃追り地小出現堂と
登け九品佛の中下品上生の阿弥陀の像を安置せ堂宇あり今ハ



能舞臺址 本社左の方あり今礎を存するの寛延三年
庚午三月觀世大夫一代能と與行せし跡ありとのふ

抑當社の別當寺を光松山と號すも神木の奇特ありてあり

神と君との道直中々治る伊代の濁りあり石清水の清き誓ひ

寂ももくを思ひける殊更元祿の頃伊再與ありしより和光の神

徳日く小顯まき昭然たり

高田稻荷明神社 同所八幡宮より右の方道路を隔てあり戸塚村の

産神と稱す故小戸塚稻荷とも呼べり本地佛聖觀世音八南都徳一

大師の作あり相傳ふ當社の権輿ハ最久遠なりし文龜元年辛

酉上杉治部少輔入道朝良 南向亭 靈夢は依る宮居を再興し
朝興と

戸塚村の地と社領小附せり 當社古き棟札を蔵せり文小云々天文十九
年二月二十九日牛込主膳時國再與別當宝泉

坊秀室大工与左衛門同左衛門五郎とあり
上州大明氏の後裔武州牛込住し天正二十四年氏を牛込小改むるの考へす
系あり牛込宗義の傳記に載せりよりの時代を合せ考へれば大明氏天文十
九年の頃ハ牛込氏小改めりし時あり然れハ此小時國とのハ自ら別の入あり
據他日証正史一

靈泉涌出す眼疾を患ふる者此靈水を以て洗ふと一々奇

驗あり仍土俗當社とて水稻荷とも稱せり毎年二月初午日

奉射あり祭祀ハ九月九日なり

神泉 社前榎の控より
より泉ありと云ふ

毘沙門堂 同境内小高き丘の上あり本多毘沙門天王の靈像を

慈覺大師の作ゆ武藏守藤原秀郷の念持佛ありと云ふ

相傳ふ慈覺大師江州唐崎の濱小至りし川の笛を拾ひ得あり

内小長一寸八分の多門天の靈像あり大師隨喜し自是を念

持佛とす仁壽年間田里下野國小下り佐野の大慈寺小入りあり

長二尺五寸の多門天像を彫刻あり先の靈像を胎中小菴に

まぬせ大慈寺小安置ありと天慶中武藏守秀郷平将門を征

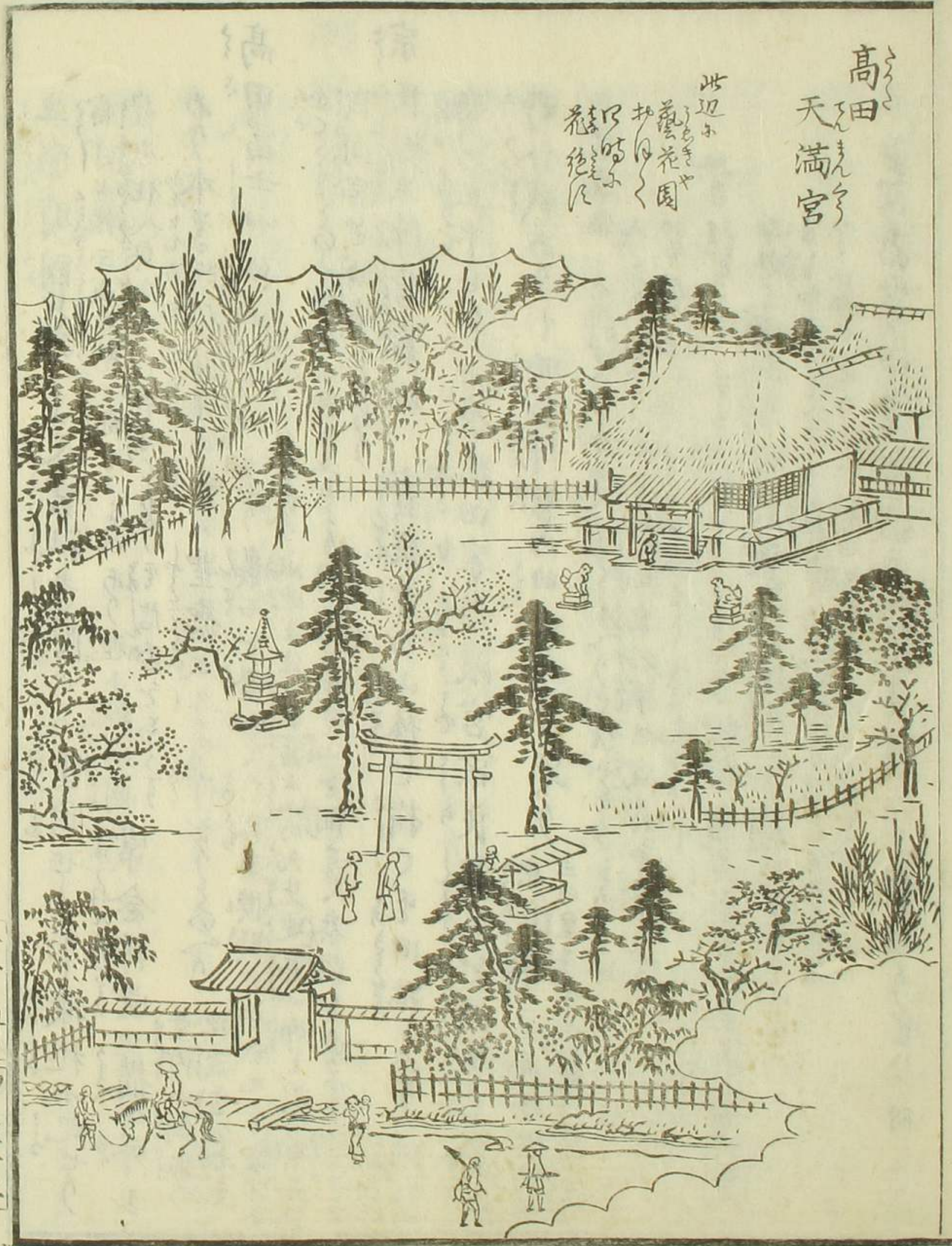
伐の後此地に移しとあり 紫の一本と云ふ冊子小秀郷將門を退治せ
この時深く毘沙門天を念し

毘沙門天境の上小現ありとあり拜殿小掲る所の多聞天の額ハ長崎

模し彫むとあり寺は不異なり

高田
天満宮

此辺
花園
花
徳
徳



早稲田大学図書館

011688984930